

年会報

2073

進もう未来へ、繋ごう想いを
～すべてはこの^{ま ち}地域のために～

一般社団法人 一宮青年会議所



「一年間を振り返って」

第 60 代理事長

木村 憲彦

進もう未来へ、繋ごう想いを ～すべてはこの地域(まち)のために～

【はじめに】

まずは、本年 1 年間、活動をともにした一宮青年会議所のすべてのメンバーの皆様にご心から御礼を申し上げます。青年会議所活動は、改めて言うまでもなく、決して理事長のためにあるものではありませんが、メンバーの皆様のお支えがなければ、理事長職を最後まで全うすることはできなかったことに疑いの余地はありません。この 1 年間、皆様からいただきました大きなお支えに重ねて感謝申し上げます。

さらには、私たちの本年の活動に対しまして、関係諸団体並びに先輩の皆様、そして地域の皆様からも深いご理解と多大なるご支援を賜りました。この場をお借りいたしまして、一宮青年会議所のメンバーを代表し、心より厚く御礼を申し上げます。

本年の一宮青年会議所は、「進もう未来へ、繋ごう想いを ～すべてはこの地域(まち)のために～」をスローガンに掲げ、ひとを愛し、まちを愛することで地域の未来と真剣に向き合い、「すべてはこの地域(まち)のために」という純粋な気持ちを原動力として、様々な活動に取り組んでまいりました。

そんな 2013 年度の一宮青年会議所の歩みを私の目から振り返ってみたいと思います。

【専務室】

本年の専務室は、事務局と渉外委員会の 1 局 1 委員会という形で構成し、副理事長兼専務理事として横田公一君にご担当をいただきました。

専務理事を務めていただいた横田専務は、まさに「希代の専務」でありました。私が理事長を務めることができたのも、横田専務の存在があつてのことです。その圧倒的な存在感と説得力は誰もが認めるところであり、厳しさと包容力を兼ね備えた運営で、常に正しい道へと組織を導いていただきました。また、「西尾張における一宮青年会議所」、「愛知ブロックにおける一宮青年会議所」という立場を大切にすることに誰よりも心を砕き、「一宮青年会議所の良心」として、一宮青年会議所が一宮青年会議所であり続けるための LOM づくりに惜しみない力を注いでいただきました。横田専務には、感謝してもしきれません。1 年間、本当にありがとうございました。

事務局長を務めていただいた服部良太君には、「事務局長像を変える」という難題に挑戦していただきました。この 1 年を通して、例外なく議案締め切りの遵守を徹底していただき、理事会での的確な質問や意見は、各委員長を指導、助言する立場として相応しいものでありました。また、事務局次長を務めていただいた塚本浩成君と吉田悟君とともに円滑な理事会運営にご尽力いただき、すべての理事会において無駄のない真剣な議論を尽くすことができたのも、事務局の皆様のお陰です。1 年間、本当にありがとうございました。

渉外委員会の委員長を務めていただいた坂井田純子君には、「おもてなしの心」、「思いやり」という言葉に一切の嘘偽りのない渉外活動を実践していただきました。坂井田委員長が残した足跡は、今後の渉外委員長の指針となっていくことでしょう。ご担当いただきました 2 月度例会でも、名古屋会議に合わせた開催とすることで、様々な面で調整が難しい部分もあったと思いますが、渉外委員会の皆様が出向者支援を大切に思う気持ちがヒシヒシと伝わる例会を開催していただきました。また、各種大会・事業・会議においても例年以上の参加者を募っていただいた

うえに、様々に趣向を凝らした設えでメンバーを迎えていただいたことはもちろん、何よりも各種大会・事業・会議に参加することの本質を追究していただきました。本年の一宮青年会議所が良い雰囲気の中で活動することができたのは、渉外委員会の皆様の献身的な渉外活動によるものに間違いありません。1 年間、本当にありがとうございました。

【総務室】

本年の総務室は、総務・広報委員会の 1 委員会という形で構成し、副理事長兼総務室長として野杵晃充君にご担当をいただきました。

野杵副理事長は、その類まれなる決断の速さの中にある慎重さと変化を恐れない姿勢で様々に新たな仕組みを取り入れ、活動のベースとなる組織の地盤強化を実現していただきました。また、難題であった公益社団法人格の取得に向けても最大限の力を発揮していただき、総務室主導のもとで、その道筋を明確なものとしていただきました。これらの功績は、今後の一宮青年会議所の組織づくりの柱として欠かせないものになるに違いありません。1 年間、本当にありがとうございました。

総務・広報委員会の委員長を務めていただいた加藤貴恭君には、「2010 年代における公益社団法人格の取得を確実なものにする」という重い命題を背負っていただいたにもかかわらず、その重責を真正面から受け止め、公益社団法人格の取得に向けた具体的な道筋を確かに示していただきました。また、ご担当いただきました賀詞交歓例会においては、会場の変更という大きな節目の中で外からは見えない大変なご苦労があったことと思います。それでもなお、1 年の始まりを飾るに相応しい例会を開催していただき、素晴らしい 2013 年度のスタートを切ることができました。さらには、広報活動という面においても、5 月度例会を始めとする様々な情報発信を通して、発信力を高める取り組みにご尽力をいただきました。組織の下支えという大切な役割を担っていただきました総務・広報委員会の皆様に改めて御礼を申し上げます。1 年間、本当にありがとうございました。

【拡大・交流室】

本年の拡大・交流室は、LOM の未来創造委員会の 1 委員会という形で構成し、副理事長兼拡大交流室長として野々垣聡一郎君にご担当をいただきました。

野々垣副理事長の存在がなければ、2013 年度の一宮青年会議所は、大きくその色を変えてしまっていたことと思います。それほど絶大な影響力が野々垣副理事長にはありました。JC 活動に妥協を許さない姿勢は多くのメンバーの心を揺さぶり、「本気でやる」ということの「当たり前さ」を強く植え付けていただきました。野々垣副理事長の背中を見て育ったメンバーが、きっと LOM の未来を築いてくれることでしょう。1 年間、本当にありがとうございました。

LOM の未来創造委員会の委員長を務めていただいた浅田佳寿優君には、「拡大」と「交流」という 2 つの面から力を尽くしていただき、特に最重要課題であった会員拡大については、浅田委員長を始めとする LOM の未来創造委員会の皆様がその先頭に立ち、歴史に残る大きな成果を達成していただきました。また、交流事業についても、地域他団体との交流や大邱河北青年会議所との ASPAC における共同事業など、今までにない新たな風を吹き込んでいただいたことには、LOM の未来にとって大きな意味があったと思います。ご担当いただきました 8 月度公開例会では、100%出席例会という偉業を成し遂げるとともに、「24 時間駅伝ソフトボール大会」という地域の皆様の巻き込んだ大規模な事業を開催することで地域の絆を拓いていただきました。LOM の未来創造委員会の皆様には、「LOM の未来」を冠に持つ委員会として、これ以上ない活躍を見せていただきましたことに心からの賛辞をお贈りする次第です。1 年間、本当にありがとうございました。

【社会開発室】

本年の社会開発室は、ひと・まち・未来創造委員会の 1 委員会という形で構成し、副理事長兼社会開発室長として戸松稔貴君にご担当をいただきました。

戸松副理事長には、何よりも室長として委員会の後方支援にご尽力いただき、とかく議論の迷走に陥りがちな社会開発室の委員会をあるべき方向に導いていただきました。正副理事長の意向と委員会の想いと板挟みの中での苦労は想像に難くありませんが、どんな議論の場においても、単に意見を受け入れるのでも、単に意見を押し付けるのでもなく、満足よりも納得を求める姿に委員会への「愛」を感じました。1 年間、本当にありがとうございました。

ひと・まち・未来創造委員会の委員長を務めていただいた石川佳照君には、「ひとを愛する“こころ”」に着目した「青少年育成事業」、そして、「まちを愛する“こころ”」に着目した「まちづくり事業」を通して、私たちの活動の柱である「地域の未来のため」に大きな情熱を注いでいただきました。4 月度公開例会では「失敗は成功のもと」をテーマとして、また7 月度公開例会では「仲間との絆」をテーマとして、青少年たちに失敗を恐れずに夢や希望に向かって挑戦することの大切さを伝えることで、彼らの「強く生きる力」を育むという目的を果たすことができました。また、10 月度公開例会では、昨年からの継続事業として「第 2 回 ICHINOMIYA 郷土グルメグランプリ」を開催し、3000 人を超える地域の皆様とともに、地域のたからや魅力の創造と発信を実現すると同時に、この「ICHINOMIYA 郷土グルメグランプリ」を一宮青年会議所を代表する事業に育て上げていただきました。本年の活動を通して、ひと・まち・未来創造委員会の皆様が地域に伝播した「ひとを愛する“こころ”」と「まちを愛する“こころ”」が、この地域の未来に大輪の花を咲かせる日を楽しみに待ちたいと思います。1 年間、本当にありがとうございました。

【研修室】

本年の研修室は、経営力開発委員会と人間力アカデミー委員会の 2 委員会という形で構成し、副理事長兼研修室長として野田一郎君にご担当をいただきました。

3 例会を担当する経営力開発委員会に加え、1 年を通じて事業を持つ人間力アカデミー委員会という 2 委員会の室長として、野田副理事長にとっては気の休まることのない 1 年であったと思います。それでもなお、持ち前の実直な真摯さで様々な困難に向き合い、着実に一つ一つの問題の解決を図ることで、両委員会の力を最大限に引き出していただきました。また、常に自らを高める意識を持ち、貪欲に自己成長を求める野田副理事長の姿に JC 活動の本質を見た気がします。1 年間、本当にありがとうございました。

経営力開発委員会の委員長を務めていただいた森功一郎君には、地域の経営者の皆様や経営に興味のある方々に向けて、「企業の事業継続」をテーマとした 3 度の公開例会を開催していただきました。経営者としての使命感を育むことを目的に開催した 3 月度公開例会、企業永続の秘訣を学ぶことを目的に開催した 6 月度公開例会、そして、地域社会から信頼される企業づくりができる人材育成を目的に開催した 11 月度公開例会と、経営力開発委員会の皆様が「企業の事業継続」に必要なと考える「経営力」に焦点を当て、いずれの事業も参加者の皆様の経営力向上の一助になったことと思います。昨今の目まぐるしく変化する社会情勢や経済環境において、「経営力」という概念は、常に古くて新しい経営課題として私たちの前に立ちはだかる中、経営力開発委員会の皆様には「決して変わることはない大切なこと」を教えていただいたような気がします。1 年間、本当にありがとうございました。

人間力アカデミー委員会の委員長を務めていただいた石川昌臣君には、会員拡大との両輪を担う「会員の資質向上」の先導役として、如何なくその力を発揮していただきました。正会員予定者や入会 3 年未満会員の育成は人間力アカデミー委員会の機能として重要な役割ではありますが、すべてのメンバーを巻き込んで「教え学びあう」機会を織り交ぜることで、全メンバーを対象に人間力の向上をも図っていただきましたことは、期待通りのオリエンテーション運営でありました。また、ご担当いただきました卒業例会では、例年と異なる試みを取り入れたことで想像以上のご苦労があったことと思いますが、人間力アカデミー委員会の皆様が体現した「前に踏み出す勇氣」と「困難に負けない強い心」は、卒業生の皆様にも強く届いたことと思います。さらには、新たな試みの中からはしか見ることのできない承継すべき「歴史と伝統」を受け継いだメンバーは、次代の担い手として、今後きっと大きな活躍を見せてくれることでしょう。1 年間、本当にありがとうございました。

【監事】

本年は、小川勝之君と尾関栄司君のお二人に監事を引き受けていただきました。これまで何度も要職を担われた経験豊富なお二人から導きをいただけたからこそこの 2013 年度でありました。本年卒業を迎えられましたお二人ではありますが、幸いにも 2014 年度も外部監事としてお支えをいただきます。2014 年度の一宮青年会議所に対しまして、本年と変わらぬご指導、ご助言をいただきますよう重ねてお願いを申し上げます。1 年間、本当にありがとうございました。

【おわりに】

「すべてはこの地域(まち)のために」。本年はまさに、この想いを合言葉に歩んできた 1 年でありました。本年に限らず、昔も今も、青年会議所活動の根底にあるのは、「すべてはこの地域(まち)のために」という純粋な気持ちだろうと思います。だからこそ、60 年以上もの長い間、「明るい豊かな社会の実現」という情熱が一度たりとも絶えることがなかったのだと思います。この 1 年間、「すべてはこの地域(まち)のために」精一杯の力を尽くしていただきましたメンバーお一人お一人の尊い活動に心からの敬意を込め、改めて御礼を申し上げる次第であります。

最後に、第 61 代の理事長職を託した野杵晃充君率いる 2014 年度の一宮青年会議所が、その歩みを止めることなく未来に向かって「変革」の 1 年を遂げられるよう祈念するとともに、直前理事長として然りげなくも力強くお支えをいただきました木村亮一君に衷心より御礼を申し上げ、1 年の振り返りとさせていただきます。

1 年間、本当にありがとうございました。



「一年間を振り返って」

副理事長兼専務理事

横田 公一

「1年を振り返る」というテーマをいただき、思いを巡らせると、やっとここまで来たのかという安堵感と、一体何を成し得たのかという閉塞感に襲われます。2010年度の副理事長職を拝命した際、同じようにこの年会報のために1年を振り返った際、苦しさや苦痛を伴ったのとは別の感覚です。もちろん、苦しさや苦痛もあったのですが、それらを消化する暇がなかったのか、あるいは昇華させるだけの経験値を積んでいたのかもしれませんが。その点では、役職が人をつくるということと、何かを感じる余裕なく駆け抜けるほうが良いということにおいて、JC活動における命題とシステムが顕在化した1年だったと思います。私も卒業まで間もない会員である以上、2010年度の年会報と同様、本懐を包み隠さず述べることにより、本稿を読まれた同朋が前へ進むための契機となることを願います。

本年は、専務室ということで、事務局と渉外委員会を担当させていただきました。私が、室長という立場である以上に、専務理事としての立場を優先させていただくことができたのは、事務局長の服部良太君と渉外委員長の坂井田純子君から、直接的にも間接的にも助けられ、両輪以上の活躍をしてくれたからだと思います。

服部事務局長には、例年でいうところの「理事長セクレタリー」としての役割を求める以上に、事務局長という立場は、組織図の一番左側に位置し、正副理事長会議にも出席し、各委員長を束ね、助言し、時には叱咤激励し、理事会の組織運営の安定に努めるべきであり、委員長経験者でなければならないとして、2年度理事としての役割を求めました。当然ながらその求められる役割と期待が大きいことが時として重圧になったかもしれませんが、その点をみじんも感じさせず、見事に務め上げました。扇の要として、頑張り続けてくれて、お疲れ様です、本当にありがとう。

坂井田委員長には、私がとやかく言う前に、渉外委員長としての資質が備わっていたと感じます。これはとりもなおさず諸先輩からの引継ぎや伝達があったからだと思います。各種大会等では工夫を凝らし、いつもどうやったらLOMメンバーをもてなすことができるのかを考え、各種式典や会議では「一宮青年会議所」としての立ち位置を考え行動していたことは素晴らしいと思いました。本年は特に愛知ブロックでの会員会議所では常に最前列を保持し、ナンバー8としての積み重ねができたと思います。扇を仰ぐ役割として、頑張り続けてくれて、お疲れ様です、本当にありがとう。

事務局員の長谷川さんには、報告連絡相談以上に、心配りをいただきました。また、各種申請などもスケジュール管理をしていただき、割り振りをしていただき、LOMが円滑に活動するための重要な役割を担っていただきました。長年の経験を生かして、先行してアドバイスをいただくこともあり、2013年度の一宮青年会議所には欠かすことのできない存在であったと思います。扇の袋よろしくLOMのおふくろとして頑張り続けてくれて、お疲れ様です、本当にありがとう。

事務局次長の2名も、委員会を経験する前に理事会に放り込まれ、委員会よりも長時間の議事録を作成するなど事務局を担っていただき、服部事務局長のサポートに徹していただきました。この経験を次年度以降に生かす場面は多いと思います。きっと活躍してくれるものと期待しています。そして、渉外委員会の両副委員長・幹事ははじめメンバーの皆様には、いろいろとご負担をおかけし、見事に応えていただき感謝につきません。私は次年度以降2年の監事職を経て卒業となることから、委員会に参加できるのは本年度が最後となりましたが、委員会としてのまとまりを感じることができ、私自身素晴らしい経験ができたと思います。豊一会から京都会議などなどここでは書き記すことのできない経験もさせていただきました。室長として、ほとんどの役割を事務局・渉外委員会のメンバーが担ってくれましたので、2010年度とは違った景色を見ることができたと思います。

専務理事職というのは1年に1人しか経験できない役職ですが、この役職を経験できたことは有益だったと思います。というのも、副理事長を務めたとき以上に、調整すべき人間関係が多いという点です。一宮青年会議所を取り巻く環境は、他のLOMとは違った点がいくつかあります。挙げはじめると、西尾張の親であるということ、ナンバー8であること、親LOMが存在しないことなど枚挙に暇がありません。また、歴史と伝統がある故の葛藤、諸先輩からの期待と苦言と助言、他団体との交流や折衝など、調整すべき点は多々ありました。当然ながら、LOM内部の諸問題も山積しているのです、それらを調整することに時間と労力を費やすことになります。本年度の一宮青年会議所のスローガンは、「進もう未来へ 繋ごう 想いを ～すべてはこの地域(まち)のために～」でしたが、私は内心では「～すべてはこのLOMのために～」と読み替えて活動していました。そういう点では、JAYCEEとしては「地域のために」という意識が後発的になっていたかもしれない1年であり、猛省すべき点であると思います。

また、専務理事は、やはり理事長の掲げた所信の実現にどこまで近づけたかが重要であり、一助となりえたのかが評価されるべきであり、私は専務理事としては最低に位置する者であったと思います。他の副理事長や監事、理事会構成メンバー、LOMメンバーの皆様の頑張りがなければ、2013年度は成り立つことがなかったと思います。各委員会の役割、出向者の役割、様々なメンバーがそれぞれの役割を認識し、全うしていただいたことは、個々の経験値とともに、今後のLOMにとっての大きな財産になったことと思います。

副理事長・専務理事として1年を振り返って、2度とこのような役割はごめんだと思う一方で、やはり1度は経験したほうが良いとも思います。2010年度の年会報で記したとおり、執行部や理事構成メンバーなどに対する批判や、自分ならこうするのにという驕りは、経験をすることによって得られる冷静な判断に切り替わると思います。そして、冷静な判断と熱い情熱は表裏一体ともいえますが、総じていえることは、行動を伴う言葉に裏打ちされた批判や、役職を経験したからこそその批判は、個人はもとよりLOMを前に進ませるための推進力となり得ると思います。そのような推進力が無くなってしまったときは、LOMが失速するときであり、そのような事態は避けなければなりません。どのようなことにも当てはまると思いますが、前を目指そう上を目指そうと努力しても、やっと現状維持ができるものだと思いますし、それ以上の努力を必要とするものだと思います。もしも副理事長なり理事なりの役職の声がかかったときは、迷わず受けていただければと思います。ただし、専務理事については、その判断はお任せします。

そして、木村理事長には、扇で仰がれる旗として、常に中心であり続けてくださり感謝しております。その旗印であればこそその2013年度であったと思います。本当にお疲れ様でした、ありがとうございました。そして、至らぬ点があったこと、お詫び申し上げます、申し訳ありませんでした。

1年を振り返ると、様々な感情と感動が甦ります。得難く、忘れ難い1年となりました。木村理事長をはじめ、LOMメンバーの皆様に衷心より御礼申し上げます、本当にありがとうございました。



「一年間を振り返って」

副理事長兼総務室長

野杵 晃充

はじめに、2013 年度 一般社団法人 一宮青年会議所 副理事長兼総務室長という大役を仰せつかり、ご指名頂いた木村理事長をはじめ、LOM メンバーの皆様に厚く感謝申し上げます。当初、木村理事長から総務担当副理事長のお話をいただいたときに、従来の総務委員会のように LOM の屋台骨として粛々と役割を実行するだけではなく、何かしら次年度以降につながる変革や実績を残し、LOM に貢献したいという想いがありました。「例年通り」をNGワードにした結果、加藤委員長をはじめ委員会スタッフそして委員会メンバーの皆さんには、多大なるご苦勞ご負担をおかけした 1 年となりました。

1 月の賀詞交歓例会では、会場を例年の真清田神社 参集殿ではなく、尾張一宮駅前ビル(i-ビル)に変更させて頂きました。一宮の歴史と文化の象徴である真清田神社で開催する意義も承知の上でありましたが、例年、駐車場の混雑で参列者の方に多大なる迷惑をおかけしておりましたので、公共交通手段のアクセスの良さと駐車場の確保という点から、昨秋完成したばかりの新しい一宮の象徴である駅ビルに会場を移させて頂きました。一宮青年会議所としては初めての例会会場ということで、委員会メンバーと悪戦苦闘しながらも会場設営そして式典進行いたしました。大きなトラブルもなく終えることができホッと安堵いたしました。改めて、会場変更を快諾してくださいました木村理事長に感謝申し上げます。

5 月の例会では、「一宮青年会議所の発信力を高める」という事業目的を達成するために、真清田神社ならびに本町アーケードで開催される「杜の宮市」にブース出展させていただき、一般市民の方に青年会議所のPR活動を行いました。広報を目的とした例会は非常に難しく、計画段階から苦戦をいたしました。例会当日は多くの人に PR チラシなどをお配りすることができましたが、一宮市民の中でどこまで認知度が高まったかという疑問が残ります。例会中、ジャグリングで多くの人をブースに集めてくれた「ひと・まち・未来創造委員会」のメンバーの皆さんには特に感謝申し上げます。広報単独での例会開催の場合、公益事業比率の点から事業予算は限られると思いますが、一宮青年会議所の存在感を高め、市民の意識変革を進めるには、全ての対外例会・事業において、広報活動に力を入れるべきと実感しました。

また本年に関しては、木村理事長の所信の中に「2010 年代における公益法人格の取得を迷うことなく確実にする」と言及されており、事業計画4「公益社団法人格取得に向けた調査・研究」について、個人的には 1 番力を入れて取り組みました。公益事業比率の点や遊休財産の保有制限の点から、公益社団法人格への移行を一旦は断念したということは知っていましたが、どうすれば問題を解決できるのか、その答えを知るために、愛知県庁や監査法人を始め、他の会員会議所様にヒアリングに行き、その打合せの中から、公益法人格への移行は実現可能であるという自信を得ました。一宮青年会議所が、所謂、仲良しサロンではなくて、この地域に必要とされる団体になるためにも、しっかりと公益事業を行い、市民の方に認知され、明るい豊かな地域づくりにコミットしていかなければならないと思います。

また総務委員会とは別の担いとして、「ファッション交流部会」の担当副理事長も務めさせて頂きました。従来は「ファッション部会」という名称でありましたが、繊維関係の仕事を営む現役メンバーが皆無となり、年々参加される先輩メンバー数が減少している状況を踏まえ、先輩方やメンバー間の交流を活発にすることを目標に、名称を「ファッション交流部会」に変更させていただきました。7 月には事業として「夏の家族会」をガーランズにて開催し、先輩・現役メンバー・ご家族を合わせ 80 名近い方に参加していただき、交流を深めることができました。楽しい企画そして入念な準備をしていただいた

土川部会長や部会メンバー、そして参加していただいた皆様に、心より御礼申し上げます。

最後に、本年は副理事長の一人として、木村理事長が掲げられた「進もう未来へ、繋ごう想いを ～すべてはこの地域のために～」のスローガンの実現に向けて、ASPAC も含め各種大会や公式行事に積極的に参加し、真剣に JC 活動と向き合った一年でありました。西尾張 6JC 正副理事長会議や愛知ブロック協議会 会員会議所会議などへの参加を通じて、他 LOM メンバーと交流ができたのも大きな収穫でありました。私の個人的な見解ですが、委員長の最大の役割は、事業計画の企画・遂行と委員会メンバーをまとめることであり、副理事長の最大の役割は、LOM を代表する一人として公式な大会や事業について積極的に参加することだと考えています。委員長の負担の大きさを考えると、副理事長の担いについても明確にし、きちんと役割分担すべきではないでしょうか。総じて言えることですが、役職を受ける以上は責任をもってやりぬく決意が必要であり、中途半端な覚悟であれば、役職を受けるべきではありません。委員長職や副理事長職を受ける場合、確かに多くの時間とエネルギーが必要になりますが、お金では買えない本当に貴重な経験を得られることも事実です。次年度以降、もし役職を受けるチャンスがあれば、ぜひチャレンジをしていただきたいと思います。

振り返ると 1 年間、様々な経験をさせて頂きました。このような機会を頂きました木村理事長、そして判断に迷った際にいつも助言して下さった横田専務に厚く御礼申し上げます。最後に、こんな私に 1 年間付き合ってくれた、加藤委員長、村井副委員長、野村副委員長、加藤幹事、大宮幹事、そして委員会メンバーの皆さんにも感謝申し上げます。この 1 年間で学んだことを、次年度以降の JC 活動の中でしっかりと発揮してまいりたいと思っております。本当にありがとうございました。



「一年間を振り返って」

副理事長兼拡大・交流室長

野々垣 聡一郎

思い起こせば1年前、木村理事長にお電話頂いた事を昨日のように思い出します。副理事長という大役を私が承けてよい者か悩みましたが、木村憲彦理事長とともに一緒に青年会議所活動ができる事に魅力を感じ御承けさせて頂きました。一年間、私にこの活動の場を頂いたLOMメンバーの皆さん、心より感謝申し上げます。

私が担当する役割として、会員拡大、交流と2つの大きな担いがありましたが、その実行部隊である浅田委員長率いるLOMの未来創造委員会は本当に実行する中身を理解して行動して頂きました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

まず、会員拡大についてですが、2013年度は公益社団法人日本青年会議所の拡大委員会へ林輝暢君が副委員長として出向され、私もご一緒させて頂、様々な拡大への熱を感じる事ができました。それをいかにLOMへ持ち帰るかがテーマですが、その熱をしっかりと汲み取り拡大を実践した浅田委員長には心より感謝致します。拡大数も2013年下期14名、2014年上期13名(予定)と2013年度卒業者数の13名を大幅に上回る拡大を達成できた事は、LOM全体の拡大への意識付けが徐々に向上しているに違いありません。100名LOMへの復帰はできませんでしたが、2014年度に繋がる力になったと思います。

交流に関しては国内交流である8月度例会、9月6JC合同例会、クリスマス家族会、諸団体との毎月の交流事業、国際交流であるアスパックへの参加及び姉妹JCの大邱カング青年会議所との交流事業、そして訪日での交流と盛りだくさんでした。

まず8月度例会に関して、10数年ぶりに100%例会を達成する事ができました。メンバーの一体感が結果となった例会となりました。諸団体さんとも交流でき、今後の町づくりへの連携となるきっかけを構築できたのではないのでしょうか。

そしてアスパックへの14名の登録と、大邱カングJCとの共同事業は今までも増した国際交流の大きな成果といって過言ではありません。国際平和を目指す団体であるJCIにとって姉妹JCレベルでの交流は重要な事です。相互理解を深める機会になったと思います。

振り返れば一年間はあっという間ではありますが、充実した一年間だと感じました。よい委員長に恵まれた事を改めて感謝致します。

最後になりますが、役職は終了致しますが、この素晴らしい流れを次年度以降も引き継げるよう、卒業まで努力する事をお誓いしたいと思います。一年間ありがとうございました。



「一年間を振り返って」

副理事長兼社会開発室長

戸松 稔貴

2013 年度一般社団法人一宮青年会議所の副理事長兼社会開発室長を務めさせていただきました戸松稔貴です。本年度は私にとって予定者期間も含めると5年間という比較的短いJC生活の最終年度であり、自分自身のJC生活の締め括りとして歴史と伝統のある一宮青年会議所の副理事長を務めさせていただき、本当に実り多き、充実した最終年度となりました。

社会開発室長として担当させていただいたひと・まち・未来創造委員会は、4月、7月、10月と3回の事業・例会を行いました。

4月例会は公開例会で、この地域の青少年たちに「強く生きる力」を育成するために講師にウィットレット・ブルース・エドワード氏をお招きして「失敗は成功のもと」というキーワードをもとに講演していただきました。講師が幼少から現在に至るまでの話をもとに何度も失敗を経験してもそれは成功のもとと持ち前の明るくユニークな思考で自分の糧にしてきた話は非常にシンプルでわかりやすく、時には子供たちやその保護者達の笑い声が出るほどの朗らかな講演でした。また、日本列島をマラソンしながら縦断した時の話もあり、偉業をやった人としての話には口先だけでなくシンプルな中にも重みがあることに感心させられました。この4月例会を皮切りにして4月から7月の公開事業を開催いたしました。石川委員長をはじめとするひと・まち・未来創造委員会のメンバーとは、事業目的の青少年たちが失敗や成功体験を通じて自信を築き上げ「強く生きる力」を育むためにはどんな事業をするのがベストなのかを考えるのに非常に多くの時間を費やし議論をしました。その結果、前述の4月例会の講師のブルース氏がジャグラーであることにヒントを得て、ジャグリングを通じて青少年たちに「強く生きる力」を育んでもらうという結論に至りました。参加者には、それぞれ挑戦する種目を決定してもらい7月に用意した発表会という最終ステージに向け何度も失敗を繰り返しながらジャグリングの技や精度を上げてもらいました。途中で数回の練習会を設け、JCメンバーにも各々担当する種目を割り振って子供たち同様に失敗を繰り返しながらも自己レベルを日に日にあげ、練習時には大人として、そしてジャグリングの先生として子供たちとともに最終の発表会に向けステージの構成や技を子供たちと同じ目線に立って行っていただきました。ジャグリングを失敗しても、悔しい顔をせずむしろ笑顔で黙々とチャレンジし続ける子供たちの姿は素晴らしく輝いておりました。また、上手な子が率先してできない子や年下の子をフォローし、チーム一丸となって練習会に臨む姿には我々大人たちも感心させられました。発表会では、ほどよい緊張感の中で子供たちは最高のパフォーマンスを発揮してくれたと思います。技が決まった時の子供たちの緊張から解放された表情は本当に輝いており、それをたたえる側の子供たちの目も素晴らしく輝いておりました。しかしながらそれは子供たちが失敗を何度も何度も繰り返しチャレンジし続けた結果であり偶然ではないことは言葉で伝えなくても彼らの心の中にちゃんと芽生えていたと思います。

7月例会は、ひとを愛する“こころ”に満ちた未来の礎を築くという事業目的のもとアルピニストの野口健氏を講師にお招きして尾西市民会館で講演会を行いました。とかく現代社会において乏しいとされている、ひと(他人)を愛する“こころ”を育むためには青少年たちがなにに気付くべきか、そして青少年たちを見守るべき大人たちがどのように手を差し伸べるべきかというテーマを踏まえて講演を行っていただきました。講演内容は、野口健氏の幼少期から現在に至るまでにどのように大人たちから影響を受け成長してきたか、大人になり第一線で活躍するアルピニストとして世界の山で築いた仲間との絆など、内容は非常に濃く参加者の皆様にはあつという間の1時間30分であったと思います。

10 月度例会は昨年からの継続事業である第 2 回 ICHINOMIYA 郷土グルメグランプリでした。昨年始まったばかりではありますが、将来的には一宮青年会議所の花形の継続事業となるべくこの事業は事業計画を練る段階から非常にプレッシャーを感じて、スタッフ会議で何度も何度も議論を重ね継続事業の難しさを痛感するとともに、この事業に携われる幸せをいつも感じていました。出店者の募集、打ち合わせから当日に至るまで、当日の設営、運営など多くのことを同時進行で行わなければいけなかったこの事業ですが、石川委員長と、高月君、野田君の若い両副委員長が本当に頑張ってくれて、素晴らしい委員会メンバーを卒宣して事業を成功に導いてくれました。とはいえ、まだまだ手探りの段階であり、問題等も多々ありました。事業後の委員会では、やり終えた感ではなく、継続事業として軌道に乗るための踏み台になるべく委員会メンバー皆で今後のために何をすべきか、どうしていくべきか、という点について熱く議論したのが非常に印象に残っています。

最後になりますが、本年度副理事長という役職を私よりも歴の長いメンバーが多くいるのにもかかわらず私を任命してくださった木村憲彦理事長には本当に感謝しております。ありがとうございました。そして、僕を担当副理事長として1年間リスペクトし続けてくれた石川委員長をはじめとするひと・まち・未来創造委員会の皆様、本当にありがとうございました。本当は、この一年の経験を率先して来年度以降に生かしたかったのですが、残念ながら卒業を迎えてしまいました。今後は、卒業生として陰ながら一宮青年会議所に携わり恩返ししていきたいと思います。一年間本当にありがとうございました。



「一年間を振り返って」

副理事長兼研修室長

野田 一郎

2013 年度 一般社団法人一宮青年会議所 第60代理事長 木村憲彦君のもと、副理事長兼研修室長として1年間活動させていただきました。研修室として森功一郎委員長率いる「経営力開発委員会」と石川昌臣委員長率いる「人間力アカデミー委員会」の2委員会を担当させていただきました。

青年会議所は自分が暮らす地域に対して貢献していく奉仕活動に加え、会員自身の資質向上を目指す学び舎としての役割もあります。単年度で役職が変わる青年会議所活動の中で、私も毎年課題を持って一年を過ごすようにしています。貴重な時間とお金を使って、人として経営に関わる者として青年会議所活動を通して成長できればと思います。私たち会員は企業経営に携わる者が多数占めております。JC 活動を通して人間的成長、自己の器を大きくすることで企業経営に活かすべきだと考えます。それが送りだしてくれている会社の成長にも繋がります。経営力開発委員会としては、企業が「社会の発展に貢献する」という意識を持って永続していくために、青年経済人の情熱ほとばしる「使命感」を育み不屈の精神をつくることを目的にした3月度公開例会、企業が永続していくために必要な経営資質を向上させるための6月度公開例会。そして地域社会から信頼される企業づくりができる人材を育成することを目的とした集大成の11月度公開例会と3度の例会を森委員長中心に委員会メンバー一丸となって取り組んでいただきました。

ここ数年間卒業会員が多いこともあり、入会3年未満会員が一宮青年会議所に占める割合が多く経験年数若年化が問題視されています。青年会議所という組織の中で、年数の若いメンバーは先輩の背中を見て活動していきます。言葉だけでなく行動で示すことができるように心掛け、次代の青年会議所を担っていく会員に諸先輩方と同様、思いを伝えていくことを1年間のテーマの一つにしてきました。人間力アカデミー委員会については、入会3年未満会員を中心に諸先輩方が築き上げてきた歴史と伝統を伝えるとともに、何事にも主体的に活動できる会員にするための上期下期オリエンテーション、魅力あふれる会員が卒業会員に感謝と敬意を表して、歴史と伝統を継承する12月度卒業例会。また西尾張6JC 合同オリエンテーションの支援、協力も含め、1年間前へ踏み出す勇気と困難に負けない強い心の大切さを伝播してきました。

どちらも対象者は違えど、経営力、人間力の資質を高めるため自分たちもしっかりと学び、研修することで経営者や一宮青年会議所会員に対し、思いを強く発信し伝播してくれたと思います。本当に1年間お疲れ様でした。室長として本当にお世話になりました。ありがとうございました。

初めての副理事長として木村理事長並びに4人の副理事長に支えられながら1年間活動してきました。2013年度最初の公式事業ともいえる上期オリエンテーション初顔合わせから12月最後の例会としての卒業例会までたくさんの事業、例会と多数の会員の皆様にご参加いただき誠にありがとうございました。

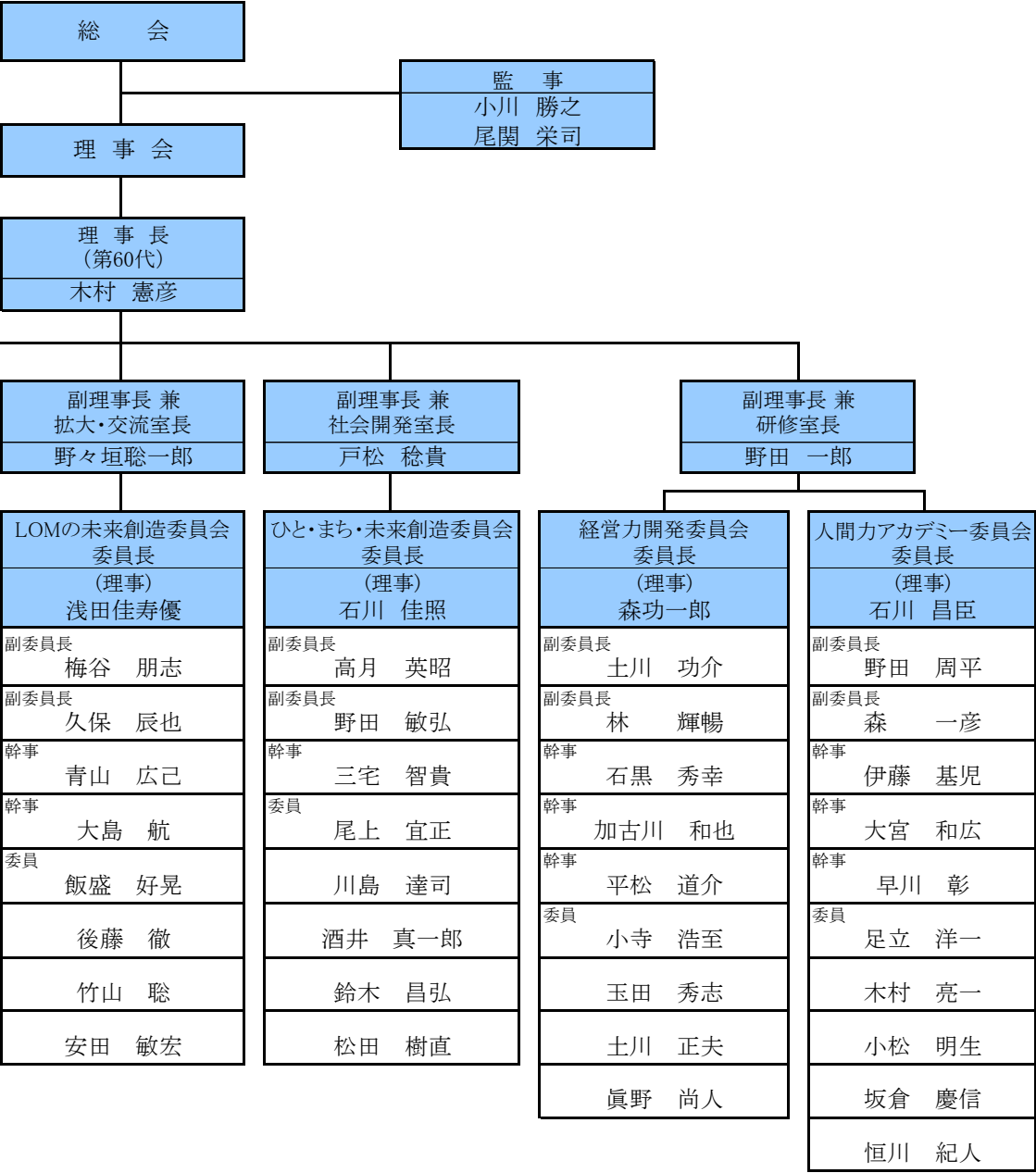
私も2度の委員長職をさせていただきましたが、執行部の一員として副理事長はまた違う世界で1年間過ごしました。委員長とは違い、副理事長として対外的な活動が一段と多く増えました。委員長では感じる事が少なかった一宮青年会議所として認証番号シングルナンバーの歴史と伝統の重さを多々感じました。特に西尾張エリアでは親LOMとしての対応や西尾張5青年会議所の会員との接し方など一宮青年会議所会員として自覚と責任を持って活動していかなければいけないと思いました。

2013年度は日本青年会議所、東海地区協議会、愛知ブロック協議会それぞれにとっても多くの出向者を輩出しました。

出向者にとっては二束のわらじで大変だったと思いますが、次年度以降は一宮青年会議所の一員として成長した姿を見せて活躍してくれると確信しております。本当に多数の出向者の皆様、お疲れ様でした。ありがとうございました。

また、西尾張エリアにおいて 2013 年度大きな担いとして一般社団法人海部津島青年会議所主管のもと、愛知ブロック大会が津島の地で開催されました。一宮青年会議所も西尾張 4 青年会議所とともに副主管として設営の協力をさせていただき、事前準備など多数の時間をかけて当日をむかえました。当日はあいにく懇親会から天気がくずれてしまいましたが多数のメンバーに参加いただいたことも感謝申し上げます。

最後になりますが、副理事長兼研修室室長として至らぬ点が多々あったかと思います。木村理事長はじめ副理事長の皆様には本当に 1 年間ありがとうございました。役職はその立場になってみないと見えてこない景色があるとよく言われます。今年の経験を活かし残りの JC 生活に少しでも人として成長できるように今後も活動していきます。2013 年度の理事会構成メンバーとして一宮青年会議所の会員として活動できたことを心より感謝申し上げます。



2013 年度理事会

第 1 回理事会 1 月 16 日

愛知県一宮勤労福祉会館第 6 会議室

①2012 年度(社)一宮青年会議所 収支決算報告書の承認に関する件②2013 年 1 月 1 日～3 日 社団法人一宮青年会議所 決算報告書の承認に関する件③一般社団法人への移行に伴う各種規程変更に関する件④会員の休会の承認に関する件⑤2013 年度一般社団法人一宮青年会議所正会員及び正会員予定者の確認に関する件⑥2013 年度一般社団法人一宮青年会議所正会員組織図の修正に関する件⑦2013 年度一般社団法人一宮青年会議所委員会の構成員・事業計画・事業予算の変更に関する件⑧2013 年度一般社団法人一宮青年会議所日本・地区・ブロックへの出向者の変更及び追加に関する件⑨2013 年度一般社団法人一宮青年会議所正味財産増減予算書の修正に関する件⑩2013 年度一般社団法人一宮青年会議所定時総会に関する件⑪例会の開催(2 月)に関する件⑫2012 年度年報及び 2013 年度 LOM 基本資料の発行・発送(2 月)に関する件⑬例会の開催(3 月)に関する件

第 2 回理事会 2 月 12 日

愛知県一宮勤労福祉会館第 6 会議室

①会員の拡大(1 月～12 月)に関する件②「強く生きる力」の育成(4 月～7 月)に関する件

第 3 回理事会 3 月 12 日

愛知県一宮勤労福祉会館第 6 会議室

①賀詞交歓例会(1 月)の事業報告に関する件②会員の拡大(1 月～12 月)に関する件③例会の開催(2 月)の事業報告に関する件④第 40 回 JC 青年の船「とうかい号」の支援・協力(4 月～7 月)に関する件⑤第 46 回愛知ブロック大会懇親会 ブース出展にともなう費用の計上ならびに 2013 年度一般社団法人一宮青年会議所正味財産増減予算書の修正に関する件⑥2013 年度一般社団法人一宮青年会議所 事業計画の変更に関する件⑦一般社団法人一宮青年会議所 2013 年度 第 1 回臨時総会 に関する件⑧理事長・監事選考委員会の決定に関する件

第 4 回理事会 4 月 9 日

愛知県一宮勤労福祉会館第 6 会議室

①会員の拡大(1 月～12 月)に関する件②例会の開催(5 月)に関する件③例会の開催(6 月)に関する件④理事長・監事選考委員会の決定に関する件⑤選挙管理委員会の委員の指名に関する件

第 5 回理事会 5 月 7 日

愛知県一宮勤労福祉会館第 6 会議室

①第 40 回 JC 青年の船「とうかい号」乗船者募集(1 月～3 月)の事業報告に関する件②例会の開催(3 月)の事業報告に関する件③2012 年度年報及び 2013 年度 LOM 基本資料の発行・発送(4 月)の事業報告に関する件④下期オリエンテーションの開催(7 月～12 月)に関する件⑤理事長・監事選考委員会の決定に関する件⑥選挙管理委員会の委員の指名に関する件⑦ヒッポファミリークラブ後援名義に関する件

第 6 回理事会 6 月 11 日

愛知県一宮勤労福祉会館第 6 会議室

①会員の拡大(1 月～12 月)に関する件②例会の開催(5 月)の事業報告に関する件③まちを愛する”こころ”の発信(7 月～10 月)に関する件④下期オリエンテーションの開催(7 月～12 月)の変更修正に関する件⑤例会の開催(8 月)に関する件⑥上期正会員予定者の正会員承認に関する件⑦上期正会員予定者の委員会配属に関する件⑧理事長代行者の承認に関する件⑨「参議院議員選挙立候補予定者公開討論会」開催に関する件⑩一宮七夕まつり協賛に関する件⑪第 58 回おりの感謝祭一宮七夕まつり写真コンテストへの後援名義使用及び協賛金に関する件

第 7 回理事会 7 月 9 日

愛知県一宮勤労福祉会館第 6 会議室

①「平成 25 年度産官学連携事業第 1 回セミナー」開催に関する件②事務局夏季休暇に関する件

第 8 回理事会 8 月 6 日

愛知県一宮勤労福祉会館第 6 会議室

①会員の拡大(1 月～12 月)に関する件②例会の開催(3 月)の事業報告に関する件③西尾張 6JC 合同オリエンテーションの開催(7 月)の事業報告に関する件④2014 年度 LOM 基本資料の作成(9 月)に関する件⑤JC だよりの発行(9 月)に関する件⑥西尾張 6JC 合同例会の開催(9 月)に関する件⑦例会の開催(11 月)に関する件⑧2014 年度一般社団法人一宮青年会議所 理事及び監事の選任に関する件⑨一般社団法人一宮青年会議所 2013 年度 第 2 回臨時総会に関する件

第 9 回理事会 9 月 11 日

愛知県一宮勤労福祉会館第 6 会議室

①会員の拡大(1 月～12 月)に関する件②第 40 回 JC 青年の船「とうかい号」の支援・協力(4 月～7 月)の事業報告に関する件③例会の開催(6 月)の事業報告に関する件④第 12 回いちのみやタワーパークマラソン後援名義使用に関する件⑤大江川クリーン作戦後援名義使用のお願いに関する件

第 10 回理事会 10 月 8 日

愛知県一宮勤労福祉会館第 6 会議室

①会員の拡大(1 月～12 月)に関する件②上期オリエンテーションの開催(1 月～6 月)の事業報告に関する件③「強く生きる力」の育成(4 月～7 月)の事業報告に関する件④例会の開催(6 月)の事業報告に関する件⑤「平成 25 年度産官学連携事業第 2 回セミナー」開催に関する件⑥一般社団法人一宮青年会議所 定款の変更(案)に関する件⑦一般社団法人一宮青年会議所 運営規程の変更(案)に関する件⑧一般社団法人一宮青年会議所 会員資格規程の変更(案)に関する件⑨一般社団法人一宮青年会議所 役員選出規程の変更(案)に関する件⑩一般社団法人一宮青年会議所 会計細則の変更(案)に関する件⑪一般社団法人一宮青年会議所 情報公開規程の変更(案)に関する件

第 11 回理事会 11 月 12 日

愛知県一宮勤労福祉会館第 6 会議室

①会員の拡大(1 月～12 月)に関する件②例会の開催(7 月)の事業報告に関する件③西尾張 6JC 合同例会の開催(9 月)の事業報告に関する件④出席率 100%及び優秀会員の表彰(12 月)に関する件⑤2013 年度年会報の作成(12 月)に関する件⑥卒業例会の開催(12 月)に関する件⑦卒業記念品の贈呈(12 月)に関する件⑧児童虐待防止月間「児童虐待防止市民フォーラム」後援名義使用許可申請に関する件⑨事務局冬季休暇に関する件⑩一般社団法人一宮青年会議所 定款の変更(案)に関する件⑪一般社団法人一宮青年会議所 運営規程の変更(案)に関する件⑫一般社団法人一宮青年会議所 会員資格規程の変更(案)に関する件⑬一般社団法人一宮青年会議所 役員選出規程の変更(案)に関する件⑭一般社団法人一宮青年会議所 会計細則の変更(案)に関する件⑮一般社団法人一宮青年会議所 情報公開規程の変更(案)に関する件

第 12 回理事会 12 月 10 日

愛知県一宮勤労福祉会館第 6 会議室

①会員の拡大(1 月～12 月)に関する件②例会の開催(8 月)の事業報告に関する件③JC だよりの発行(9 月)の事業報告に関する件④まちを愛する“こころ”の発信(7 月～10 月)の事業報告に関する件⑤例会の開催(11 月)に関する件⑥一般社団法人一宮青年会議所 定款の変更(案)に関する件⑦一般社団法人一宮青年会議所 運営規程の変更(案)に関する件⑧一般社団法人一宮青年会議所 会員資格規程の変更(案)に関する件⑨一般社団法人一宮青年会議所 役員選出規程の変更(案)に関する件⑩一般社団法人一宮青年会議所 会計細則の変更(案)に関する件⑪一般社団法人一宮青年会議所 情報公開規程の変更(案)に関する件⑫2014 年度一般社団法人一宮青年会議所正会員組織図(案)に関する件⑬2014 年度一般社団法人一宮青年会議所委員会・局の基本方針(案)・事業計画(案)・予算(案)に関する件⑭2014 年度一般社団法人一宮青年会議所入会金及び会費(案)に関する件⑮2014 年度一般社団法人一宮青年会議所正味財産増減予算書(案)に関する件⑯2014 年度一般社団法人一宮青年会議所事業及び予算の執行に関する件⑰2014 年度一般社団法人一宮青年会議所資産の管理方法に関する件⑱2014 年度一般社団法人一宮青年会議所顧問・相談役の承認に関する件⑲2014 年度一般社団法人一宮青年会議所名誉会員の承認に関する件⑳2014 年度一般社団法人一宮青年会議所賛助会員の承認に関する件㉑役員選出総会の開催に関する件㉒特別会員の承認に関する件

決算理事会 1 月 7 日

株式会社のいり西館会議室

①各種大会・事業・会議への案内及び参加の促進(1 月～12 月)の事業報告に関する件②出向者の支援(1 月～12 月)の事業報告に関する件③公益社団法人格取得に向けた調査・研究(1 月～12 月)の事業報告に関する件④強い発信力を備えた広報活動の確立(1 月～12 月)の事業報告に関する件⑤ホームページの管理運営(1 月～12 月)の事業報告に関する件

⑥会員の拡大(1 月～12 月)の事業報告に関する件⑦会員拡大ツールの作成(1 月～12 月)の事業報告に関する件⑧ふれあい交流活動(1 月～12 月)の事業報告に関する件⑨下期オリエンテーションの開催(7 月～12 月)の事業報告に関する件⑩例会の開催(8 月)の事業報告に関する件⑪2014 年度 LOM 基本資料の作成(9 月)の事業報告に関する件⑫出席率 100%及び優秀会員の表彰(12 月)の事業報告に関する件⑬年会報の作成(12 月)の事業報告に関する件⑭卒業例会の開催(12 月)の事業報告に関する件⑮卒業記念品の贈呈(12 月)の事業報告に関する件⑯2013 年度一般社団法人一宮青年会議所 決算報告書の承認に関する件⑰会員の休会及び休会延長の承認に関する件

第 1 回臨時理事会 1 月 30 日

昭和土建株式会社社会議室

①2013 年度一般社団法人一宮青年会議所 日本・地区・ブロック・西尾張エリアへの出向者の変更及び追加に関する件②例会の開催(3 月)に関する件

第 2 回臨時理事会 5 月 16 日

昭和土建株式会社社会議室

①例会の開催(7 月)に関する件②西尾張 6JC 合同オリエンテーションの開催(7 月)に関する件③まちを愛する“こころ”の発信(7 月～10 月)に関する件

第 3 回臨時理事会 6 月 28 日

愛知県一宮勤労福祉会館第 6 会議室

①会員の拡大(1 月～12 月)に関する件②上期正会員予定者の正会員承認に関する件③上期正会員予定者の委員会配属に関する件④再入会会員の承認に関する件⑤再入会会員の委員会配属に関する件⑥濃尾大花火協賛に関する件

第 4 回臨時理事会 7 月 28 日

愛知県一宮勤労福祉会館第 6 会議室

①会員の拡大(1 月～12 月)に関する件②まちを愛するこころの発信(7 月～10 月)の変更修正に関する件③イタリアフェア 2013 後援名義使用のお願いに関する件

第 5 回臨時理事会 12 月 27 日

一宮商工会議所 203 号室

①会員の拡大(1 月～12 月)に関する件②特別会員の承認に関する件③下期正会員予定者の正会員承認に関する件



定時総会

日時・場所 2013 年 1 月 31 日(木) 一宮商工会議所 3Fホール

出席者 53 名

- | | | |
|----|---------|--|
| 議案 | 第 1 号議案 | 2012 年度社団法人一宮青年会議所事業報告の承認に関する件 |
| | 第 2 号議案 | 2012 年度社団法人一宮青年会議所収支決算の承認に関する件 |
| | 第 3 号議案 | 2013 年 1 月 1 日～3 日社団法人一宮青年会議所収支決算の承認に関する件 |
| | 第 4 号議案 | 2013 年度一般社団法人一宮青年会議所正会員組織図の修正に関する件 |
| | 第 5 号議案 | 2013 年度一般社団法人一宮青年会議所委員会の構成・事業計画・事業予算の変更に関する件 |
| | 第 6 号議案 | 2013 年度一般社団法人一宮青年会議所正味財産増減予算の修正の承認に関する件 |

第 1 回臨時総会

日時・場所 2013 年 3 月 25 日(月)一宮市民会館 大会議室

出席者 48 名

- | | | |
|----|---------|--|
| 議案 | 第 1 号議案 | 第 46 回愛知ブロック大会懇親会 ブース出展にともなう費用の計上ならびに
2013 年度 一般社団法人一宮青年会議所 正味財産増減予算書の修正に関する件 |
| | 第 2 号議案 | 2013 年度 一般社団法人一宮青年会議所 事業計画の変更に関する件
総務・広報委員会 事業計画 7 |

第 2 回臨時理事会

日時・場所 2013 年 8 月 30 日(金) 一宮商工会議所 3Fホール

出席者 59 名

- | | | |
|----|---------|----------------------|
| 議案 | 第 1 号議案 | 2014 年度役員候補者の承認に関する件 |
|----|---------|----------------------|

役員選出総会

日時・場所 2013 年 12 月 20 日(金) 一宮商工会議所 3Fホール

出席者 57 名

- | | | |
|----|---------|--|
| 議案 | 第 1 号議案 | 一般社団法人一宮青年会議所 定款の変更に関する件 |
| | 第 2 号議案 | 一般社団法人一宮青年会議所 会員資格規程の変更に関する件 |
| | 第 3 号議案 | 2014 年度 一般社団法人一宮青年会議所 組織図及び委員会・局の構成に関する件 |
| | 第 4 号議案 | 2014 年度 一般社団法人一宮青年会議所 委員会・局の基本方針(案)・事業計画(案)・予算(案)に関する件 |
| | 第 5 号議案 | 2014 年度 一般社団法人一宮青年会議所 入会金及び会費に関する件 |
| | 第 6 号議案 | 2014 年度 一般社団法人一宮青年会議所 正味財産増減予算書(案)に関する件 |
| | 第 7 号議案 | 2014 年度 一般社団法人一宮青年会議所 資産の管理方法に関する件 |
| | 第 8 号議案 | 2014 年度 一般社団法人一宮青年会議所 顧問・相談役の承認に関する件 |

2012 年度 例会

1 月度例会	総務・広報委員会
	1 月 11 日 (金) 尾張一宮駅前ビル シビックホール 賀 詞 交 歓 例 会
2 月度例会	渉外委員会
	2 月 9 日 (土) 第 1 部: 愛知学院大学 第 2 部: ホテル サンプラザシーズンズ 2 月度例会
3 月度公開例会	経営力開発委員会
	3 月 2 日 (土)、3 日 (日) 一宮スポーツ文化センター 小ホール 「使命感を育み不屈の精神をつくる」
4 月度公開例会	ひと・まち・未来創造委員会
	4 月 27 日 (土) 尾西グリーンプラザ 多目的ホール 「失敗は成功のもと」 ～夢に向かって歩むために～
5 月度例会	総務・広報委員会
	5 月 5 日 (日) 一宮市真清田神社境内、宮前三八広場、 本町アーケード、尾張一宮駅東側、名鉄一宮駅西側 「いいね！で広げよう JC の輪」

6 月度公開例会	経営力開発委員会
	6 月 17 日 (月) 尾張一宮駅前ビル 大会議室 「目指せ 100 年企業～企業永続の秘訣とは～」
7 月度公開例会	と・まち・未来創造委員会
	7 月 14 日 (日) 一宮市尾西市民会館 ホール 「仲間の絆」～夢と希望に向かって～
8 月度公開例会	LOM の未来創造委員会
	8 月 10 日 (土)、11 日 (日) 愛知県一宮総合運動場 野球場 「地域(まち)の絆を拓けよう」
西尾張 6JC 合同例会	LOM の未来創造委員会
	9 月 15 日 (日) 扶桑文化会館 メインホール 「考えてみようこの国のかたち」
10 月度例会	ひと・まち・未来創造委員会
	10 月 19 日 (土) 138 タワーパーク 第 2 回 ICHINOMIYA 郷土グルメグランプリ 「新たなるソウルフードを求めて」

11 月度公開例会

経営力開発委員会



11 月 4 日 (月)

一宮市民会館

青年経済人 渡邊美樹に訊け！

～地域社会から信頼される企業とは～

12 月度例会

アカデミー委員会



12 月 12 日 (木)

一宮商工会議所 ホール

卒 業 例 会

事務局

1. 事務局構成メンバー

副理事長兼専務理事
事務局 長
事務局 次 長
事務局 次 長

横田公一
服部良太
塚本浩成
吉田悟

2. 理事会開催報告

内容	月日	場所	内容
理事オリエンテーション	9月2日	ホテルパーク会議室	内容につきましては、理事会報告をご覧ください。
第1回理事候補者会議	9月6日	愛知県一宮勤労福祉会館第6会議室	
第2回理事候補者会議	9月28日	愛知県一宮勤労福祉会館第6会議室	
第3回理事候補者会議	10月19日	松降ビル6階会議室	
第4回理事候補者会議	11月6日	昭和土建株式会社会議室	
第5回理事候補者会議	11月30日	昭和土建株式会社会議室	
第6回理事候補者会議	12月19日	愛知県一宮勤労福祉会館第6会議室	
第1回理事会	1月16日	愛知県一宮勤労福祉会館第6会議室	
第1回臨時理事会	1月30日	昭和土建株式会社会議室	
第2回理事会	2月12日	愛知県一宮勤労福祉会館第6会議室	
第3回理事会	3月12日	愛知県一宮勤労福祉会館第6会議室	
第4回理事会	4月9日	愛知県一宮勤労福祉会館第6会議室	
第5回理事会	5月7日	愛知県一宮勤労福祉会館第6会議室	
第2回臨時理事会	5月16日	昭和土建株式会社会議室	
第6回理事会	6月11日	愛知県一宮勤労福祉会館第6会議室	
第3回臨時理事会	6月28日	愛知県一宮勤労福祉会館第6会議室	
第7回理事会	7月9日	愛知県一宮勤労福祉会館第6会議室	
第4回臨時理事会	7月28日	愛知県一宮勤労福祉会館第6会議室	
第8回理事会	8月6日	愛知県一宮勤労福祉会館第6会議室	
第9回理事会	9月11日	愛知県一宮勤労福祉会館第6会議室	
第10回理事会	10月8日	愛知県一宮勤労福祉会館第6会議室	
第11回理事会	11月12日	愛知県一宮勤労福祉会館第6会議室	
第12回理事会	12月10日	愛知県一宮勤労福祉会館第6会議室	
第5回臨時理事会	12月27日	一宮商工会議所203号室	
決算理事会	1月7日	株式会社のいり西館会議室	

3. 他LOMとの交流
公益社団法人名古屋青年会議所・公益社団法人豊橋青年
会議所・社団法人豊田青年会議所・大韓民国社団法人大
邱江北（テグカング）青年会議所が相互に発展する為、
情報交換を目的に開催される会議です。
「名豊一会」
開 催 日：2013 年 3 月 14 日
開 催 場 所：
参 加 LOM：公益社団法人名古屋青年会議所 公益社団法
人豊橋青年
会議所 一般社団法人一宮青年会議所
会 議 内 容：2013 年度年間事業計画説明並びに質疑応答
「豊一会」
開 催 日：2012 年 12 月 7 日
開 催 場 所：
参 加 LOM：一般社団法人豊田青年会議所 一般社団法人
一宮青年会議
所
会 議 内 容：2013 年度年間事業計画説明並びに質疑応答
「姉妹会議」
開 催 日：2013 年 11 月 10 日
開 催 場 所：
参 加 LOM：大韓民国 社団法人大邱江北（テグカング）
青年会議所 一般社団法人一宮青年会議所
会 議 内 容：2014 年度年間事業計画説明並びに質疑応答

**4. 公益社団法人日本青年会議所 東海地区
愛知ブロック協議会 会員会議所会議**
愛知ブロック協議会と愛知ブロック 32LOM の理事長で
行われる会議です。

第 1 回予定者会議	2012 年 10 月 27 日
第 2 回予定者会議	2012 年 11 月 17 日
第 1 回会員会議所会議	2013 年 2 月 2 日
第 2 回会員会議所会議	2013 年 3 月 23 日
第 3 回会員会議所会議	2013 年 5 月 11 日
第 4 回会員会議所会議	2013 年 7 月 27 日
第 5 回会員会議所会議	2013 年 9 月 28 日
第 6 回会員会議所会議	2013 年 11 月 23 日

5. 西尾張 6 J C 正副理事長会議
西尾張 6 J C の正副理事長で行われる会議です。

第 1 回	2012 年 12 月 10 日
第 2 回	2013 年 2 月 15 日
第 3 回	2013 年 4 月 16 日

第 4 回	2013 年 6 月 19 日
第 5 回	2013 年 8 月 5 日
第 6 回	2013 年 10 月 28 日

6. 最後に
近年、事務局長は初年度理事が務めておりました。
私は前年総務委員長として理事を務めさせていただ
いておりましたので多くの方に様々なことを言われまし
た。この事務局長の話を横田専務から聞いた際に木村
憲彦理事長の思いをお聞きし新たな事務局長像の確立
を自分なんかでできるのだろうかという不安とお話を
いただいたことを光栄に思うのと二つの思いをもって
スタートいたしました。結果、確立できたかという
とまだまだ及ばないところではありますが、次年度の事
務局長も 2 年度理事が務めることになったことで道筋
だけは作れたかもしれません。この 1 年、理事の皆様
には本当に無理を申し上げました。すべての議案にお
いて厳しく提出期限を設け守っていただきました。1
年間やりきるのは並大抵のことではありません。私自
身昨年委員長をさせていただきましたのでその大変さ
はわかっております。それを承知で無理を言ってきました。
この 1 年通して議案締切日に議案を配信できた
のは、理事の皆様のお力あつてのものだと心から感謝
しております。本当にありがとうございました。
また、1 年間理事会を滞りなく開催できましたのは
事務局次長の塚本浩成君と吉田悟君のおかげです。例
年と違い 2 人いるため、どちらかに偏らない心配して
おりましたが、お互いの状況を考えてうまく分担して
いただきました。何より 2 人で理事会にでていただ
いたことは大変うれしく思いますし、今後の活動に役立
てていただきたいです。

この 1 年間、様々な活動に木村理事長と横田専務と
行動を共にさせていただきました。横田専務には、議
案作成など様々な場面で大変お世話になりました。ご
迷惑もたくさんおかけしました。すべてにおいて冷静
な対応していただきまして、気づかなければいけない
ことや、やらなければいけないことを先回りして教え
ていただき、時にはこちらが気づくのを待っているこ
ともありました。本当に視野が広く懐の深い専務であ
り大変勉強になりました。ありがとうございました。
そして、理事長にはいつも気を遣っていただきまして
ありがとうございました。行く先々での挨拶は対内も
対外もすべてにおいていつも素晴らしいものでした。
いつも誇らしく思っておりました。また私を含めて
LOM メンバーのことをいつも気にしている姿を見てま
いりました。本当に素晴らしい理事長でこんな人間で
ありたいと思わせていただける方でした。

最後になりますが、この経験を次年度以降につなげ
てまいりたいと思います。本当にありがとうございました。

渉外委員会

1. 委員会構成メンバー

担当副理事長	横田 公一	稲葉 崇
委員長	坂井田純子	樋田 昌泰
副委員長	福田 晋也	安井 祥人
副委員長	森 大介	山崎 義則
幹事	伊藤 尚弘	
幹事	伊東 大徳	
委員	池戸 英嗣	



2. 委員会開催報告

内容	月日	場所	内容
第1回予定者委員会	9月24日	菊水会議室	①基本方針案について
第2回予定者委員会	10月10日	一宮市民会館 第3会議室	①基本方針案について ②事業計画案について ③予算案について
第3回予定者委員会	10月23日	一宮市民会館 第3会議室	①基本方針案について ②事業計画案について ③予算案について ④事業計画1(案)について ⑤事業計画(案)2について ⑥事業計画(案)3について ⑦事業計画(案)4について
第4回予定者委員会	11月21日	一宮市民会館 第2会議室	①基本方針案について ②事業計画案について ③予算案について ④事業計画1(案)について ⑤事業計画(案)2について ⑥事業計画(案)3について ⑦事業計画(案)4について ⑧事業計画(案)5について
第5回予定者委員会	12月4日	一宮勤労福祉会館 第4会議室	①事業計画(案)1について ②事業計画(案)2について ③事業計画(案)3について ④事業計画(案)4について ⑤事業計画(案)5について
第6回予定者委員会	12月27日	一宮勤労福祉会館 第4会議室	①事業計画(案)1について ②事業計画(案)2について ③事業計画(案)3について ④事業計画(案)4について ⑤事業計画(案)5について ⑥事業計画(案)6について
第1回委員会	1月4日	あおぎり司法書士法人 会議室	①事業計画1について ②一般社団法人一宮青年会議所組織図について
第2回委員会	1月24日	一宮勤労福祉会館第2日本間会議室	①事業計画1について ②事業計画2について ③事業計画3について ④事業計画4について ⑤事業計画5について ⑥事業計画6(案)について
第3回委員会	2月26日	あおぎり司法書士法人 会議室	①事業計画1について ②事業計画2について ③事業計画3について ④事業計画4について ⑤事業計画6(案)について ⑥事業計画5の事業報告について
第4回委員会	3月26日	あおぎり司法書士法人 会議室	①事業計画1について ②事業計画2について ③事業計画3について ④事業計画4について ⑤事業計画6について ⑥事業計画6について
第5回委員会	4月22日	有限会社ヒガシ防水会議室	①事業計画1について ②事業計画3について ③事業計画4について ④事業計画6について ⑤事業計画2の事業報告について
第6回委員会	5月27日	一宮スポーツ文化センター第7会議室	①事業計画1について ②事業計画3について ③事業計画4について ④事業計画6について
第7回委員会	6月24日	有限会社ヒガシ防水会議室	①事業計画1について ②事業計画3について ③事業計画4について ④事業計画6について
第8回委員会	7月11日	有限会社ヒガシ防水会議室	①事業計画1について ②事業計画3について ③事業計画4について ④事業計画6について

第 9 回 委 員 会	8 月 19 日	有 限 会 社 ヒ ガ シ 防 水 会 議 室	①事業計画 1 について ③事業計画 4 について	②事業計画 3 について ④事業計画 6 の事業報告について
第 1 0 回 委 員 会	9 月 26 日	有 限 会 社 ヒ ガ シ 防 水 会 議 室	①事業計画 1 について ③事業計画 4 について	②事業計画 3 について
第 1 1 回 委 員 会	10 月 16 日	有 限 会 社 ヒ ガ シ 防 水 会 議 室	①事業計画 1 について ③事業計画 4 について	②事業計画 3 について
第 1 2 回 委 員 会	11 月 20 日	有 限 会 社 ヒ ガ シ 防 水 会 議 室	①事業計画 1 について ③事業計画 4 について	②事業計画 3 について
第 1 3 回 委 員 会	12 月 17 日	一 宮 勤 労 福 祉 会 館 第 2 会 議 室	①事業計画 1 について ③事業計画 4 の事業報告について	②事業計画 3 の事業報告について

3. 事業報告

①事業計画1 会員の拡大(1月～12月)

会員の拡大は、一宮青年会議所全体の事業だと捉え一年間活動して参りました。ですが、渉外委員会として目標人数に達しなかったことにお詫び申し上げます。後悔が残る結果となってしまうましたが、その後悔を忘れることなく次年度以降も積極的に拡大活動を行ってまいりたいと思います。12月の最後の最後まで情報提供を含め、拡大活動を積極的に行って下さいました委員会メンバーの皆様に心から感謝申し上げます。

ありがとうございました。

②事業計画2 第40回青年の船「とうかい号」乗船者募集(1月～3月)

2013年度は「とうかい号」事業が開始され、40回の節目を迎えた年でした。その節目となった本年は一宮青年会議所より5名の乗船者を輩出することが出来ました。木村理事長、野々垣副理事長、野杵副理事長を始めとするメンバーの皆様のご尽力により5名の乗船者を輩出することが出来ました。ご協力いただきましたこと、心より感謝申し上げます。また、乗船者の輩出を検討いただいたメンバーや乗船者の募集にご協力いただいたメンバーにも感謝申し上げます。

ありがとうございました。

③事業計画3 各種大会・事業・会議への案内及び参加の促進(1月～12月)

本年度、渉外委員会としては、各種大会・事業・会議の開催目的や参加意義をメンバーにご理解いただくこき、参加をうながし「おもてなしの心」を大切に、心を込めて設営させていただきました。そして、本来の各種大会・事業・会議の参加意義を伝えることで積極的にセミナー等に参加して頂けたと思います。セミナー等の参加で得られた知識や感動が今後の青年会議所活動に必ず役立てられるはずです。また、サービス精神旺盛な委員会スタッフと経験豊かな委員会メンバーの手による想像力を最大限に発揮した設営等を通して、一定の成果を挙げられたのではないかと考えています。1年を通して、全メンバーの皆様のご理解とご協力のもとに本事業を無事に終えることができたことに重ね重ね感謝申し上げます。

ありがとうございました。

④事業計画4 出向者の支援(1月～12月)

「出向者の支援、協力」、そして、出向者とLOMの「かけ橋」となるべく活動して参りましたが、この1年間に山向者の方から色々な話を聞く機会をいただき、また、実際に山向活動されている姿を見て、「山向はLOMの看板を背負っている」ということを実感しました。本年度、日本青年会議所へ9名、東海地区協議会へ2名、愛知ブロック協議会へ22名、夢エリア合同事業へ2名の計35名の山向活動を支えるべく、山向者への敬意と配慮を行動として表し、活動をLOMに伝えることで「山向者とLOMのかけ橋」となる事を目指しましたが、山向者支援として行き届かなかった点、至らぬ点が多々ございました事、心よりお詫び申し上げるとともに、ご多用の中にもかかわらず山向者報告書のご提出を快くご対応いただきましたことに重ねて御礼申し上げます。ありがとうございました。1年間、本当にお疲れ様でした。そして、私たちの山向者支援活動に対して、多大なるご理解とご協力を賜りました全メンバーの皆様に改めて感謝申し上げます。

ありがとうございました。

⑤事業計画5 例会の開催(2月)

開催場所 第1部 愛知学院大学

第2部 ホテル サンプラザシーズンズ

愛知ブロック協議会のスタートとなる名古屋会議を例会に取り込んだ関係で、例会当日は朝早くから第2部終了まで長時間に亘る例会でした。また、一宮の地を離れ遠方の開催となったにもかかわらず、本当に多くのメンバーにご参加頂くことができました。例会では、第1部に「名古屋会議への参加」。第2部では「出向者の壮行会」として開催させて頂きました。出向者がどんな活動をするのか、またどんな支援を求めているのかを、LOMメンバー自らが知ろうとする事が重要だと考え、2013年度が始まってすぐの2月に例会を開催することで出向者の活動が本格化する前に出向者が全メンバーに求める支援は「開催事業への理解と参加」だという事を周知出来たのではないかと思います。そして、例会に向け、私を支え共に活動して頂きましたスタッフ及び委員会メンバーには感謝してもしきれません。本当に感謝でいっぱいです。最後に、本例会にご参加、ご協力頂きましたすべての皆様へ心より御礼申し上げます。

ありがとうございました。

⑥事業計画6 第40回青年の船「とうかい号」の支援(4月～7月)

第40回JC青年の船「とうかい号」は「夢在人～時代の燈火となるために～」をテーマに、渡航先の香港へ6月1日に山航し、6月9日に無事帰港いたしました。乗船者を1週間も「とうかい号」に快く乗船させて頂いた株式会社土川油店様、東和工業株式会社様、アライツ社労士事務所様、株式会社ユースシステム様、株式会社WSS様におかれましては、心より感謝申し上げます。5名の乗船者の皆様は、4月7日の愛知ブロックオリエンテーションから始まり、帰港するまで3ヶ月間お忙しい中、すべての事業に参加して頂く事が出来ました。帰港された時の輝いた笑顔が本当に印象的でした。これからも続く「とうかい号」事業の素晴らしさをしっかりと次年度へ引き継いでまいります。乗船者をサポートして頂いたとうかい号乗船の青年会議所メンバーの皆様、そしてとうかい号の重要性を理解して参加して頂いたLOMメンバーの皆様へ心より感謝申し上げます。

ありがとうございました。

4. 最後に

本年、渉外委員会は11名のメンバーと担当副理事長を含め12名で活動させて頂きました。

第1回予定者委員会を12名全員が揃い、2013年度の渉外委員会をスタートできた喜びは今でも鮮明に覚えております。初年度理事として、右も左もわからない私を支えて下さったのは委員会メンバーの皆さんでした。苦しい時にも楽しい時にもいつも委員会メンバーの皆様がそばにいて下さいました。時に厳しく、時にやさしくして下さいました皆さんが居て下さったおかげで本年度を無事終了することができました。私が一年間の委員長職を終了し一番大切だと感じたことは、周りに居て支えて下さるかたへの「感謝の心」です。2013年度渉外委員会を作り上げて下さいました委員会メンバーの皆様、そしてお力添えいただきました理事会構成メンバーの皆様、渉外委員会の事業にご協力頂きました全メンバーの皆様は今一度心より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

総務・広報委員会

1. 委員会構成メンバー

担当副理事長	野杵 晃充	委員	今井 拓也
委員長	加藤 貴恭		岩満 誠
副委員長	野村 一磨		鵜飼 謙嘉
副委員長	村井 伸仁		小川 嘉信
幹事	大宮 有貴		鈴木 強司
幹事	加藤 武志		



2. 委員会開催報告

内容	月日	場所	内容
第1回予定者委員会	9月24日	菊水会議室	①基本方針(案)について
第2回予定者委員会	10月10日	株式会社セルフサポート 会議室	①基本方針(案)について ②事業計画(案)について ③予算(案)について ④事業計画1(案)について
第3回予定者委員会	10月24日	株式会社セルフサポート 会議室	①基本方針(案)について ②事業計画(案)について ③予算(案)について ④事業計画1(案)について ⑤事業計画2(案)について ⑥事業計画3(案)について ⑦事業計画4(案)について
第4回予定者委員会	11月19日	株式会社セルフサポート 会議室	①基本方針(案)について ②事業計画(案)について ③予算(案)について ④事業計画1(案)について ⑤事業計画2(案)について ⑥事業計画3(案)について ⑦事業計画4(案)について ⑧事業計画6(案)について ⑨事業計画7(案)について ⑩事業計画8(案)について
第5回予定者委員会	12月5日	株式会社セルフサポート 会議室	①事業計画1(案)について ②事業計画4(案)について ③事業計画5(案)について ④事業計画6(案)について ⑤事業計画7(案)について
第6回予定者委員会	12月25日	株式会社セルフサポート 会議室	①事業計画1(案)について ②事業計画7(案)について ③事業計画8(案)について
第1回委員会	1月7日	株式会社セルフサポート 会議室	①事業計画1について ②一般社団法人一宮青年 会議所組織図について
第2回委員会	1月24日	株式会社セルフサポート 会議室	①事業計画1について ②事業計画3について ③事業計画4について ③事業計画5について ⑤事業計画6について ⑥事業計画8について ⑦事業計画2の事業報告について
第3回委員会	2月26日	株式会社セルフサポート 会議室	①事業計画1について ②事業計画3について ③事業計画4について ③事業計画5について ⑤事業計画6について ⑥事業計画8について ⑦事業計画2の事業報告について
第4回委員会	3月26日	株式会社セルフサポート 会議室	①事業計画1について ①事業計画4について ③事業計画5について ④事業計画8について
第5回委員会	4月25日	株式会社セルフサポート 会議室	①事業計画1について ②事業計画4について ③事業計画5について ④事業計画7の事業報告について
第6回委員会	5月20日	株式会社セルフサポート 会議室	①事業計画1について ②事業計画9について ③事業計画10について
第7回委員会	6月20日	株式会社セルフサポート 会議室	①事業計画1について ②事業計画9について ③事業計画10について
第8回委員会	7月18日	株式会社セルフサポート 会議室	①事業計画1について ②事業計画9について ③事業計画10について

第 9 回 委 員 会	8 月 22 日	一宮市尾西生涯学習センター	①事業計画 1 について ③事業計画 12 について	②事業計画 11 について
第 1 0 回 委 員 会	9 月 17 日	ホテル名古屋ガーデンパレス 会議室	①事業計画 1 について ③事業計画 12 について	②事業計画 11 について
第 1 1 回 委 員 会	10 月 23 日	株式会社セルフサポート 会議室	①事業計画 1 について ③事業計画 12 について	②事業計画 11 について
第 1 2 回 委 員 会	11 月 20 日	株式会社セルフサポート 会議室	①事業計画 1 について	②事業計画 10 の事業報告 について
第 1 3 回 委 員 会	12 月 20 日	株式会社セルフサポート 会議室	①事業計画 1 について ③事業計画 5 の事業報告に ついて ⑤事業計画 9 の事業報告に ついて	②事業計画 4 の事業報告に ついて ④事業計画 6 の事業報告に ついて ⑥事業計画 12 の事業報告 について

3. 事業報告

①事業計画1 会員の拡大(1月～12月)

私たちの活動を地域に伝播していくためには会員の拡大は非常に重要な事業となります。しかしながら総務・広報委員会として年間を通じて1名のみの拡大となってしまうことを反省しております。今後も活動を継続して行なっていくためにも拡大活動に邁進してまいります。

②事業計画2 賀詞交歓例会の開催(1月)

一宮青年会議所は2013年度より一般社団法人格へ移行しました。移行して初めてとなる賀詞交歓例会の会場を歴史があり市名の由来にもなっている真清田神社参集殿から新しく一宮市のシンボルとなった尾張一宮駅前ビル(i-ビル)に変更させて頂きました。会場変更に関しては、委員会・理事会等で貴重なご意見を頂戴しましたが、ご理解いただき変更することができました。また、例会当日は、駐車場のトラブルもなく来賓の方々が遅参されるという事態を防ぐことができました。初めての会場ということもあり反省点、課題はありますが無事に開催できたのもメンバーの皆様のご協力によるものと感謝申し上げます。ありがとうございました。

③事業計画4 公益社団法人格取得に向けた調査・研究(1月～12月)

2008年の総会決議より各年度の担当者の方々が公益社団法人格取得に向けた活動を行なって参りました。その中でも本年度は、理事長所信の中で「2010年代における公益社団法人格の取得を迷うことなく確実なものにする」と力強く明記されておりました。この重責に不安もありましたが、皆様のご支援、ご協力により活動を行うことができ提言書を作成することができました。この提言書の作成により、公益社団法人格取得に向けて、大きく前進したのではないかと思います。次年度以降は、提言書を実行に移していきながら、更に活動の幅を広げ、この課題をクリアしながらも取得後の取り組みにも着手していただければと思います。公益社団法人格は取得が全てではなく取得後にいかに公益を維持していくかということも重要です。維持の部分を確立していくことは単年度制であり卒業もある青年会議所に非常に重要だと考えます。ありがとうございました。

④事業計画5 強い発信力を備えた広報活動の確立(1月～12月)

広報に関して、担当の委員長の皆様に広報として適切なアドバイスを十分に行えなかったことを反省しております。広報の重要性を理解しつつも実行に移すことの難しさを痛感させられました。広報媒体に関しては、各委員会の皆様にどの媒体で参加して頂いたかを盛り込んで頂きました。ご協力頂きました委員会の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

⑤事業計画6 ホームページの管理運営(1月～12月)

本年度はホームページに加えFacebookを活用して一宮青年会議所の魅力を伝えさせていただきました。例年、同じような内容になってしまっているホームページではありますが愛知ブロック等のバナーを貼るなどの工夫を行いひとりでも多くの方に一宮青年会議所の活動だけではなく青年会議所活動を伝えていただきたいと思います。また、本年度はFacebookを公式に開始させていただきました。Facebookの更新に関しては渉外委員会の皆様に各種大会事業での活動をアップしていただいた事でリアルタイムに情報更新を行うことができました。協力いただきましたメンバーの皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

⑥事業計画7 2012年会報及び2013年度LOM基本資料の発行・発送(2月)

昨年は、LOM基本資料、年会報ともデータでしたが、本年はLOM基本資料に関しては冊子、年会報に関してはデータで発行をさせていただきました。ただ、本来であれば2月の発行でしたが、4月へと開催月を変更したことにより皆様の貴重なお時間を頂戴し臨時総会を開催したことを深くお詫び申し上げます。最後になりますが3年間で年会報、LOM基本資料に関しては「冊子」、「データ」、「冊子とデータ」と色々な方法で発行が行なわれてきました。それぞれに一長一短があります。今後は長所を伸ばし短所を削り、メンバーにとって一番有益な方法で発行され、意味のある年会報・LOM基本資料になればと思っております。ありがとうございました。

⑥事業計画8 例会の開催(5月)

5月度例会として「特定非営利活動団体 志民連 いちのみや」が主催をする第13回杜の宮市に参加をして広報の例会を開催させていただきました。これは、一人でも多くの方に一宮青年会議所を知ってもらい今後の我々の活動に参加してもらうには一宮青年会議所が単独で行うのではなく他の団体と協働して活動を行った方が効果的であると考え杜の宮市に出展させていただきました。出展ブースを見ていただく事の難しさを体感しましたが多くの来場者の方がお見えになる行事では継続してPRを行うことにより一宮青年会議所の存在感を地域(まち)に広げていくことができるのではないかと考えております。

連休中にもかかわらず、多くのメンバーの方に参加して頂き誠にありがとうございました。

⑦事業計画9 2014年度LOM基本資料の作成(9月)

本事業は、次年度が発行を行うための情報収集になりますが少しでも早く変更事項を収集すれば次年度の発行も円滑にすすめることができると感じました。

最後に記載事項確認の返信をいただきLOM基本資料の作成にご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

⑧事業計画10 JCだよりの発行(9月)

木村理事長、野杵理事長候補者を始めとする委員長の皆様には原稿のご協力をいただき誠にありがとうございました。皆様のご協力により期限通りに発行することが出来ました。

本年度のJCだよりでは、少しでも多くのスペースを使い一宮青年会議所の活動を知って頂くために新入会員紹介の項目を削除させていただきました。ホームページ、Facebook以外で私たちの活動を多くの方に知っていただくためにはJCだよりのような配布物は必要ではあります。が、配布先を考慮した内容にしていく事は非常に難しいことだと感じました。このような貴重な経験をさせて頂き誠にありがとうございました。

⑨事業計画11 出席率100%会員及び優秀会員の表彰(12月)

本年度は、優秀会員を部門別とさせていただきます。これにより対内的、出向などで活動をしているメンバーの方にもスポットライトが当たったのではないかと思います。受賞された皆様には挨拶を頂戴しありがとうございました。挨拶を聞かれたメンバーの皆様は次年度以降の活動の励みになったかと思います。また、総会の中ではありま

すが2013年度最後の事業を行なわせていただきましたことに感謝申し上げます。

⑩事業計画 12 2013 年度年会報の作成(12 月)

年会報の原稿を作成する事は日々の活動では時間に追われ振り返ることが難しい状況の中で1年を総括することが出来る貴重な時間だと考えます。原稿を作成されていないメンバーの皆様に関しましても年会報を読んでいただき次年度の活動に繋げていただければと思います。

最後に年会報の作成にあたり、年末の大変ご多用の中、ご協力いただきましたメンバーの皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

4. 最後に

2013 年度の総務・広報委員会は 10 名のメンバーと担当副理事長を含め 11 名で活動させて頂きました。

第 1 回予定者委員会での委員長挨拶で非常に緊張したことを今でも覚えています。また、初めて委員長を拝命し、委員会運営の難しさを痛感した 1 年でした。予定者の段階よりスタッフを始め委員会メンバーの皆様には多大なご迷惑をおかけしましたが皆様の支えがあったお陰で 1 年間活動することができました。

楽しい時、辛い時もありましたが 1 年間総務・広報委員長として活動することができたのも担当副理事長を始めとする委員会メンバーの皆様のお力添えがあったお陰であると感謝申し上げます。

この貴重な経験を今後の活動に活かしていきたいと思います。

本当にありがとうございました。

LOM の未来創造委員会

1. 委員会構成メンバー

担当副理事長	野々垣 聡一郎	
委員長	浅田 佳寿優	
副委員長	梅谷 朋志	久保 辰也
幹事	青山 広己	大島 航
委員	飯盛 好晃	後藤 徹
委員	竹山 聡	安田 敏宏



2. 委員会開催報告

内容	月日	場所	内容
第1回予定者委員会	9月 日	菊水 会議室	①基本方針案について
第2回予定者委員会	10月10日	一宮市尾西生涯学習センター 5階C会議室	①基本方針案・事業計画案・予算案に関する件
第3回予定者委員会	10月23日	一宮市尾西生涯学習センター 5階A会議室	①基本方針案・事業計画案・予算案に関する件 ②事業計画1案に関する件 ③事業計画2案に関する件 ④事業計画3案に関する件
第4回予定者委員会	11月21日	一宮市尾西生涯学習センター 5階B会議室	①基本方針案・事業計画案・予算案に関する件 ②事業計画1案に関する件 ③事業計画2案に関する件 ④事業計画3案に関する件
第5回予定者委員会	12月5日	一宮市尾西生涯学習センター 5階A会議室	①事業計画2案に関する件 ②事業計画3案に関する件 ③事業計画4案に関する件
第6回予定者委員会	12月27日	浅田登記測量事務所 会議室	①事業計画1案に関する件 ②事業計画4案に関する件
第1回委員会	1月7日	浅田登記測量事務所 会議室	①事業計画1に関する件 ②事業計画3に関する件 ③事業計画4に関する件
第2回委員会	1月28日	一宮市尾西生涯学習センター 5階F会議室	①事業計画1に関する件 ②事業計画3に関する件 ③事業計画4に関する件
第3回委員会	2月21日	一宮市尾西生涯学習センター 5階A会議室	①事業計画1に関する件 ②事業計画3に関する件 ③事業計画4に関する件
第4回委員会	3月22日	明治産業株式会社 3階会議室	①事業計画1に関する件 ②事業計画3に関する件 ③事業計画4に関する件
第5回委員会	4月19日	明治産業株式会社 3階会議室	①事業計画1に関する件 ②事業計画3に関する件 ③事業計画4に関する件
第6回委員会	5月21日	愛知県一宮総合運動場 野球場	①事業計画1に関する件 ②事業計画3に関する件 ③事業計画4に関する件 ④事業計画5に関する件
第7回委員会	6月20日	明治産業株式会社 3階会議室	①事業計画1に関する件 ②事業計画3に関する件 ③事業計画5に関する件
第8回委員会	6月27日	浅田登記測量事務所 会議室	①事業計画1に関する件
第9回委員会	7月17日	愛知県一宮総合運動場 会議室	①事業計画1に関する件 ②事業計画3に関する件 ③事業計画5に関する件
第10回委員会	8月19日	浅田登記測量事務所 会議室	①事業計画1に関する件 ②事業計画3に関する件
第11回委員会	9月17日	明治産業株式会社 3階会議室	①事業計画1に関する件 ②事業計画4決算に関する件
第12回委員会	10月18日	浅田登記測量事務所 会議室	①事業計画1に関する件 ②事業計画3に関する件 ③事業計画4決算に関する件 ④事業計画5決算に関する件
第13回委員会	11月21日	明治産業株式会社 3階会議室	①事業計画1に関する件 ②事業計画3に関する件 ③事業計画4決算に関する件
第14回委員会	12月15日	明治産業株式会社 3階会議室	①事業計画1に関する件 ②事業計画2決算に関する件 ③事業計画3決算に関する件
第15回委員会	12月26日	浅田登記測量事務所 会議室	①事業計画1に関する件

3. 事業報告

①事業計画1 会員の拡大（1月～12月）

昨年は会員拡大が成功した年でありました。前年度から引き継いだ内容として、各委員会にも拡大を事業計画として担っていただきました。そうすることにより、LOM 全体で拡大活動を行うことができ、理事会での意見交換の場で LOM 全体の拡大情報を吸い上げました。

本年はご卒業されるメンバーが 13 名いるため、上期での最低目標値として、13 名以上は達成するよう委員会内でも方針が決定しました。また、今年は日本 JC の拡大委員会に林副委員長が出席された影響もあり、拡大率 33%にもこだわり活動を行いました。

各委員長を通じて拡大情報を提供していただき、LOM 全体で拡大に取り組んだ結果、拡大率 33%には到達することができませんでしたが、上期の間で 14 名の入会をしていただくことができました。

これは、木村理事長が拡大に対する思いを常にメンバーに向けて発信していただき、その呼びかけに対しメンバー全員が答えて下さった結果であると感じています。今年で学んだ内容を、来年の担当者に引き継ぎ、拡大活動に邁進していこうと思います。木村理事長を始め、多くのメンバーの皆様へ感謝申し上げます。ありがとうございました。

②事業計画2 会員拡大ツールの作成（1月～12月）

会員の拡大を行うにあたり、有効的なツールの作成を行いました。まずは拡大対象者にアプローチをする際、青年会議所の魅力や過去にどのような事業を行ってきたのかを説明するため、拡大パンフレットを作成しました。青少年事業、地域づくり事業、資質向上事業の 3 項目に分け、メンバーが誰でも簡単に事業説明ができるよう工夫しました。また、体験談を交え、青年会議所に入会するメリットも載せました。

また、拡大状況をタイムリーに伝達するために、メーリングリストと Facebook を活用し情報の共有を行いました。単年度制の悪しき部分である、担当者が変わったら情報自体が不明確になってしまうことを鑑み、過去にアプローチした拡大対象者を調べ上げ、拡大リストとしてデータ化をしました。

次年度以降も活用していただき、拡大の成功に繋げて頂けるものであると思います。

③事業計画3 ふれあい交流活動（1月～12月）

私たち委員会の交流テーマとして、人と人とがふれあう活動を主体に、交流事業を展開し、新しいネットワークと新しい経験を通じ、成長に繋げていこうという思いから本事業計画を立案しました。

一宮市近郊には私たちと同じような目的を持って活動している団体は多数存在しています。その方々と交流することにより、様々な出会いや今度の活動のヒントを得ることができました。

ライオンズクラブが主催である一宮シティマラソンや献血事業、VGL の会が主催の市民と企業の協働フェスタや市民ネットワーク推進事業、他の青年会議所の事業にも積極的に参加させて頂きました。

たくさんの方々との交流を通じ、得られたこの経験が未来の LOM の創造にも繋がるものであると信じています。関係された皆様には大変お世話になりました。本当にありがとうございました。

④事業計画4 例会の開催（8月）

この地域（まち）の人たちに深い繋がりをもって頂きたいという思いを込めて『地域の絆を上げよう！～24 時間駅伝ソフトボール大会～』と題し、各種企業や諸団体、市民の方々にご参加頂きました。全 32 チームで合計 16 試合を 24 時間途切れることなくタスキをつなぎ、地域の絆を深めることができました。皆様の思いを繋いだ結果、78 インニングまで到達し、192 対 167 という試合になりました。また、本例会ではチャリティーの要素も強め、NothingButNets キャンペーンの募金、献血事業も同時に行いました。結果として、14 万円に上る募金と 40 名以上に及ぶ献血活動を達成することができました。

合わせて、地域の笑顔を「ツナゲル」、地域の魅力を「ツタエル」ために、138 市民時計を制作しました。参加された方々や一般来場者の方々から、沢山の笑顔と地域への思いを集めることもできました。

しかし、この例会を開催するまでの道のりは非常に困難の連続でした。当初予定していた会場が急遽変更になり、ゼロからの出発になったこと。屋外での例会となるため、天候への不安。深夜の試合参加チームの募集。たくさんの困難がありましたが、委員会メンバーや LOM メンバーに助けられたからこそ、無事に例会を終えることができたと感じております。

このような 8 月の炎天下の中、2 日間に渡る例会にご参加頂きましたチームの皆様、私たちに最後まで付き合ってくださいました木村理事長を始めとする理事会構成メンバーの皆様、そして、私の思いに答え不眠不休でサポートして頂いた委員会メンバーに大変感謝しております。そして、お盆前の連休にも関わらず、参加下さいました LOM メンバーの皆様。全員の思いが一つに繋がったことで、100%例会も達成することができました。本当に深く御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

開催場所:愛知県一宮総合運動場

開催日時:2013 年 8 月 10 日 18:00～2013 年 8 月 11 日 21:00

⑤事業計画5 例会の開催（9月）

西尾張 6JC 夢エリア合同事業として、9 月に合同例会を開催しました。本年は一般社団法人丹羽青年会議所が主幹となり、扶桑文化会館にて行いました。私と安田委員が夢エリア実行委員会に出席し、他の西尾張 5JC の方々と協力し、本例会の支援・協力をしました。

まずは式典の部として、各青年会議所の 2014 年度の理事長を始めとした役員紹介を行い各理事長様より次年度の活動指針を発表して頂きました。そして講演の部として青山繁晴氏をお招きし、領土領海をテーマにご講演をいただきました。多くの一般来場者と共に、竹島問題や尖閣諸島問題などについての知識と理解を深めることが出来たと思います。

多くの方にご参加いただき、誠にありがとうございました。

開催場所:扶桑文化会館

開催日時:2013 年 9 月 15 日 15:00～18:30

4. 最後に

本年、LOM の未来創造委員会は、会員の拡大と、地域の方々との交流を柱に、年間活動を行いました。また、前述した事業計画以外にも、私たちの姉妹 JC である大邱江北青年会議所との交流活動も行いました。毎年 6 月に開催されます ASPAC (アジア太平洋エリア会議) が、今年は韓国の光州にて開催されました。それに伴い、大邱江北青年会議所メンバーと共同でジャパンナイトにブースを出展させて頂きました。

日韓の友好を、食を通じてアジア諸国に伝えるべく、日本の蕎麦を用い、和風の蕎麦と韓国風の蕎麦を提供しました。400 食以上用意しましたが、非常に盛況であったため、わずか 1 時間足らずで完売となりました。例年の姉妹 JC との交流では得られない経験と、更なる友情を築くことができた実感しています。また、大邱江北青年会議所メンバーの皆様には 11 月に来日していただき、京都観光等を通じて日本の文化に触れて頂きました。

このような姉妹 JC との交流や会員の拡大、そして 8 月及び 9 月の例会の開催。これらの大切な担いが無事に終えることができたことは、木村理事長を始めとし理事会構成メンバーの皆様のアドバイスと多大なるご協力があったからこそ、このような結果を迎えられたと思っています。本当に感謝申し上げます。そして、担当副理事長として、強力なリーダーシップで私と委員会を牽引して頂き、たくさんの経験と、ここまで導いて下さいました野々垣担当副理事長、本当にありがとうございました。経験の浅い私が、議案や事業の組み立て、委員会運営に苦戦している時、いつも傍にいてくれサポートして頂いた梅谷副委員長と久保副委員長。私の無理や我儘に対しても嫌な顔を一つも見せず、付き合ってくれた青山幹事と大島幹事。スタッフメンバーには本当に感謝申し上げます。そして委員会では貴重な意見と心優しいアドバイスを与えて下さり、例会や事業では常に全力で支えて下さいました飯盛委員、後藤委員、竹山委員、そして安田委員。素晴らしい仲間巡りに巡り合えたことに感謝いたします。

最後になりますが、今年一年を通じて LOM メンバー皆様のご協力、ご支援があったからこそ事業目的が達成できたと実感しております。全ての皆様に改めて感謝申し上げます。誠にありがとうございました。



ひと・まち・未来創造委員会

1. 委員会構成メンバー

担当副理事長	戸松 稔貴	
委員長	石川 佳照	
副委員長	高月 英昭	
副委員長	野田 敏弘	
委員	尾上 宜正	川島 達司
委員	酒井真一郎	鈴木 昌弘
委員	松田 樹直	



2. 委員会開催報告

内容	月日	場所	内容
第1回予定者委員会	9月21日	菊水会議室	①基本方針案について
第2回予定者委員会	10月10日	アイブラザー宮第2日本間会議室	①基本方針案について ②事業計画案について
第3回予定者委員会	10月23日	ピュアフィールド株式会社会議室	①基本方針案について ②事業計画案について ③予算案について
第4回予定者委員会	11月20日	一宮スポーツ文化センター第6会議室	①基本方針案について ①業計画案について ③予算案について
第5回予定者委員会	12月7日	一宮市民会館第2会議室	①事業計画1案について
第6回予定者委員会	12月25日	一宮スポーツ文化センター第6会議室	①事業計画1案について ②事業計画2案について
第1回委員会	1月7日	一宮市民会館第2会議室	①予算案について ②事業計画1について
第2回委員会	1月29日	一宮市民会館第2会議室	①事業計画1について ②事業計画2について ③事業計画3について
第3回委員会	2月26日	一宮市民会館第2会議室	①事業計画1について ②事業計画3について
第4回委員会	3月22日	一宮市民会館第2会議室	①事業計画1について ②事業計画3について ③事業計画4について
第5回委員会	4月19日	一宮市民会館第2会議室	①事業計画1について ②事業計画3について ③事業計画4について
第6回委員会	5月10日	有限会社テル会議室	①事業計画1について ②事業計画3について ③事業計画4について
第7回委員会	5月28日	一宮市民会館第2会議室	①事業計画1について ②事業計画4について
第8回委員会	6月20日	愛知県勤労福祉会館第4会議室	①事業計画1について ②事業計画2について ③事業計画3について
第9回委員会	7月11日	一宮市民会館第2会議室	①事業計画1について ②事業計画3について
第10回委員会	7月25日	一宮市民会館第2会議室	①事業計画1について ②事業計画2決算について ③事業計画3決算について ②事業計画4について
第11回委員会	8月22日	一宮市民会館第2会議室	①事業計画1について ②事業計画2決算について ③事業計画3決算について ②事業計画4について
第12回委員会	9月12日	一宮市民会館第2会議室	①事業計画1について ②事業計画2決算について ③事業計画3決算について ②事業計画4について
第13回委員会	10月15日	有限会社テル会議室	①事業計画1について ②事業計画4について
第14回委員会	10月30日	有限会社テル会議室	①事業計画1について ②事業計画3決算について
第15回委員会	11月19日	有限会社テル会議室	①事業計画1について ②事業計画4決算について
第16回委員会	12月17日	有限会社テル会議室	①事業計画1について

3. 事業報告

①事業計画 1

会員の拡大(1月～12月)

本年度、ひと・まち・未来創造委員会は、ひととまちの未来を共に創造するために拡大を行ってまいりました。7月例会では、拡大ブースを設置させていただき、多くの呼びかけを行いました。また、10月例会においても、出店者の皆様や来場者の皆様にPRを行いました。特に10月例会では、出店者、出店希望者から、2014年度入会希望者を拡大することができました。ともに活動を行う中でメンバー皆様のお声掛けを通じて青年会議所に対しての理解を得ることができた結果かと思えます。1年を通じて委員会メンバーも大変お忙しい中、日々拡大意識を持ちながら事業遂行をしたおかげで拡大活動を進めることができたかと思えます。今後の青年会議所活動を進めていくためにもこれからも拡大意識を持ち続けていきたいと思えます。

② 事業計画 2

「強く生きる力」の育成(4月～7月)

4月公開例会におきまして、『『失敗は成功のもと』～夢に向かって歩むために～』と題しまして、ウィットレッド・ブルース・エドワード氏をお迎えして、子供たちが「強く生きる力」を育むためにはどのように進んでいけばいいか、夢や希望に向かって少しずつ歩み続けることの大切さについて、講師の経験や体験談をもとにご講演いただきました。

講演後、ブルース講師からの学びを実践するために4月～7月公開事業として「小さな成功を築こう！Let's ジャグリングチャレンジ！」と題しまして、参加者の子供たちとともに、ジャグリングにチャレンジしていただきました。チーム毎に別々の種目にチャレンジしていただきました。初めはなかなかうまく行かない中で参加者は、目標をもって毎日少しずつ練習を行って行き、練習会毎に本当に成長していききました。できなかった種目が少しずつ成功できるようになり、参加者にも自信の表情が徐々に芽生えてきました。目標に達成していない仲間を助けあって練習に進んでいくことで思いやりの心を育てていきました。ジャグリング発表会では、すべての参加者が、自分の目標に達成することができました。

本事業の経験を活かして、参加者の皆様には自身の夢や希望に向かって歩み続けて「強く生きる力」を育み続けていただけたら幸いです。

開催場所:

【4月度公開例会】、【練習会#1】

尾西グリーンプラザ 多目的ホール

【練習会#2】

一宮市総合体育館 いちい信金アリーナ B

【練習会#3】

一宮スポーツ文化センター 体育室

【練習会#4】

一宮市総合体育館 いちい信金アリーナ A

【発表会事前練習会】、【発表会】

尾西グリーンプラザ 体育室

③ 事業計画 3

例会の開催(7月)

7月度公開例会におきまして、青少年と市民の皆様に向けて「仲間の絆～夢と希望に向かって～」と題しまして、アルピニスト野口健氏をお招きして講演会を実施しました。野口講師には、講師が学生時代に経験した、夢に向かうあきらめない心、未来に向かってこつこつと歩いていく大切さ、仲間を信

じ合い、助け合い、支え合うことの大切さを学んでいただきました。そして、自分が夢に向かう時に、明確な理由をもって進んでいくことを学んでいただきました。またアンケートを通じて、自分の夢を再認識していただきました。

市民の皆様には、講師の体験した幼少期に経験した母との絆、父との信頼関係を通じて、大人として見守り、手を差し伸べることの大切さを再認識していただきました。また、エベレスト登頂までのエピソードを通じて、大人として夢に向かって諦めない心、仲間との絆を青少年たちに伝えていく大切さを再認識していただきました。青少年の参加者の皆様には、広い視野を持ち柔軟な発想を持って未来に向けて歩み続けていただけたら幸いです。

開催場所:

一宮市尾西市民会館 ホール

④ 事業計画 4

まちを愛する”こころ”の発信(7月～10月)

本事業では、継続事業としまして、「第2回 ICHINOMIYA ふるさと 郷土グルメグランプリ」を開催いたしました。今回のテーマは、「新たなるソウルフードを求めて」と題しまして、地域まちのひとたちと共に地域まちの魅力やたからを再発見し、そこから未来の一宮に通じる魅力やたからを創造し未来のまちのひとたちのために発信していくことを目的として、開催いたしました。

出店者の皆様には、メニュー考案シートを活用していただき、一宮をイメージできるメニューを考案していただきました。出店者の皆様には一宮市のことを真剣に考えていただき、様々なユニークなメニューを考案していただきました。当日は悪天候の中でしたが、3000名を超える来場者の皆様にお越しいただきました。来場者の皆様からも一宮の魅力やたからを再確認できたとアンケートよりお答えいただけました。今後も、市民の皆様と共に、一宮市の地域活性化に向けてまちを愛する“こころ”を伝播し続けていきたいと思えます。

開催場所:

【7月度公開事業】

一宮勤労福祉会館 小ホール

【9月度公開事業】

一宮スポーツ文化センター

3F 小ホール及び調理室

【10月度公開例会】

138 タワーパーク イベント広場

4. 最後に

本年、ひと・まち・未来創造委員会は、3回の公開例会、6回の公開事業を開催させていただきました。すべての事業において、メンバーの皆様におきましては、ご多忙の中、ポスター配布、集客、事業での設営など多くのご協力いただきましたこと大変感謝しております。皆様のご協力無くしては、何一つとして進むことはできませんでした。本当にありがとうございます。特に委員会の皆様には、多くの知恵とお時間をいただきました。委員会メンバーと過ごした日々本当に大切な思い出です。本当にありがとうございます。

これからも、子供たちが夢をもって歩み続けられる、豊かな一宮市の創造に向けて今後もひとを愛する“こころ”、まちを愛する“こころ”を伝播し続けていきたいと思えます。本当に本当にありがとうございます。

経営力開発委員会

1. 委員会構成メンバー

担当副理事長	野田 一郎	委 員	小寺 浩至
委 員 長	森 功一郎	委 員	玉田 秀志
副 委 員 長	土川 功介	委 員	土川 正夫
副 委 員 長	林 輝暢	委 員	眞野 尚人
幹 事	石黒 秀幸		
幹 事	加古川 和也		
幹 事	平松 道介		

委員会写真



2. 委員会開催報告

内容	月日	場所	内容
第1回予定者委員会	9月24日	菊 水 会 議 室	①基本方針案について
第2回予定者委員会	10月4日	尾西生涯学習センター 会議室	①基本方針案について ②事業計画案について
第3回予定者委員会	10月26日	尾西生涯学習センター 会議室	①基本方針案について ②事業計画案について ③予算案について
第4回予定者委員会	11月21日	尾西生涯学習センター 会議室	①基本方針案について ②事業計画案について ③予算案について
第5回予定者委員会	12月6日	i - ビ ル 6 階 小 会 議 室	①事業計画1について ②事業計画2について
第6回予定者委員会	12月28日	土 川 油 店 会 議 室	①事業計画1について ②事業計画2について
第1回委員会	1月3日	土 川 油 店 会 議 室	①事業計画1について ②事業計画2について
第2回委員会	1月22日	土 川 油 店 会 議 室	①事業計画1について ②事業計画2について
第3回委員会	1月29日	i - ビ ル 6 階 小 会 議 室	①事業計画1について ②事業計画3について
第4回委員会	2月26日	土 川 油 店 会 議 室	①事業計画1について ②事業計画3について
第5回委員会	3月22日	土 川 油 店 会 議 室	①事業計画1について ②事業計画2決算について ③事業計画3について
第6回委員会	4月19日	土 川 油 店 会 議 室	①事業計画1について ②事業計画2決算について
第7回委員会	5月28日	土 川 油 店 会 議 室	①事業計画1について ②事業計画2決算について ③事業計画4について
第8回委員会	6月24日	土 川 油 店 会 議 室	①事業計画1について ②事業計画2決算について ③事業計画4について
第9回委員会	7月22日	土 川 油 店 会 議 室	①事業計画1について ②事業計画2決算について ③事業計画3決算について ④事業計画4について
第10回委員会	8月27日	土 川 油 店 会 議 室	①事業計画1について ②事業計画3決算について
第11回委員会	9月24日	土 川 油 店 会 議 室	①事業計画1について ②事業計画3決算について
第12回委員会	10月29日	土 川 油 店 会 議 室	①事業計画1について
第13回委員会	11月26日	土 川 油 店 会 議 室	①事業計画1について ②事業計画4決算について
第14回委員会	12月26日	土 川 油 店 会 議 室	①事業計画1について

3. 事業報告

①事業計画 1

会員の拡大(1月～12月)

本年度経営力開発委員会は、会員拡大が全体事業であると言うことを認識し、公益社団法人格取得のためにも会員を増強する目的のもとに 1 年間拡大活動を展開してまいりました。我々、経営力開発委員会の例会がすべて公開ということもあり一般参加者の募集に拡大対象者の方々に積極的に声を掛けさせていただき例会に参加していただき青年会議所の雰囲気を感じていただくことで入会に興味を持ていただいた方々もお見えになりました。委員会としては全員が一人でも拡大できるように、12 月の最後の最後まで積極的に拡大活動を実践していただいた公益社団法人日本青年会議所 拡大委員会に出向された林副委員長はじめ委員会メンバーの皆様にご感謝しております。ありがとうございました。次年度は公益社団法人日本青年会議所 拡大委員会 会計幹事として、引き続き拡大活動に取り組んでいきたいと思ひます

ありがとうございました。

②事業計画 2

例会の開催(3 月)

3 月度公開例会では「使命感を育み不屈の精神をつくる」と題しまして第 38 回 JC 青年の船とうかい号で講義をされた、パーソンズリンク代表 桑名正典氏を講師に迎え、経営者としての使命感を育む公開例会を二日間に亘り開催しました。

1 日目では桑名講師の指導の下、過去の自分を振り返りながら、普段あまりじっくり考えることが出来ない自分が本当にしたいことは何なのかということを真剣に考えることによって自分の使命を見つけ出しました。

2 日目には 1 日目で見出した使命を周りの人に宣言することによって心に深く刻み込むという使命のインストールをしました。

参加された一般参加者の方からは大変好評をいただき、自分の使命が分かって良かった、明日から仕事をするモチベーションが上がったなどの感想をいただき長時間ではありましたが、非常に有意義な時間を提供出来たと感じております。

開催場所:一宮スポーツ文化センター 小ホール

③事業計画 3

例会の開催(6 月)

6 月度公開例会では「目指せ 100 年企業～企業永続の秘訣とは～」と題しまして企業が永続していくために必要な経営資質を向上させるという事業目的を達成するため 2 部構成とし、第一部では事前に委員会メンバーで永続している優良企業 3 社、伊那食品工業株式会社様、杉山フルーツ様、石川鑄造株式会社様へインタビューを敢行した結果をスライド、映像を用いて参加者の方へプレゼンをしました。また第 2 部では「日本でいちばん大切にしたい会社」の著者でもあります法政大学大学院政策創造学科教授 坂本 光司 氏を講師にお迎えし永続している企業の共通点について講演を賜りました。

講演後の質疑応答では多数の一般参加者から質問がされ、坂本講師も丁寧に一人ひとりに回答をしていただきました。

最後には 100 年後の経営ビジョンをビジョンシートに記入していただき記念撮影をしました。こちらの写真は希望者へは後日メールにて配信し、気持ちを新たにさせていただく工夫もいたしました。

開催場所:iビル 2 階大会議室

④事業計画 4

例会の開催(11 月)

11 月度公開例会では「青年経済人 渡邊美樹に訊け! ～地域社会から信頼される企業とは～」と題しまして地域社会から信頼される企業づくりができる人材を育成するため、ワタミ創業者 渡邊美樹氏をお招きし、講演をしていただきました。

渡邊氏が 10 歳の時に父親の会社がうまくいかず、その姿を見て将来社長になろうと決めた話から始まり、学生時代に北半球 1 週旅行でどういった事業をしていくのか決め、24 歳の 4 月に社長になると夢に日付を入れ、宅配ドライバーで資本金を準備し実際に 24 歳で社長になり、つば八のチェーン店で大繁盛店を作った結果、年収が一億円を超えました。しかしここで自分のために家や車を買うことに対して後ろめたさを感じられ、考え抜いた挙句たどり着いたのが、この稼いだお金は自分のものではない、働いた社員のお金だという事実でした。その事に気づかれた渡邊氏は会社の利益はすべて社員のために使おうという考えになり、これからは社員の幸せのために社長して経営をしていかなければならないという使命感を持たれました。これは 6 月度例会の坂本講師が話されていた永続企業の条件と重なる部分でもあり、私はこの考えに大変感銘を受けました。

また渡邊氏が事業を行うときに考えられるのは常に利用者、お客様のことであり、お客様たちからたくさんのありがたいを頂くことだけを考えて長い間仕事をしてこられた結果、地域社会からも信頼され、現在のように会社が発展したことも分かりました。

最後の質疑応答でも活発な問答がされ、地域の経営者の方へ信頼される企業とは何なのか考えていただく機会を提供出来たと感じております。

開催場所:一宮市民会館 ホール

4. 最後に

本年、経営力開発委員会は、3 回の公開例会を通じ、地域社会で活躍されている青年経済人のお役に立てるようがんばって参りました。

3 月度例会では経営者としての使命感を育み、6 月度例会では企業永続について理解を深めていただきました。そして最終 11 月度例会ではそれらを実現されている渡邊美樹氏をお招きし、ご自身の経験に基づく説得力のあるお話で地域社会から信頼される企業というのはその企業に関わる人たちから多くの「ありがとう」をいただくことによって実現していくことを分かりやすくご説明いただき、そういった企業づくりができるように参加者に対してしっかりと後押しをしていただけました。

最後になりますが、木村理事長を始め、理事会構成メンバー、LOM メンバー、委員会メンバーの皆様には例会の開催にあたり、快くご協力いただきましたこと、心より感謝申し上げます。本年は委員長として青年会議所会員であることに対して誇りを感じる事が出来た一年でした。本当に一宮青年会議所に入会して良かったと思っております。

今後は、この 1 年の経験を皆様へ少しでも還元できるように JC 活動に邁進して参りたいと考えております。1 年間誠にありがとうございました。

人間力アカデミー委員会

1. 委員会構成メンバー

担当副理事長	野田一郎								
委員長	石川昌臣								
副委員長	野田周平	森一彦							
幹事	伊藤基児	大宮和広	早川彰						
委員	尾関利規	足立洋一	木村亮	小松明生	坂倉慶信				
上期正会員	石井隆史	岩井雄介	大野陽平	近藤篤俊	山岡大介				
下期正会員	今西達也	岩田賢治	岩田祐治	倉田健嗣	下村圭司				
予定者	中俣一誠	野村和弘	馬場和也	星山隼輝	平岡勇治				
	広瀬和義	松村奈那子	吉次和彌	吉村友里					

2. 委員会開催報告

内容	月日	場所	内容
第1回予定者委員会	9月24日	菊水会議室	①基本方針案について
第2回予定者委員会	10月10日	森吉通運株式会社 本社会議室	①基本方針案について ③予算案について ②事業計画案について ④事業計画2について
第3回予定者委員会	10月23日	森吉通運株式会社 本社会議室	①基本方針案について ③予算案について ②事業計画案について ④事業計画2について
第4回予定者委員会	11月19日	森吉通運株式会社 本社会議室	①基本方針案について ③予算案について ②事業計画案について ④事業計画2について
第5回予定者委員会	12月6日	森吉通運株式会社 本社会議室	①事業計画1について
第6回予定者委員会	12月28日	森吉通運株式会社 本社会議室	①事業計画1について
第1回委員会	1月7日	森吉通運株式会社 本社会議室	①予算案について
第2回委員会	1月29日	森吉通運株式会社 本社会議室	①事業計画1について ②事業計画4について
第3回委員会	2月26日	森吉通運株式会社 本社会議室	①事業計画1について ②事業計画3について
第4回委員会	3月26日	森吉通運株式会社 本社会議室	①事業計画1について ③事業計画4について ②事業計画3について
第5回委員会	4月25日	森吉通運株式会社 本社会議室	①事業計画1について ③事業計画4について ②事業計画3について
第6回委員会	5月10日	森吉通運株式会社 本社会議室	①事業計画1について
第7回委員会	5月27日	森吉通運株式会社 本社会議室	①事業計画1について
第8回委員会	6月24日	森吉通運株式会社 本社会議室	①事業計画1について
(上期オリエンテーション) 第1回オリエンテーション	1月9日	愛知県一宮勤労福祉会館第3会議室	①初顔合わせ ③JCとは ②JCガイダンス ④他己紹介
第2回オリエンテーション	2月4日	愛知県一宮勤労福祉会館第5会議室	①魁JC塾 ②委員会説明
第3回オリエンテーション	3月11日	一宮スポーツ文化センター体育室	①響けシャウト心の叫びを
第4回オリエンテーション	4月9日	愛知県一宮勤労福祉会館第6会議室	①理事会傍聴
第5回オリエンテーション	5月2日	愛知県一宮勤労福祉会館第5会議室	①模擬委員会

第 6 回オリエンテーション	6 月 2 日	大 野 極 楽 寺 公 園 視 聴 覚 室	①上期予定者設営オリエンテーション
第 9 回 委 員 会	7 月 16 日	森吉通運株式会社 本社会議室	①事業計画 1 について ③事業計画 3 決算について ⑤事業計画 6 について
第 10 回 委 員 会	8 月 19 日	森吉通運株式会社 本社会議室	②事業計画 2 決算について ④事業計画 5 について
第 11 回 委 員 会	9 月 17 日	森吉通運株式会社 本社会議室	①事業計画 1 について ③事業計画 5 について
第 12 回 委 員 会	10 月 23 日	森吉通運株式会社 本社会議室	②事業計画 3 決算について ④事業計画 6 について
第 13 回 委 員 会	11 月 27 日	森吉通運株式会社 本社会議室	①事業計画 1 について ③事業計画 6 について
第 14 回 委 員 会	12 月 19 日	森吉通運株式会社 本社会議室	②事業計画 5 について
(下期オリエンテーション) 第 1 回オリエンテーション	7 月 1 日	愛知県一宮勤労福祉会館第 3 会議室	①事業計画 1 について ③事業計画 5 決算について ④事業計画 6 決算について
第 2 回オリエンテーション	7 月 23 日	愛知県一宮勤労福祉会館第 5 会議室	①初顔合わせ ③JCとは
第 3 回オリエンテーション	8 月 6 日	愛知県一宮勤労福祉会館第 6 会議室	②JCガイダンス ④他己紹介
第 4 回オリエンテーション	8 月 25 日	富士山 富士宮登山道	①魁JC塾 ②委員会説明
第 5 回オリエンテーション	9 月 19 日	愛知県一宮勤労福祉会館第 3 会議室	①理事会傍聴
第 6 回オリエンテーション	11 月 11 日	愛知県一宮勤労福祉会館第 3 会議室	①富士登山 ①模擬理事会 ①歴代理事長講話

3. 事業報告

①事業計画1 会員の拡大

魅力あふれる次世代の会員を拡大する目的のもと、会員拡大活動を行いました。思わしい実績を出せなかったのは私の力不足とリーダーシップが足らず、委員会メンバーの力を引き出せなかった事が原因だと感じています。所帯の大きい委員会では1人1人の力を引き出せば、もっと実績が出せたのかもしれませんが。申し訳ありません。しかしながら会員拡大はこれからも必須の活動である事は間違いありません。これからも会員拡大に邁進していきたいと思っています。

②事業計画2

上期オリエンテーションの開催（1月～6月）

青年会議所の仕組みや一宮の歴史・伝統を伝えると共に、会員1人1人の人間力の向上を図るべく全6回の上期オリエンテーションを開催させて頂きました。上期予定者5名、初顔合わせから始まり各オリエンテーションに参加して貰いました。積極的に参加してくれた5人のおかげで順当にオリエンテーションを進める事が出来ました。中でも第6回オリエンテーションで予定者が自ら考え、全会員に人間力の向上を図ってもらう目的で企画、設営をしてもらい、体力測定と己の精神を養うため写経を行ってもらいました。沢山のメンバーにご参加いただき本当にありがとうございました。内容の善し悪しよりも一つの目的のために考え努力をして当日を迎える事の大切さや、喜びを予定者の5名は感じてもらえたのではないかと思います。皆さんのおかげをもちまして、何とか上期5名を正会員にする事が出来ました。しかしながら第3回のオリエンテーションでの参加人数不足や内容の不手際には多くの反省を残す事になったのはこの場をお借りしてお詫び申し上げます。また半年を通して会員の参加や段取などの反省を下期に繋げる必要性を感じました。

③事業計画3

西尾張6JC合同オリエンテーションの開催（7月）

一般社団法人稲沢青年会議所さん主管のもと、西尾張6JC合同例会に参加をさせて頂きました。

講演では2006年度日本青年会議所専務理事を務められました小松範行先輩に「何のためにJC活動をするのか」を演題にご講演を頂きました。

下期予定者にはJCの組織の事や目的意識を持って活動する事の必要性を感じてもらえたと思います。また入会3年未満会員にとっても日本JC、地区、ブロックとの関係性や地域とのつながりなど広い視野で活動することのお話も今度の糧になる有意義な時間だったかと思います。

④事業計画4

下期オリエンテーションの開催（7月～12月）

下期オリエンテーションでは14名の下期予定者を迎え全6回開催をさせて頂きました。初めは14名という人数に戸惑いや本当にまとめる事が出来るのかという不安がありました。しかしながら始まったからには出来る事を実直にこなすだけだという事でバタバタとオリエンテーションは進んで行きました。初めはぎくしゃくしていた予定者も回数を重ねるごとにだんだん打ち溶けていく事が出来ました。オリエンテーションとしては第4回に人間力向上の目的で富士登山を行いました。非常に少ない

参加人数となってしまった事、非常に天候が優れない中での開催になった事で体力的、精神的に参加頂いた皆さんには御負担をおかけしました。その意味では人間力の向上に近づけたのかもしれませんが沢山の不手際や反省があった事は否めないと思います。もっと沢山の会員に参加して貰うべきでした。また第6回では歴代理事長の村手誠先輩をお迎えしてご講話を頂きました。本当に豊富な経験をもとにした素晴らしい講話をいただきました。予定者にも分かりやすく今後の糧になったと確信しています。ありがとうございました。また半年間を通じて2名の予定者を正会員とする事が出来ませんでした、せっかく拡大して頂いた方には本当に申し訳なく思います。この場をお借りしてお詫び申し上げます。しかし14名のうち12名の新しい仲間がこれからの一宮青年会議を盛り上げてくれる事は大いに期待していきたいと思っています。半年間本当にありがとうございました。

⑤事業計画5

卒業例会の開催(12月)

2013年度の卒業生としては13名の卒業生を送り出す卒業例会を開催させて頂きました。毎年行われる卒業例会ではありますが、色々な議論を重ね本年は例年とは少し違う形で行わせて頂きました、例会内ではおおむね時間通りで行う事が出来ました。しかしながら段取上の不手際や設営での不備があった感は否めません、もっとしっかりとしたりハールと打ち合わせ、役割分担の明確を徹底すべきだったと反省しております。しかし予定者にとっては卒業生への贈り物の出し物を考え、練習をして当日を迎えてもらいました。この練習を通じて上期、下期の垣根を取り払い今後の青年会議所活動になくはならない絆が出来たのではないかと感じています。しかしその後の懇親会では沢山の先輩に駆けつけて頂いたにもかかわらず、数々の不手際や配慮が至らなかった事を大変申し訳なく思います。初めての試みだったとはいえもっとしっかりとのお迎えする姿勢がひと用だったと思います。この場をお借りしてお詫びを申し上げます。大変申し訳ありませんでした。しかしこの例会の最後まで卒業生を送り出すため参加していただきました会員の皆様の気持ちは、卒業生のみなさんに伝わったのではないかと思います。ご参加頂きましたみなさま本当にありがとうございました。

開催場所 一宮商工会議所

⑥事業計画6

卒業記念品の贈呈(12月)

卒業生に感謝と敬意を表し記念品を贈呈させて頂きました。卒業後に使う道がなくなるネームプレートとバッチを飾る事の出来る金属製のプレートと台座を贈らせていただきました。特殊な技術を持っている会員の職業での知恵をお借りして制作まで至る事が出来ました。

4. 最後に

本年、人間力アカデミー委員会は、上期5名、下期14名の正会員予定者をお預かりして活動させて頂きました。まずはこの素晴らしい人財を拡大して下さった前年、本年度拡大委員長、そして上期、下期予

定者を暖かく見守ってくださいました全ての皆様に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。結果として上期5名と下期12名を正会員として次年度にお渡しする事となりました。全ての予定者を正会員とする事ができなかったのは私の不徳の致すところだと思います、本当に申し訳ありませんでした。また12回のオリエンテーションと各種例会など1年を通じて上期、下期のみんなに全てを伝えきれなかったと感じています。まだ残るJCライフで引き続き彼らと共に教え学び合う関係でありたいと思います。また人間力アカデミー委員会として人間力向上のオリエンテーションも開催させていただきました。参加としては思わしくない回が多かった事は本当に反省しかありません、参加して貰えなければ何も結果は残らないと思います。その意味では沢山の課題を残す事となってしまいました。大変申し訳ありません。最後になりますが、本当にこの1年と4カ月長いようで短い時間でした。この間こんな僕を暖かく見守っていただきました木村理事長初め正副監事の皆様、いろいろわがままを言いましたが自由にやらせてもらいました野田担当副理事長、色々忙しかったけど最後まで相談に乗ってもらいました野田副委員長、ちょっと息切れもあったけど最後まで支えてくれました森副委員長、予定者のいい兄貴分だった伊藤幹事、いつも僕のそばにいてくれて心の支えになってくれました大宮幹事、ブロック頑張った早川幹事、ムードメーカーで木村直前と仲良くしてくれた足立委員、色々親身に相談に乗ってくれた尾関委員、御意見番として本気で意見を述べてもらいました木村直前理事長、どんな場面でも参加し助けてもらいました小松委員、ブロックアカデミー委員長忙しい中でもいつも心配してくれました坂倉委員、そして元気に仲良く活動してくれた上期、キャラクターぞろいだけと芯のある頼もしい下期みんなのおかげで最後までやり遂げる事が出来ました。いろいろ頼りないところもあったかもしれませんが最後まで支えていただきました。1年4カ月本当に僕にとって素晴らしい時間とする事ができました。本当にありがとうございました。



監 事 所 感

監事 小川 勝之

監事 尾関 栄司

2013 年度は、木村憲彦理事長の掲げるスローガン「進もう未来へ、繋ごう想いを ～すべてはここに地域のために～」のもと、70 数名のメンバーが活躍されました。そんな活動の足跡を監事としての観点から所感を述べさせていただきます。

事務局

理事長と常に行動を共にし、かつ理事会をスムーズな運営のための資料作り及び取りまとめ、理事会設営等、決して表に出ないところで 1 年間 LOM を支えていただきありがとうございました。理事長と共に行動した経験は、貴重な体験でありかつ今後に活かされてくることと思われます。今後のご活躍に期待しております。

渉外委員会

基本方針にある「おもてなしの心」を十分重きにおいた渉外活動が出来たと思われます。出向者支援を含め、各種大会・会議へのメンバーへの呼びかけ及び現地での設営は、坂井田委員長のリーダーシップのもと、見事 LOM をひとつに纏め上げることが出来たと感じております。出向者の皆さんも出向先では非常に心強く活動が出来たことと思われます。大変苦勞されたと思いますが、一年間最後まで本当にお疲れ様でした。

総務・広報委員会

1 月の賀詞交歓例会では、初めての試みに挑戦しいい面も悪い面も出た例会ではなかったかと思います。今後、より精度を高めていただける貴重な体験をした加藤委員長をはじめとする委員会メンバーは積極的に賀詞例会に関わっていただき今後に期待をしております。また、ホームページの管理・運営及び財務管理について、厳正かつ迅速に行っていただいております。決して表には出ない裏方の地道な作業ではありませんが、総務・広報委員会なしでは、LOM は決して成り立ちません。影の黒子役として本当に 1 年間ご苦勞様でした。本年の経験を次年度以降活かしていただくことをご期待しております。

LOM の未来創造委員会

100 名 LOM を目指しスタートした会員拡大活動、結果的に達成は出来ませんでした、浅田委員長のリーダーシップのもと、27 名というすばらしい結果を残すことが出来たこと、お礼申し上げます。また、会員を拡大するだけではなく、予定者として参加するメンバーをしっかり支えていただきました。今後も継続して行っていただけること期待しております。そして、交流活動では、新しい試みとして他団体との交流を 1 年通して活動していただきましたこと本当にご苦勞様でした。JC では学べない数々の勉強が出来、かつ貴重な経験をする事が出来たと思います。今後 LOM 内に還元し益々 LOM が繁栄することをご期待しております。また、姉妹 JC との交流・クリス

マス家族会等、委員会メンバー一人ひとりがホスト役として徹していただいたおかげで何事もなく無事終えることが出来ました。次年度以降も人を喜ばせる気持ちを忘れることなく、ご活躍されることを期待しております。

ひと・まち・未来創造委員会

委員会の名のごとく、ひと・まち・未来の創造に向け 3 回の公開例会及び 2 回の公開事業を開催していただきました。4 月例会では、ジャグリングという手法を通して青少年を対象に失敗や成功体験から自信を築き上げ、強く生きる力を育んでいただいたと同時にメンバーも地域の大人としてしっかり背中を見せることが出来た例会だったと思います。7 月例会では、アルビニスト野口健氏を講師としてお招きし、地域のかたがたには夢に向かって歩む大切さとそこから生まれる仲間の大切さが講演を通して感じていただいたと思います。そして、10 月例会では、昨年からの継続事業 ICHINOMIYA 郷土グランプリを展開していただき、地域に住む 3000 名余りの方々に参加していただき大盛況のうちに終えることが出来たと思います。この 1 年間を通して学び経験したことを次年度以降に生かしていただくことを期待しております。

経営力開発委員会

3 回の公開例会を通し経営資質の向上、そして地域社会から信頼される企業作りができる人材育成を基本方針に掲げ活動していただきました。3 月には経営の例会としては異例の 2 日間にわたっての例会を開催しました。桑名講師のもと使命感を育み不屈の精神をつくる事が出来たと思いますが、参加者を募集するにあたり非常に苦勞したことと思います。6 月例会では、法政大学院坂本教授をお招きし、企業が永続していくために必要な経営資質を学ぶことが出来たと思います。集大成の 11 月例会では、委員長一押しの渡辺美樹氏を講師にお招きし、地域社会から信頼される企業作りができる人材の育成をつくることを目的に講和いただき、大盛況のもと例会を終えることができました。1 年間、事業を展開するにあたり、委員会、理事会と反省する点も多々あったかと思いますが、この経験を生かしていただけることを期待しております。

人間力アカデミー委員会

1 年間、正会員予定者のオリエンテーションを通し、石川委員長のリーダーシップのもと、20 名近い正会員予定者を正会員へと導いていただきました。大変ご苦勞様でした。引き続きアカデミー委員会委員長経験者として、凛とした姿勢を見せていただきたいと思います。また、12 月例会では、大人数の委員会メンバーを纏め上げ卒業例会を開催していただ

きました。しかしながら、卒業生及び先輩に対し少し配慮が足りなかった気がします。この経験、反省を生かし是非若い世代に伝えていただくことを期待しております。

最後に

1年間を通して、理事長の思いがどれだけ実現できたのか各々検証していただきたいと思います。また、明るい豊かな社会の実現の為、メンバーはどうしていかなければいけないのか、どう行動したらいいのか、一人ひとり考え行動することが必要ではないでしょうか？

そして、メンバー同士、和気あいあいと話し合い議論しあうことは、非常に大事であると思いますが、それが、友達感覚の話し合いであり、先輩後輩、上下関係の話し合いでないように感じる場合があります。青年会議所というところは、時代と共に変えていかないといけないところと、変えてはいけないところがあると思います。そんなところを監事として導くことが出来なかったことが大きな反省です。

最後に、木村憲彦理事長のリーダーシップのもと2013年度は素晴らしい1年を終えることが出来ました。引き続き2014年度野村晃充理事長のもと、素晴らしい1年にさせていただきたくメンバー一丸となり活動していただくことを期待し、監事所感とさせていただきます。1年間本当にお疲れ様でした。

公益社団法人 日本青年会議所



2013 年度拡大委員会

副委員長 林 輝暢

公益社団法人日本青年会議所 2013 年度拡大委員会副委員長の役目を終えて。私は、出身 LOM が愛知ブロックということもあり東海地区と関東地区の 12 ブロックを担当させて頂きました。ブロックやからの拡大セミナーの依頼で各地に伺うことができ、本当に多くの気づきや学びを得ることが出来ました。基本的な人数が少なく且つ拡大も出来ていない LOM、人数は少ないが近年拡大を成功させている LOM、末期的症状で解散を考えている LOM、近年拡大を成功させメンバー増加はしているがスリープメンバーも3割近くいる LOM、ビッグ LOM だがスリープも大勢いる LOM、おかれた環境はちがえど完全な LOM などなく、どんな LOM にも少なからず何らかの問題を抱えているのだということに気づきました。

ここで、拡大が成功している LOM の特徴を書かせて頂きたいと思います。まず一つ目に、拡大活動がその LOM の文化になっていてメンバー全員が楽しんで拡大活動をしているということ。そして二つ目に、JC がその街のあらゆることに関係をもっており中心的団体であり、青年会議所がその街で名が知れている。この二点があげられます。

街の集合体が国(日本)であり、その街を形成する元はその街に住まう人であります。言 LOM 換えれば、私たちひとりひとりが進化しなければ、街の進化、さらにその上の集合体である国の進化はありえません。つまり、私たち jaycee ひとりひとりがその街の進化の先駆者になり、また市民の模範とならなければ、青年会議所そのものの存在価値はないのです。

会員拡大とは、LOM の jaycee レベルを上げ(進化)、且つ青年会議所と街との関わりをより発展させる事と LOM メンバー全員での勧誘活動を並行して進める事が大切だと思います。このたゆまぬ努力が、LOM の進化と増員につながるものと確信しています。

最後に、出向させて頂きました木村憲彦理事長をはじめ一宮青年会議所メンバーの皆様に感謝致しますと共に、1年間ご支援頂きました坂井田委員長率います渉外委員会のメンバーの皆様にお礼を言いたいと思います。

「本当に、有難うございました！」

公益社団法人 日本青年会議所



2013 年度拡大委員会

委員 飯盛 好晃

本年は、2013年度、公益社団法人日本青年会議所 拡大委員会に出向をさせていただきました。

初めに、出向に関して快諾いただいた木村理事長をはじめとするメンバーの皆様に、御礼申し上げます。また、LOMの未来創造委員会 浅田委員長には、委員会メンバーが多く出向する中、大変ご迷惑をかけました。改めてお詫び申し上げます。

2013年度は、5回目の日本青年会議所本会へ出向いたしました。本年度は林輝暢副委員長のサポート役として出向させていただきましたが、サポート役になれていたかどうかは甚だ疑問です。全体会議は8/12回の出席をすることが出来ましたが、各地で開催された多くのセミナーの手伝いについては、ほとんど出来ませんでした。申し訳ありません。

本委員会は、1月の京都会議に始まり、10月の奈良大会で事業は完了しました。奈良での拡大褒賞の結果を御存じの方も多いと思いますが、130を超えるLOMが33%拡大を達成しました。1/6以上の全国の青年会議所が、33%拡大達成をしたのは、杉浦委員長や林副委員長達スタッフの委員会運営の賜物と思っています。しかし副委員長輩出LOMでありながら褒賞に登壇出来なかったのは、我々出向者の力不足が一因と思って反省したいと思います。

今回、拡大委員会へ出向したことにより、大変多くのことを知ることが出来ました。

全国には、会員減少に伴い、事業を全く開催していないLOMがあったことが驚きでした。理事長の担い手が居ないために、何度も理事長を経験されている方がみえるLOMがあることも知りました。メンバー10人以下のLOMが30近くあったことも知りました。しかしながら東海地区、愛知ブロックの青年会議所の逞しさを感じたのが、10名以下のLOMが東海2、愛知においては0であることです。メンバー数が一定の水準を維持している地域であることが、活動の水準も維持できている証拠だと思います。数字で見ると、東海地区、愛知ブロックの活動が他の地域に比べて一定の水準を維持できていることが明確になっていることが解りました。

現在の一宮青年会議所はどうでしょうか。全国8番目の青年会議所として誇れる活動できていると思っても、拡大活動はメンバー数という数字で明確に出てしまいます。青年会議所活動で、もっとも結果がシビアに出てしまうものだからこそ、多くの要因が分析できるものなのではないかと考えさせられました。

私自身、本年度は拡大に大きな成果を残せなかったのは大変申し訳なく思います。

2014年度は最終年度として、少しでも数字を残せるように活動したいと思います。

この貴重な体験をさせていただいたことを全てのLOMの皆様に感謝したいと思います。

一年間、ありがとうございました。

公益社団法人 日本青年会議所



2013 年度拡大委員会

委員 梅谷 朋志

本年、林輝暢君に誘って頂き日本青年会議所拡大委員会に出向させて頂きました。

林 VC からは裏小幹事という役を頂き石黒小幹事をサポートする事になっておりましたが、実際はあまりサポートできませんでした。できなかったというか石黒君がきっちり動いていたと言ったほうが正確かもしれません。

京都会議・サマコン・全国大会とそれぞれ設営がありました。そちらには参加させて頂きましたが、どの事業も多くの参加者が来られました。委員会メンバーの能力も高く少しのリハーサルで事業をこなしていききました。また各セミナーに参加している方の本気度が高いという事です。他のセミナー・フォーラムですと真剣に聞いていない、寝ている方も見えますが、拡大セミナーは質問も多いですし熱気が全く違います。やはり各 LOM 拡大こそが一番の悩み所であり、少しでも手法を吸収し持ち帰ろうという姿勢が見られました。

ではセミナーを見てどの様にすることが拡大を成功させるかを考えると、LOM 全体で意識・情報を共有するという事ではないでしょうか。また拡大に関しては単年度制が大きなネックになっているような気がします。拡大候補者名簿をしっかりと LOM 全体でわかるようにし引き継いでいかなければと思います。

私は残念ながら拡大をすることが出来ませんでしたが卒業後も常に意識し一宮青年会議所に協力していきたいと思えます。

そして一年間日本全国を飛び回られた林 VC、2年目ながら小幹事を頑張った石黒君本当にお疲れ様でした。

最後となりますが、出向を許可して頂いた木村理事長ありがとうございました。

公益社団法人 日本青年会議所



2013 年度拡大委員会

委員 尾上 宜正

本年度は、公益社団法人日本青年会議所の拡大委員会の副委員長として、当 LOM より林輝暢君、小幹事として石黒秀幸君、委員として飯盛好晃君、梅谷朋志君、野々垣聡一郎君、森一彦君の計 7 名で出向させていただきました。私は出向するのは今回が初めての経験で、ましてや日本青年会議所への出向ですので、話をいただいた時は正直不安でした。しかし、日頃より LOM の拡大活動に一生懸命取り組んでいる林輝暢君に感銘を受け、少しでもサポート出来るようにと出向を決意しました。また、私自身も拡大活動について学べる良い機会でもあると思い出向させていただきました。2013 年度公益社団法人日本青年会議所の拡大委員会は杉浦委員長の強いリーダーシップの元、全国で 33%の会員の拡大を目標にスタートを切りました。京都会議では全国の会員を対象に拡大セミナーと拡大マルシェを開催して、その中で私は拡大セミナー相談室の担当をさせていただきました。全国各地の拡大担当のメンバーが自分達の LOM の拡大に関して悩みを抱え、拡大セミナーの予約や相談に集まり、大変多くのメンバーが参加をして頂くことが出来ましたが、改めてどの LOM でも拡大について同じ悩みを抱えているのだなと感じました。サマーコンファレンス 2013 では日本の各業種別部会も交えビジネスマッチングと会員増強フォーラムを開催しました。

そして、奈良の地で行われました全国大会では拡大の褒賞事業を担当し、大舞台の裏側の貴重な経験をさせていただきました。また、年間を通して各地の LOM で拡大セミナーを開催し、私が所属する林小委員会は関東圏を担当していました。残念ながら私はあまり参加出来ませんでしたが、その中で数回、自分自身が拡大セミナーを聞く良い機会があり刺激にもなり、とても参考になりました。この日本拡大委員会出向での経験や知識を今後は LOM の拡大活動に生かせるよう邁進していきたいと思います。最後になりますが、この様な機会を与えてくださいました、林副委員長、そして木村理事長をはじめとします LOM メンバーの皆様には本当に感謝を致します。また、坂井田委員長はじめ渉外委員会の皆様にも本当にお世話になりました。全ての皆様に感謝します。本当にありがとうございました。

公益社団法人 日本青年会議所



2013 年度拡大委員会

委員 野々垣 聡一郎

今回の出向で 4 回目の日本青年会議所への出向となりました。毎回の事となりますが出向する機会を頂いた木村憲彦理事長をはじめとする LOM メンバーの皆様には心より感謝致します。

私の今まで 4 回の出向のうち 3 回は国際交流が主体の国際グループへの出向でしたが、今回は未来グループ、国内活動への出向となりました。その中でも日本 JC として最重要である、拡大委員会での活動はとても意義深く、素晴らしい内容でした。

副委員長として出向された林輝暢君達とともに活動した一年は、私の JC 活動の中で大変有意義なものであり、すべての JC 活動は拡大へ帰結すると改めて実感致しました。

副理事長として拡大を担当する立場での拡大委員会への出向はとても勉強になり意義深い事となりました。今回の出向のおかげで拡大に対するポイントなどを LOM に還元できたと思っております。

この学びをまだ伝えきれていないメンバーには今後も伝えていき、私のこれからの拡大活動にいかし、100 人 LOM への復帰を次年度も目指したいと思います。

一年間、ありがとうございました。

公益社団法人 日本青年会議所



2013 年度サマーコンファレンス運営委員会

委員 稲葉 崇

本年度、私はサマーコンファレンス運営委員会に出向させていただきました。

本年度が最終年度にも関わらず、自分自身、出向自体が初めてで、しかも日本出向という事で、どういった動きをしているのかもわかりませんでしたので初めは行ける時だけ行こうと思っておりました。

しかし、日本に出向してくる他のLOMメンバーは志高く、前向きなメンバーが多く、いつも積極的にお声かけをしていたのですぐに溶け込むことができ、いつの間にか積極的に参加できるようになりました。

私はサマーコンファレンス運営委員会の第4小委員会に配属されました。第4小委員会はおもに広報活動を中心に行う委員会で、とにかく多くの方にサマーコンファレンスを知っていただき、そして多くの方に会場に足を運んでいただけるような広報計画にしたいという事で、今までにない斬新な仕掛けを沢山行いました。

スタッフやチームリーダーだけではとてもこなせないのも、何もやってないメンバーが無いように小委員会メンバー全員で手分けして色々な議案づくりや仕掛けづくりを行いました。

その結果、私たちの小委員会ではすごく纏まりができ、私たちの一番の仕事である各青年会議所へのPRへ多くのメンバーで各地に回り、私たちの決断力でサマーコンファレンス 2013 に是非来ていただきたいと思われるPRができたのではないかと思います。

サマーコンファレンス 2013 の当日は広報の成果もあり沢山の一般市民の方や各地の青年会議所メンバーの方にご来場いただき、自分たちの地域に還元できる事などを学んでいただけたのではないかと思います。

当日はサマーコンファレンス 2013 のオフィシャルサポーターの乃木坂 46 のミニコンサートを観ていたとき今までの出来事が走馬灯のように思い出され思わず胸にジーンとききました。

当日のサマーコンファレンス 2013 には多くのLOMメンバーの方にご登録いただき、また多くのLOMメンバーの方に遠方まで足を運んでいただき、ご来場していただき、私たちの元へ駆けつけていただき労いのお言葉等をいただき、多くのご協力をいただきましてありがとうございました。

最後になりますが、サマーコンファレンス運営委員会に出向をお許し下さった木村理事長、正副、理事の皆様、最高の出向者支援をしていただきました坂井田委員長率いる渉外委員会の皆様、そして、私を誘っていただきこの一年で出向の大変さや楽しさを身をもって教えていただいた木村直前理事長には大変お世話になりました。ありがとうございました。

愛知ブロック協議会



ブロックアカデミー委員会

委員長 坂倉 慶信

当年、愛知ブロック協議会のブロックアカデミー委員会委員長として出向させていただきました坂倉慶信です。まずは本年無事に活動を終えることができましたのも、木村理事長をはじめとする一宮青年会議所の皆様のおかげであり、心より御礼申し上げます。1年間本当にありがとうございました。

当初、このお話をいただいたときは期待よりも不安で一杯でした。私にこの様な大役を務めることができるのか、また一宮青年会議所の皆さんの代表として恥をかかせないか本当に不安でした。だが、木村理事長のLOMを挙げてバックアップ頂けるといふ心強いお言葉を頂き、受けたからには一生懸命やらせていただくと決意し活動いたしました。

私が出向したブロックアカデミー委員会は委員会メンバー約200名の大きい委員会でした。役割といたしましては5名の塾長と共に塾生に対してJCの基本理念をしっかりと理解していただき、ブロックアカデミー委員会で身に付けたリーダーとしての能力、見識、そして躍動感を各々の地域で伝播していただくことが目的でした。

私と共に出向いただきました、久保総括幹事、森運営幹事、野村会計幹事と共にこの目的を達成するために決めたことがありました。「全ては塾生の為に」この思いだけは忘れないように塾長言動、塾の議案に対しては厳しく臨むことを決めました。今思えばこの思いを1年間持ち続けたことが今年のブロックアカデミーの成功裏につながったのではないかと感じています。

当初は塾長との距離感、塾生との距離感を感じながらも極力同じ場所、同じ時間を共有し絆を深めることに重きをおいて活動しました。出来ていない議案に対しては臨時スタッフ会議、塾生にスタッフ会議へのオブザーブ、あえてここまでやるかとの思いを抱きながらも厳しく接し、様々な困難を乗り越えて活動いたしました。7回の全体会議、各塾の塾会議、時間が許す限り一宮スタッフと共にオブザーブ参加いたしました。当初はバラバラだった塾が徐々にまとまっていき、また塾の枠をこえてブロックアカデミー委員会が1つにまとまっていく姿を見届けるにあたり私の思いが体現していくことに感動を覚えました。

そして最後の全体会議、閉校式において私たちの活動の集大成を32LOMの理事長をはじめ多くのメンバーにみていただくことができました。自分で言うのもなんですが、内容どうこうではなく、全ての塾長、塾生が同じ方向を見て、出向させていただいたLOMへの感謝の気持ち、そして塾生の成長をお見せすることができたと思っております。閉校式を終えた後、その時自然と涙がこぼれたことを今でも思い出せます。最高の塾長、最高の塾生に出会えたことは、私の誇りでもあります。

今年のブロックアカデミー委員会の基本方針の中に「出会いが人を成長させると共にその出会いが点から線へ線かえらへ広がる活動」というところがあります。これは塾生に対しての思いでありましたが、私自身も多くの出会いによって本当に成長をさせていただきました。出向の醍醐味とは正に人との新たな出会いではないでしょうか？一宮のメンバー、特に若いメンバーには是非出向をしていただいて、新たな人との出会いを求めていただきたいと思います。

今では出向時の不安な気持ちなど忘れ、本当に出向してよかったとも思ひしかありません。本来なら出向は自己の成長と共に、出向した経験を生かしLOMに還元することが目的であると思います。残念ながら私は本年にて卒業の為、直接的に還元することができませんが、機会があれば後輩たちにこの経験を話してあげようと思います。何より、私について出向いただいた、久保君、森君、野村君、また一宮の塾生達が次年度以降LOMの中核を担うメンバーとして躍動して頂

けると確信しております。是非期待しております。

もう1つ出向して感じたことがあります。それは一宮青年会議所の伝統とLOMの力です。出向すると改めて感じますが、やはり一宮青年会議所はNO. 8 の看板を背負ったLOMであります。愛知ブロックでは一目おかれたLOMでありますし、また私たちのLOMの事業計画、内容は自信を持って活動することができます。現役のメンバーはもっと一宮会議所のメンバーであることに自信と誇りを持って活動していただければと思います。そしてやはり一宮青年会議所は最高にかっこいいLOMであり続けて欲しいと思います。

最後になりますが、本年の私の出向にあたり多くのメンバーの皆様のご協力いただきましたこと、改めて御礼申し上げます。決して一人では何もすることができませんでした。振り返ればLOMの皆さんがいてくれたことで自分自身頑張ることができました。心より感謝申し上げますと共に、益々一宮青年会議所が発展いたしますことをご祈念申し上げます。ありがとうございました。

愛知ブロック協議会



ブロックアカデミー委員会

総括幹事 久保 辰也

まずは、出向をお許しいただいた、木村理事長をはじめといたしますメンバーの皆様には、厚く感謝申し上げます。それから LOM の未来創造委員会の浅田委員長には、私が副委員長という立場でありながらも、出向を快く承諾し、力強く支援をしていただいた事について、感謝の言葉でいっぱいでございます。そして、渉外委員会の坂井田委員長をはじめといたしますメンバーの皆様にも、本当におもてなし感のある出向者支援をしていただきました事、感謝申し上げます。改めて、ありがとうございました。

今回、愛知ブロック協議会ブロックアカデミー委員会の総括幹事として出向をさせて頂きました。昨年も、戸松委員長のもと、愛知ブロック協議会 2012 年度 LOM 活性化支援委員会の総括幹事として出向をさせて頂いておりました。2 回目の総括幹事を担わせていただく事になったわけですが、誰も好きこのんで 2 回も総括幹事を担おうなんて思う人は居ないと思いますし、当然私も 2 回も総括幹事を引き受けるとは思ってもみませんでした。

しかし、入会して私がセクレタリーの時の委員長であり、私が委員長の時の委員さんであり、私が委員である時の担当副理事長であり、ずっと同じ委員会で活動を共にしてきた【坂倉慶信】という男が、2013 年度ブロックアカデミー委員会の委員長を受けるとなった瞬間から、総括幹事が 1 回目とか 2 回目とかいう回数は全く関係なく、「この人の為に総括をやりたい。」と素直に思える自分がいることに気が付き、驚きました。本来であれば、同じ役職を 2 度やるという事は、出来て当然という点から、他の方に担っていただくのが通例だと思うのですが、今回に関しては、私が引き受けたかったという気持ちが強かったため、受けさせていただいたという経緯があります。

そして実際の活動が始まってみますと、やっぱり大変な事が多く、開校式までの間に、ほとんどの LOM の専務理事の皆様には、お電話をおかけして様々な情報を得たことや、続いて名古屋会議での全体会議や、会頭公式訪問と、目まぐるしく事業が展開をされていくなか、委員長はじめ、森大介運営幹事と野村一磨会計幹事とともに、乗り切っていた事も、非常に思い出深い出来事でありました。

今名前があがりましたが、2013 年度ブロックアカデミー委員会は、委員長はもとより、森大介君と野村一磨君が居なければ絶対に良い運営が出来なかったと感じております。いつも冷静に状況を判断し的確な指摘と、議案への指摘のするどさを兼ね備える、森大介運営幹事と、レスポンスの速さは宇宙1、委員長の命は必ず遂行をし、会計は1円の誤差なくまとめあげた、野村一磨会計幹事の力なくしては、私自身も総括幹事を全うできませんでしたし、委員会運営を円滑に行う事は出来なかったと感じております。おそばせながらではございますが、森運営幹事・野村会計幹事、本当に助かりました。ありがとうございました。

この様に素晴らしいメンバーとともに駆け抜けた 229 日間は、私の JC ライフにおいて多大なる影響をもたらし、今後の JC 活動の糧になることは言うまでもありません。塾長や塾幹事との絆。塾生との出会いや気付きからの絆。何をとっても最高の委員会に出向が出来たことは、今後の私の誇りであり原動力となっていくと確信をしております。次年度は LOM のアカデミー委員会の委員長を拝命いたしております。一宮青年会議所の素晴らしさや、先人たちの崇高なる志、そして何事も能動的に活動をする事の大切さを、今年度培った思いをむねに、予定者やメンバーに伝えていきたいと考えております。

最後になりますが、私を総括幹事に指名していただいた、坂倉さんには、感謝・感謝です。ありがとうございました。そして、木村理事長をはじめといたしますメンバーの皆様へも、改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

この恩は次年度以降 LOM にお返しする所存でございます。本当にご支援ご協力、ありがとうございました。

愛知ブロック協議会



ブロックアカデミー委員会

会計幹事 野村 一磨

本年、愛知ブロック協議会ブロックアカデミー委員会に会計幹事として出向させていただきました。木村憲彦理事長をはじめとする一宮青年会議所の皆様、出向をお許しいただき誠にありがとうございました。私は昨年、塾生として、ブロックアカデミー委員会に出向し、碧南青年会議所石川鋼勇塾長の下、多くの仲間と出会い大変素晴らしい貴重な経験をさせていただきました。本年は思いもかけずブロックアカデミー委員会の会計幹事のお話を頂き、当初は不安な気持ちは強くあったものの、自分自身が大変素晴らしい経験をさせて頂いたことを思い返し、自分が経験したのと同じように多くの素敵な出会いと感動を体験して欲しい、そして、そんな場に自分も立ち会わせてもらえるという喜びの気持ちをもって出向させていただきました。この一年間、自分がブロックアカデミー委員会のために、塾生の皆さんのためにどこまで貢献できたかは分かりません。しかし、会計幹事の役職を超えて自分自身がブロックアカデミー委員会の活動を心から楽しませていただき、自分の殻を破り一回り成長できたのかなと感じる一年間でした。数多くの素敵な出会いと感動、学びを頂いたことを心より感謝致します。

そして、出向終えて感じるのですが、この一年間でこれまで以上に愛知ブロック協議会や東海地区、日本青年会議所の活動についての関心が高まり自分自身もこの活動に関わっているのだと強く感じる事ができ、LOMを超えたより広域的な活動に対する理解が深まったように思います。次年度は、是非、本年出向させていただいた経験をLOMでの活動に活かして、一人でも多くのLOMメンバーに愛知ブロック・東海地区・日本JCの活動に対する興味を持ってもらえるよう活動していく所存です。伝統と歴史を誇る一宮青年会議所がこれまでと同じく市民の皆様から必要とされる存在としてあり続けるためには、我々の活動が自己満足で終わることなく、常に新しいことに挑戦していくことが重要です。この点を忘れることなく一瞬たりとも気を緩めることなく、目の前のJC活動に日々邁進していきたいと思っています。ありがとうございました。

愛知ブロック協議会



ブロックアカデミー委員会

委員 吉田 悟

木村理事長をはじめとする LOM メンバーの皆様、公益社団法人日本青年会議所 東海地区 愛知ブロック協議会 ブロックアカデミー委員会に出向させて頂きましてありがとうございました。

自分は、事務局次長ということで、委員会経験がなく、いろいろ不安がありましたが、一宮青年会議所では一度しか出来ない経験ということと、LOM メンバーの皆様が背中を押して頂いたお陰で出向することを決めました。

ブロックアカデミーは、JC 経験の浅いメンバーが愛知県の各地から集まって勉強する場です。他の JC によっては対象が違うので、ある程度経験を積んでいる方もいますが、基本的に塾生は新米です。しかし、みんな右も左も分からない中、チームのメンバーが決められており、その中でリーダー、サブリーダー等を決めて行きます。自分は同期がリーダーになったこともあり、サポートするためサブリーダーになりました。

チームの事業は、塾長から与えられたテーマに沿った事業を行います。議案書を作成したことがないため、何度もリーダーと相談しましたし、チームのメンバーと何度も会議を繰り返しました。もちろん上手くいかないことも多々ありましたが、意見を言い合い、一つの目標に向かい事業を作り上げました。苦労したからこそ事業を終えたあとの達成感があり、絆が生まれました。委員会未経験の自分にとっては凄いいい経験になったと思います。

また同じ様に、何度も会議を繰り返した上で開催される他のチームや、他塾の事業に参加すると事業に対する工夫や思いを感じることができ、違う視点から楽しめると同時に勉強になりました。

振り返ってみると、サブリーダを引き受けたお陰で、責任感が生まれ、塾やチームのためにスタッフ会議やチーム会議、事業に参加出来たと思います。積極的に参加したからこそ得るものがありました。

積極的に参加することで新たな仲間ができ、絆が生まれアカデミーが楽しくなるのは間違いありませんので、ブロックアカデミーに出向されるメンバーは、役を引き受けないにしろ積極的に参加して頂きたいと思います。

ブロックアカデミー委員会に出向したことで、短い期間で多くの貴重な経験をすることが出来ました。また、たくさんのお会いがあり、その中から共に頑張れる仲間が出来ました。これは、これから JC 活動をしていくための貴重な財産だと思います。

出向に対して前向きでなかった自分の背中を押してくれたメンバーの皆様、本当にありがとうございました。この出向経験は次年度の委員会に活かしたいと思います。

愛知ブロック協議会



ブロックアカデミー委員会

委員 伊東 大徳

私が出向させて頂きましたブロックアカデミー委員会は、入会 3 年未満の若いメンバーが愛知県各地より出向し構成されている委員会です。JC の基本理念をしっかり理解し、その可能性に気付くことで活動の本質を実感し、個々の成長を 5 人の塾長のもと、愛知県各地の仲間と共に地域の枠を越え 9 ヶ月間という短い間ですが新しい気付きを通して成長することができる場所でした。

私がその中で 1 番心に残ったことは、様々なミーティング、会議、事業を行っていく中で、メンバーと苦楽を共にすることで、坂倉ブロックアカデミー委員長がよく口にされていた「人と人との出会いが点から線へ線から「和」へ」という言葉を自分自身感じることができました。事業を行っていく中で、仲間と共に過ごした時間、仲間と乗り越えた試練、仲間と一緒に分かち合った感動が仲間との絆をより強固なものにしてくれました。今では愛知県内に信頼できる仲間ができました。私が少しでも落ち込んでいれば遠方からでも駆けつけてくれ悩みを聞いてくれる友人もできました。ですが、私自身が仲間にもっと気を配ることができたはずだというのが唯一の後悔です。人は出会いの数が多いほど多くの気付きを得ることができ、成長する事ができるということを実感しました。私は人見知り強く、事業や行事に積極的に参加する事が苦手でしたが、今回の出向で前向きな心を持てるようになり、自らの意思で積極的に様々な事にトライする事ができるようになりました。すべての事業にはそれに関わるすべての人の思いがあるので、参加することで少しでも意義を感じ取っていこうという今後の JC 活動の礎を築くことができました。

今回の経験をどのように活かすのかはこれからの自分次第であると考えています。これからは、地域社会とのつながりを今まで以上に大切に、地域の問題にも目を向け、地域の為に積極的に行動していきたいと思っています。

最後に出向をお許し頂きました一宮青年会議所のメンバーの皆様本当にありがとうございました。少しでも LOM の力になれるようこれからも精進していきたいと思っています。

愛知ブロック協議会



ブロックアカデミー委員会

委員 東 賢吾

まず初めに、木村理事長をはじめとします一宮青年会議所メンバーの皆様、公益社団法人日本青年会議所東海地区愛知ブロック協議会ブロックアカデミー委員会に出向させて頂きありがとうございました。

ブロックアカデミーでは、竹内塾塾長の元チームリーダーを受けさせていただきました。

やるからには役を受けた方がいいと周りの方から教えて頂いたのもあり自ら受けさせていただきました。

実際受けたことにより、大切なことによりたくさん学べた毎日でした。

塾長よりテーマを頂き、事業の設営を任されるのですが、議案もまともに見たことのないメンバーの集まりでしたので、すべてが手探りの状態でした。正直センスと賢さには全く自信がなかったので、同じチームでありサブリーダーの吉田悟君とチーム会議前の会議を行い、そして毎週のようにチーム会議を重ねました。一度に多くのメンバーは集まりませんが、回数を重ねるごとにチームのまとまる姿、意見の言い合い、そして会議をするたびに出てくる新しい提案をみて喜びを感じました。設営までの会議数は数えきれないほど行いました6月に栄で鬼ごっこをするにあたり、たくさんの方に叱咤激励をアドバイスを頂き、塾内で一番いい参加率の事業を設営することができました。大きなトラブルも起こすことなくできたのはチームの仲間のおかげです。

出向して感じたのは、積極的に参加することの大切さでした。議案を作成していくにあたり、どの事業も設営するためにたくさんの時間と人の努力を感じたからです。そして、たくさんの出会いがあり、事業を経験することで事業や設営に対して新しい視点を得ることができます。出席するために前日無理をすることもありましたが、時間を作るのも修練と思いつて出席いたしました。自ら出席しメンバーを誘ったことで塾内でのチームの出席率はかなり良かったのは自慢です。

結果といたしまして皆勤賞とそして塾事ではありますが MVP を頂くことができましたのも、LOM の支えはもちろん、竹内塾の仲間あってこそだと思います。

入会年度の浅いメンバーの集まりということもあり、たくさんぶつかり合い、議論をかわし、お互いが同じ目線で話し合えるブロックアカデミーは、多くのものを気づかせて頂きました。

各種大会などで気付くと思いますが、LOM を超えたつながりは出向によって大きく変わっていきます。これからもたくさんの方と握手を交わすため頑張っていきたいと思っています。

「やらない言い訳を考えるのではなく、やるためにはどうすればいいのかを考える」というのを胸にこれからも JC 活動に頑張っていこうと思います。

そして、無茶ぶりをしたり、いろいろなことに巻き込んでも一緒に活動して頂きました吉田悟君、本当にありがとうございました。そしてたくさん学ばせて頂きありがとうございました。

愛知ブロック協議会



ブロックアカデミー委員会

委員 大宮 有貴

本年度、愛知ブロック協議会ブロックアカデミー委員会に出向をさせて頂きました。

私が、仕事上なかなか参加できないことを分かっているにも関わらずブロックアカデミーに快く送り出して下さった木村理事長をはじめとするLOMメンバーの皆さまに心から感謝申し上げます。また、出向しようか、やめようか迷っていたときに、話を聞いていただき、アドバイス共に背中を押して下さった愛知ブロックアカデミー坂倉委員長、本当にありがとうございました。

配属されたのは、春日井青年会議所の三村栄二君が率いる【三村塾】。私は、その中でチーム【Freedom】のメンバーとして活動してきました。三村塾の事業内容としては、「和を育む事業」、「真の友情・信頼を育む事業」、「地域から求められるリーダーの育成事業」と、色々な活動がありましたが私は、仕事の関係で活動にあまり参加できなかったことを本当に残念に思います。その中で、唯一活動に参加させていただいた、私のチーム担当の「地域から求められるリーダーの育成事業」内容は、他の塾でもない東北大震災の被災地の視察でした。私も参加させていただきました現地調査では、視察当日、みなさんに効率よく活動していただき、限られた時間の中で少しでも多くの体験ができるように、また楽しんでいただけるように、そして、なにより東北大震災での自然の力の凄さを伝えるためにがんばり、現地調査の難しさ、楽しさを勉強させていただきました。東北被災地、視察も本番を無事終えてからの、塾報告会では被災地の映像などを見て自然の凄さを感じ、こういった震災がこの愛知で起きる前に、地域のリーダーとして、みんなで何をやるのか、どういった準備をしていけばいいのかと改めて考えさせていただきました。いま振り返りますと、愛知県のいろんな場所で真剣にミーティングを重ねて、事業の組み立て方や人を集めるためにはどうしたらいいのかなど様々な事を三村塾長、平林塾幹事から教えていただき、LOMの事業だけでは決してわからないJCの奥深さを知りました。貴重な体験、勉強をさせていただいた中でも一番に心に残ったのは人と人とのつながりです。この愛知ブロックアカデミーに出向させていただけなければ知り合えなかった、塾のメンバー苦楽をともにする事でより一層絆が深まり今では宝物のように感じます。

また三村塾長には、JCの楽しさ、厳しさ、素晴らしさを教わり、人として地域のリーダーとして魅力のある人間になるために色々と勉強させていただきました。今では、三村塾に配属されたことに心から感謝しています。

最後になりますが、1月の開校式から9月の閉校式の9ヶ月間、野村担当副理事長、加藤委員長はじめとする総務広報委員会のみなさま力強い手助けをありがとうございます。JCを通じて知り合えたみなさま本当にありがとうございました。

愛知ブロック協議会



ブロックアカデミー委員会

委員 加藤 武志

僕は、当初、ブロックアカデミーというものが、どんなところで、どんな活動をするのか全く分からないまま坂倉委員長の「勉強になるし、楽しいから行っておいで」の一言だけを信じて、ブロックアカデミーの扉をたたきました。

初めは遠いLOMの知らない人達ばかりの中で不安でいっぱいでしたが、会う回数が増えるたびにみんなと会うのが少しずつ楽しみになってきました。そして最終的には、最高の仲間を作ることができました。

出向して、1ヶ月もたった頃にはすでに担当の事業を準備しなくてはならないということで、右も左もわからなかったのですが、サブリーダーの加古川君、早川君が支えてくれたおかげで、なんとか事業を行えるところまで進めることができました。しかしながら、議案の作成もしたことがなかったので、いきなりつまづいてしまい、担当の塾長、幹事には大変ご迷惑をおかけしてしまいましたが、塾長も幹事も暖かく根気よく親切丁寧に一から教えてくださり、なんとか第1回目の塾会議を開催することができました。今考えてもとてもいい経験ができたと思っています。

その後、何回かの塾会議を重ねてまいりましたが、一番印象に残っている事業は、最後の塾会議「レコーディング」です。この事業は、せっかく出会った仲間たちと、共に過ごした時間を「形」として残したいという思いから CD の作成を提案いたしました。ただし、単に CD を作成するだけでは意味がないということで、作詞の段階からみんなで集まって一からCDを作成するというものでした。仕事もある中、なかなか思うように集まれなかったり練習ができなかったりで当日に準備が間に合うのか非常に不安でしたが、みんなの協力のもと何とか作詞も編曲も間に合うことができ、当日のレコーディングを迎えることとなりました。初めてのレコーディングという体験にワクワクドキドキ致しましたし、「試練を乗り越えて、絆を形に残す」という苦労の末だったので、最後にこの事業を選択してよかったなあと改めて思っています。

また、CD ができた後もパッケージの作成や非公式ながら、卒業写真のアルバム作り、また、ペンライトで動画作成など、様々な思い出を形として残すという行為をみんなで行って参りました。会えば会うほどみんなの仲間意識や絆が深まっていくことを実感することができ、少し無理をしてでもみんなと共に同じ目標に向かって頑張っていくことの大切さを身をもって感じ、体験することができました。

今回、出向させていただき、本当にいい経験ができたと思っています。また出向をためらっていた僕を誘ってくれた坂倉委員長には大変感謝しております。この出向で得られた体験をLOMにどう生かしていくかが今の僕の課題です。この度は本当にいい経験をさせていただきました。出向させていただき、ありがとうございました。

愛知ブロック協議会



ブロックアカデミー委員会

委員 青山 広己

本年度のブロックアカデミー委員会への出向に関し、快く送り出して頂いた木村理事長をはじめ、浅田委員長率いるLOMの未来創造委員会の皆様、本当にありがとうございました。また坂倉委員長率いるブロックアカデミー委員会スタッフの皆様には多大なるご支援を頂きまして本当にありがとうございました。

2月2日に行われた開校式前の第1回塾会議では、塾リーダーか、チームリーダーの役が貰える様にと、背中押して頂いたおかげでチームリーダーを受けさせて頂きました。まだこの時には、何もわからず、ただ出向をするなら何か自分の為に何か得ないと出向する意味がないという思いだけでした。しかし、9ヶ月を通して本当に有意義に過ごせたのはチームリーダーと言う役を頂いたからだと思います。

開校式より始まりましたブロックアカデミー委員会松本塾では、(一)豊田青年会議所より輩出された松本章塾長の下、塾方針に沿って、一度もぶれることなく9ヶ月を過ごして参りました。

塾方針

- ・新たな自分を開花させる気構えを持ち、何事にも楽しく本気で取り組み、真の自分らしさを身に付ける。
- ・人と自分に真剣に向き合い、そこから生まれる輝きを身に付ける。
- ・培った原動力をLOMにおいて知行合一で実践する。

塾会議テーマ

【感心】【感激】【感性】【感動】【感謝】

私達のチームは第6回塾会議【感動】をテーマにチーム会議を月に2度のペースで13回の会議を行ってきました。メンバーに恵まれ第1回チーム会議では100%出席で行え、それぞれの役割を再認識でき、1人1案を持ち寄った中で塾会議の手法を決めることができました。そして会を進め行く中で、その役割を個々が責任感を持ち、議案作成にあたっても個々が持ち寄りサブリーダーの塚本くんが纏めると分担で初めての協議上程を行いました。しかし、そこで初めて間違いに気づきました。事業というものは、背景があり、目的を持ち、手法にて目的を達成するものということです。役割分担するにあたって、背景、目的については私が作成しメールにて送信確認を行っただけで、その中身を揉むようなことはしてきませんでした。塾スタッフ会議後、その旨をチーム内に伝え、チーム会議を行うときには、全員が参加してくれ、それぞれの意見を頂き、塾長からもアドバイスを頂いたおかげで、何とか審議では無事に通り、塾会議を進める運びになったのですが、一番感じたのはチーム11人が親身に考えチームの為に行動してくれたことです。塾会議開催前に、初めて本当の意味で絆が生まれたと感じています。その後、塾会議では11人全員が朝から晩まで、それぞれの役割だけでなく塾全体のことを考え行動できたことで、大きな【感動】を塾内で共有でき、目的を達成することができました。

塾会議後、やっと塾方針が理解でき、閉校式が終わるまで大きな原動力を培うことができたと思っています。また、この原動力をLOMにおいて知行合一で実践できるよう邁進していきたいと思っています。

最後になりますが、支えて頂いたLOMの皆様、坂倉委員長率いるブロックアカデミー委員会スタッフの皆様、新たなきづきと絆を与えて頂き、本当にありがとうございました。

愛知ブロック協議会



ブロックアカデミー委員会

委員 伊藤 基児

私、伊藤基児は 2012 年度 上期に一宮青年会議所に入会いたしました。

地元の一宮市で商売をする上で、地域に貢献できる団体であると認識し、訳もわからず活動し一年を過ごす中で多くの仲間ができました。

次年度の配属先が決まる中、人間力アカデミー委員会幹事という役職と共に 2013 年度 愛知ブロック協議会アカデミー委員会に出向をしてみないかと打診があり、唯でさえ LOM の役職を全うできるか心配な中で内心は断るつもりでいました。

しかし、同じ一年を過ごした仲間が出向を決意し、学ぶ事に前向きな中で「やれるだけやってみよう」と自分自身が思えるようになった事が大きなきっかけになったと思います。

出向先では春日井青年会議所 所属の三村塾長、平林幹事の下、サブリーダーを務めさせて頂き、担当した塾会議では東日本大震災から 2 年が過ぎた宮城県石巻市へ視察に行かせて頂きました。

議案作りから、準備、塾生への参加の呼びかけなど、やっている最中は逃げ出したいこともたくさんありましたが、仲間と達成する喜びは大人になるにつれて体感する事の出来づらい貴重なものとなったと思います。

「一年も一緒に活動をしない仲間が、一生付き合える仲間になれる事」

出向したことで学んだ大きな事だと思います。

最後に、出向を勧めて頂いた人間力アカデミー委員会 野田担当副理事長、石川委員長、委員会メンバーや木村理事長はじめ LOM メンバーのバックアップがあるからこそその出向だと改めて実感しています。本当にありがとうございました。

愛知ブロック協議会



ブロックアカデミー委員会

委員 大宮 和広

まずは、ブロックアカデミー委員会に出向することを勧め、ブロックアカデミー委員会への参加に対し理解と支援をしてくださいました人間力アカデミー委員会石川委員長並びにブロックアカデミー委員会坂倉委員長、久保総括幹事、森運営幹事、野村会計幹事にお礼申し上げます。ありがとうございました。

2012 年入会間もない私がブロックアカデミー委員会に出向を決めたのは、2012 年秋ぐらいに人間力アカデミー予定者委員会スタッフ会議後に石川委員長と食事をしているときにブロックアカデミー委員会について 3 時間ぐらい説明され出向を勧められました。当時は出向しても行く自信がなかったですし面倒臭いことだなと思ったことを記憶しています。

そして、2013 年が始まり 1 月のブロックアカデミー委員会入校式では、三村塾に所属しチームリーダーを引き受けることになり、普段の日常生活では出会えない人たちと知り合える機会をいただきました。三村塾では 6 月に第 6 回塾会議を「地域から求められるリーダー」【奉仕】をテーマにチーム設営担当することになり、奉仕＝ボランティア＝東北被災地視察という安易な発想から、東北被災地視察を軸に議案作成を始めました。この議案を作成するにあたっては、ほんとうに塾長、塾幹事、チームメンバーに協力をいただき作成していきました。東北被災地視察の議案が審議可決された時は本当に嬉しかったことを覚えています。ここで思ったのが 1 人ではできることに限界があり周りの人に助けてもらわないと良い物はないことを改めて痛感しました。

9 月には三村塾設営で第 6 回全体会議として「JC ゲーム」をしました。この Jc ゲームは、カード型の人生ゲームに要領が似ており、JC に入会するところからスタートとなり、体験や研修、そして気づきをおこし、副委員長→委員長→副理事長へと積極的にステップアップ(行動)していく。そして色んな困難や試練を乗り越えた末、ゴールである理事長を目指すというカードゲームで、このゲームをすることによって JC とは、互いの足を引っ張り合うのでも、役職を受けるのを嫌がるのでもなく、自分と仲間の成長のために前向きに行動することに意義があるのだと気付きました。

このように、ブロックアカデミー委員会ではさまざまな経験をさせて頂くことができました。また、塾長・塾幹事・塾生の仲間たちとの絆を得ることができました。このブロックアカデミー委員会で得たこと、学んだことを、今後の LOM での活動や社業に活かしていきたいと思います。

愛知ブロック協議会



ブロックアカデミー委員会

委員 加古川 和也

私は本年度、愛知ブロック協議会ブロックアカデミー委員会へ出向させていただきました。木村理事長をはじめとする LOM メンバーの皆様、出向する機会を与えて頂き本当にありがとうございました。心より御礼申し上げます。また、出向へ快く送り出して下さいました野田副理事長、森委員長をはじめとする経営力開発委員会の皆様本当にありがとうございました。そして、初めての出向で不安の気持ちの中、開校式から閉校式まで全力で支援して下さいました坂井田委員長をはじめとする渉外委員会の皆様、心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

私は名古屋青年会議所所属の村瀬雄介君、武田裕規君率いる「村瀬塾」へ配属されました。塾訓である「能動的行動力」「思いやりの心」「JAYCEEとしての誇り」「郷土愛」「友情」を基に9ヶ月間活動をして参りました。私はチーム C2O のサブリーダーを仰せつかり、「思いやりの心」と「友情」をテーマとした二回の塾会議を担当させていただきました。サブリーダーということで議案作成にも深く携わる事ができ、また塾会議を迎えるにあたり多くの会議や準備、当日の設営など、チームの中心として活動をする事が出来ました。中心の中で活動をさせて頂きました事に本当に感謝しております。おかげで全てが初めての経験ばかりで本当に多くの気づき、学びを得ることが出来ました。特に「友情」をテーマとした二回目の担当塾会議では、塾生全員でひとつの目標へ向かってお互いの能力を尊重し引き出し合い達成することで「友情」を育むことを目的とした「塾ソングの作成」を開催しましたが、塾生全員でひとつのものを創り上げることに重きを置いていた為、参加要請や参加率向上の工夫、全員の思いをくみ取るアイデアなど人を集める難しさ、統率の難しさを経験し、同時にそれらの対応を考え行動し経験することが出来ました。この気づきと学びは今後の人生においても大いに役立つ経験であったと感じております。また、この塾会議の結果を見ても、一人では成す事の出来ない事も全員が同じ方向を向き切磋琢磨し協力する事で大きな目標も達成出来る事を実感しました。そしてその時には互いに苦楽を共にした塾生同志の絆がより一層育まれていたのは確かであり実感しております。あえて言うまでもなく、出向により得られた最大の財産は「仲間」でした。

最後になりますが出向を通じ本当に多くの経験、気づき、学び、そしてその時間を共に過ごした仲間というかけがえのない友情の絆を得る事が出来ました。繰り返しになりますが、この様な良い経験をさせて頂きました出向を最後まで見守り支援下さいました LOM メンバー皆様に心より感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

愛知ブロック協議会



ブロックアカデミー委員会

委員 平松 道介

出向を振り返ってみるととてもあっという間の9ヶ月でした。

まずは、一宮青年会議所の皆様また、ブロックアカデミー委員会に出向するよう勧めて頂いた経営力開発委員会森功一郎委員長にとっても感謝致します。また、ブロックアカデミー委員会へのご理解と援助を下さいました事。とても感謝しております。誠に有難う御座いました。

一宮青年会議所に入ったばかりで何も分からない状態で社業およびLOMの業務で手いっぱいのその時に、森委員長から「ブロックアカデミー委員会があるから出向してみたら。」とお声をかけて頂きましたが、この手いっぱいの中、軽く受けて他の人達に迷惑を掛けるのが嫌でしたので、本当は断るつもりでした。

しかし、たくさんの方々から、「少し無理して、行動した方が成長できる。」と言われ、また、「ブロックアカデミー委員会でしか得られないものがあるので、出向した方が良い。」と言われ、出向する事にしました。今思い返すと、本当に良い経験ができ、また大切な仲間がたくさん出来、出向して良かったと思います。

出向してみると、社業およびLOMの業務の他に当然ブロックアカデミー委員会の業務が追加され、てんてこ舞いでした。塾での事業を成功させる為、たくさんのお出向者(仲間)が社業およびLOMの業務の中、頑張って参加しているのをみて、自分だけがつらいのではなく、みんなも一緒だと思い、仲間との絆がどんどん深まっていきました。時には意見のぶつけ合いがあったりもしましたが、みんなの熱い思いがあつてのぶつけ合いでしたので、その事があり、一段と絆が深まりました。

たくさんのお汗と涙を流した後の事業は本当に心に残るものとなりました。
閉校式を終えた今でも、ブロックアカデミー委員会で出会った仲間とは、忙しい中でも2.3ヶ月に1度は会うようにしています。大人になった今でも、仲間ができることは素晴らしい事だと思います。

「考えるな、感じろ！そして行動すべし！」

出向して感じた事です。

大人になると、今の自分にアッパーを決め付けて、先のことばかり考えてしまい、なかなか行動できなくなってしまうと思います。

このブロックアカデミー委員会で学んだ出来事を、これから入ってくる新しい仲間に伝えていきたいと思っています。

最後になりますが、出向をさせて頂きました一宮青年会議所の皆様、出向を進めて頂きました森功一郎委員長には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。必ずこの経験をLOMの活動に生かして参りたいと思っています。有難う御座いました。

西尾張 6 JC



西尾張 6JC

夢エリア合同事業実行委員会

委員 浅田 佳寿優

西尾張 6JC2013 年度夢エリア合同事業が本年は一般社団法人丹羽青年会議所が主幹となり、9 月に開催されました。その夢エリア合同事業を私たちは 9 月度例会として担当させて頂くこととなったため、夢エリア実行委員会に出向させて頂きました。

各 LOM から 2 名程度の出向者が集まり、月に 1 回の会議を行いました。当初は馴染みのないメンバーばかりでしたので不安もありましたが、同じ目的に向かう気持ち、そして同じ西尾張エリアの仲間という繋がりがあったため、そんな心配もすぐに消え去りました。

第 1 部は毎年行われる次年度役員紹介となるため、いかに滞りなく設営ができるかを何度も議論しました。また、第 2 部に関しては講師の選定から内容に至るまで、様々な意見を出し合い、活発な会議を繰り返してきました。他の LOM メンバーとこのような議論をする経験があまり無かったため、本当に熱く議論し合う姿が印象的でした。その結果、講師として青山繁晴氏をお招きし、領土・領海についてご講演を頂くこととなりました。尖閣諸島や竹島問題など、日本が現状抱える様々な問題を分かりやすく解説していただき、来場された方々と共に、設営担当である私も聞き入ってしまうほどでした。

また、懇親会では各 LOM の卒業予定者への感謝の気持ちを伝え、各 LOM の絆を深められるような内容を検討しました。当日は懇親会まで数多くのメンバーの方にもご出席いただき、盛況に終えることができました。

主幹 LOM の一般社団法人丹羽青年会議所の皆様にどれほど貢献ができたのかは解りかねますが、私として精いっぱい支援・協力をさせて頂きました。たくさんの仲間に出会えたことに感謝すると共に、このような機会を与えて下さいました木村理事長を始め理事会構成メンバーの皆様、そして委員会を含め LOM メンバーの皆様にも感謝申し上げます。

本当に一年間ありがとうございました。

2013 年度卒業生



JC 活動を振り返って

坂倉 慶信

まずは8年間という長い時間でしたが、無事卒業させていただきましたことに感謝申し上げます。ありがとうございました。今までJC活動を通じて出会えました全ての皆様に感謝申し上げます。

2005年に入会させていただきましたが当初の私はJC活動に後向きの人間でした。最初の2-3年は本当にやる気もなくその時の委員長様にはご迷惑をおかけしました。ただ、こんな私ですが2009年の委員会がきっかけで変わることができました。当時の土本担当、木村委員長、石川副委員長との渉外委員会で副委員長を拝命し、1年間駆け抜けたことで自分の居場所を見つけることができました。その後は土川理事長、村手担当のもと交流委員長、木村理事長のもと、野田委員長を率いてアカデミー担当副理事長、最終年度には愛知ブロックのブロックアカデミー委員長を拝命し、本当に充実したJC活動を送ることができました。最高のメンバーにも恵まれて自分のやりたいこと、全てやらせていただきました。後悔は全くありません。

後輩の皆さんに伝えたいこと、それはJC活動の活動の源は人であるということです。人を動かすには人の心しかありません。あいつが困っているなら助けてやろう、あいつが言うならしたがってみよう その思いが人を動かすと思います。では人を動かすにはどうすればいいのでしょうか？それは絆です。絆は簡単に築くことはできません。同じ時間を同じ場所で共有することにより徐々に築くことができます。ということは、まずは何事にも積極的に参加し、色々な人との友情、絆を築いて頂きたいと思います。

またもう1つ、伝えたいこと、それはJC活動を楽しくやっていただきたいと思います。時間とお金を使って活動し、議案を練り、事業を開催することは本当に大変で苦しいこともあるかもしれませんが。だからこそ、やっている本人が楽しまなくては参加する人達についてこないと思います。今後のJC活動大いに楽しみ頑張ってくださいと思います。

最後になりますが、2005年の入会より本年2013年までの8年間本当にお世話になりました。これまで関わって頂いた全ての人々に感謝申し上げます。誰ひとり欠けていたとしても今の自分は無かったと思っています。多くの友と友情を育み、自己の成長もでき、また故郷一宮の為活動できたことは私の誇りであります。益々の一宮青年会議所の発展を祈念し私のメッセージと代えさせていただきます。ありがとうございました。

2013 年度卒業生



JC 活動を振り返って

稲葉 崇

私は予定者期間も含めると8年間、一宮青年会議所に在籍させていただきました。

8年間で様々な出会いや築き、成長、苦悩がありました。

2007年度のセクレタリー時代はとにかくJCに行くのが嫌でした。訳が分からないし委員会が意味なく長い。その後に行ける焼肉が唯一の救いでした。

2008年度の副委員長の時にやっと委員会運営について学びました。

一年目のやり方はまったくダメだとわかりました。それ以降はとにかく2007年度を反面教師にしました。

2008年度の4月度例会で市民の方の笑顔を観た時、JCって素晴らしい団体だと想えるようになりました。またその時の大野委員長を理想の委員長として常に心がけておりました。

2009年度の二度目の副委員長ではドラフト翌日にもう一人の副委員長が居なくなる(退会)という窮地にたたされましたが、坂東セクレタリーにすごく助けていただきました。そして賀茂委員長には私が委員長になった時に困らないように委員会のほぼ全てを任せていただき今思えば一番辛かったかもしれませんがすごく勉強になった一年でした。

またその時に予定者として入会してきたメンバーが個性的なメンバーばかりでまとめるのが辛かったですが、卒業例会での彼らの姿を観た時は感謝の気持ちしかありませんでした。

この時点でもう副委員長はお腹一杯でしたが、2010年度は私より入会年度が浅く年上の松岡さんから声を掛けられJCの事を教えてあげなければとおもい受けましたが、逆に私が彼の委員長としての姿勢を学ぶこととなりました。彼を必ずこの年、男にしなければならぬとおもい必至に頑張った年でした。

そして私の理想とする委員長の二人目が現れた年でもありました。

2011年には岩満副理事長に声を掛けていただきアカデミー委員長を行いました。

岩満副理事長とは予定者の時に徹底的に話し合いをして私の道筋を示していただき、私を信じて全面的に任せていただきましたのでその時にかなりの責任感が芽生えました。

アカデミー委員会は一年を通して毎月オリエンテーションがあり、気の休まる時がありませんでしたが、スタッフ、委員会メンバーに盛り立てていただき、又予定者として入会してきたメンバーも前向きな方が多く私の想いを伝える事ができたのではないかと思います。

2012年度は武藤委員長の下、委員として青少年事業を行い LOM メンバーと地域の子供たちと地域にイチミンを描く事ができ感動の多い一年でした。

2013年度は日本へ出向し、距離と時間に苦労しましたが素晴らしい方たちと出会う事ができ、又多くの友人ができ、すごく実りのある一年となりました。

LOMでは渉外委員でしたが、出向者支援の難しさを学びました。

又、坂井田委員長には常に御気づかいいただき、JC生活のなかで一番楽しく活動の出来た一年でした。青年会議所を通して出会えた全ての皆様に感謝申し上げます。

そして8年間で得たものを今後の人生のさまざまな場面で活かしていきます。
長い間、ありがとうございました。

2013 年度卒業生



JC 活動を振り返って

川島 達司

2007 年上期に入会し、早くも卒業となりました。この 7 年間を振り返ってまず、メンバーの皆様のご友情に厚く御礼申し上げます。

皆様ご承知のことと存じますが、私は岐阜出身で、一宮には誰も知り合いがおりませんでした。一宮の地で事業を行うにはどうにかして友達を作らなければという思いはありましたが、なかなかその術が見つかりませんでした。そんな時、先輩に誘われて JC に入会いたしました。年末の忙しい時期にもかかわらず、最初の誘いから 30 分も経たないうちに佐々先輩をはじめ多くの方が私を来てくださいました。そんな光景を目の当たりにしてとんでもない団体に誘われたなどの感想が第一印象でした。また、はじめの 3 年間は思いっきり後ろ向きであったと思います。なぜ、セレモニーを行わなければならないのか？忙しいのになぜ、くだらないことをやっているのか？という否定的な疑問が次々と頭を駆け巡りました。

そんな中、JC 活動の転機となったのが、2011 年の総務広報委員長を拝命した時からだったように思います。私の仕事として、賀詞交歓例会をはじめとする通常の委員会活動に加え 60 周年式典の設営・2010 年代運動指針の策定・夢エリア出向があり、控えめに見ても 3 委員会分の仕事はしたと思います。そしてその中で、時間の使い方を覚え一生懸命行えば誰かが見てくれる、そして協力してくれるということを肌で感じました。当時の松岡担当副理事長・浅井先輩・神戸先輩・林君の 3 副委員長、委員の皆様には多大なご迷惑をおかけしたにもかかわらず、本当に良く助けてくれたと思います。JC 活動の中で、一番過酷であり、充実した年であったと思います。

私は JC 活動を通してかけがいのない 2 つのものを得ました。1 つは最初に記載した多くの仲間です。仕事の業種・年齢・考え方などは様々ですが、皆が一宮を愛しているというところは共通していると思います。そんな仲間巡りに出会ったことは一生の宝となるでしょう。2 つ目は「何事も受け入れる」という考え方です。よく、「返事はハイかイエスか喜んで」と言われますが、全くその通りであると思います。何事も肯定的な返事をし、行うことによって、その行動は巡り巡って自分のところへ帰ってくることを身をもって実感しました。この言葉は冗談半分になっていますが、諸先輩方が身をもって体験した上で言葉であると感じています。

最後に 7 年間の短い期間ではありますが、充実した JC 活動を行えたと思います。これもメンバーの皆様の温かい友情があったからこそ感じております。

短い期間ではありましたが、本当にありがとうございます。

2013 年度卒業生



JC 活動を振り返って

木村 憲彦

本年ようやく、卒業を迎えることができました。2007 年に入会し、予定者期間を含めても 7 年という短い期間ではありましたが、「ようやく」というのが今の正直な感想です。2009 年に委員長を務めて以来、早く JC を卒業したいという思いの中で活動を続けてきました。毎年のように「今年が終われば」と、そんなことばかりを考えながら 1 年 1 年を何とか乗り切ってきて、これは大袈裟でも何でもなく JC のない日常を夢に見てきましたし、この 7 年間、色んな意味で本当に無理をしてきたと思います。でもだからこそ、こうして晴れ晴れとした気持ちで少しの悔いもなく卒業を迎えることができました。

卒業生の最後の言葉として不適切なのを覚悟で言ってしまうと、僕は今まで本当に嫌々 JC を続けてきました。とは言え、JC が嫌いだったということではありません。自己成長のための負荷のことを JC では「修練」と呼び、当然辛かったり大変だったりしなければ「修練」にはならないわけですが、「早く卒業したい」と思えるほど、その「修練」は僕にとって、決して容易なことではなかったのです。

でも確かに、JC での修練を通して自分が成長できたと思える部分はたくさんあります。自己成長のためには、普段の日常では得ることのできない「自分の枠を超える経験」が大切で、僕にとって JC での 7 年間は、そういった意味でも本当に価値のある時間だったと思います。

何度も言うように、僕は「早く卒業したい」と思い続けてきたわけですが、最後まで「辞めたい」と思ったことはありませんでした。その理由を「自分の成長のため」だとか「明るい豊かな社会の実現のため」だと格好付けるつもりはありません。結局のところ、ただ単に「JC のことが好き」だったのでしょう。「JC が好きだから頑張る」。そんな単純で当たり前のことが原動力になっていたのだと思います。

自分が JC を続ける意味や理由というものは誰かに教えられるものではなく、活動を続ける中から自分で見付けたり、気付いたりするものだろうと思いますし、その答えもきっと一つではありません。

JC 運動の本当の価値というのは、60 年以上もの長い間、「明るい豊かな社会の実現」という情熱が一度たりとも絶えることがなかったというところにあります。それぞれの時代の僕らと同じ青年たちの小さな尊い活動の積み重ねが JC の歴史そのものであり、それが僕らが受け継いできた歴史です。その歴史の歩みがいつまでも途絶えることなく受け継がれ、未来永劫続いていくことを願って止みません。

そんな一宮青年会議所の歴史に足跡を残せたことを誇りに思うとともに、7 年間大きなお支えをいただきましたすべての皆様に心から御礼を申し上げ、最後の言葉とさせていただきます。7 年間、本当にありがとうございました。

2013 年度卒業生



JC 活動を振り返って

戸松 稔貴

2009 年に予定者として入会させていただいて、あっという間に 5 年がたってしまいました。しかしながら、この 5 年間は私の人生の中で間違いなく一番内容の濃い 5 年間であったと思います。

入会させていただいた 2009 年度は経験したことのないセレモニーや、学生時代にタイムスリップしたような体育会系の縦社会構造など多少面食らった部分もあり、決して予定者として優等生ではなかったと思います。しかしながら、卒業例会での卒業生への贈り物として「万歳同盟」という出し物を、同期の仲間たちと夜遅くまで真剣に練習することで知らない間に一宮青年会議所の一員という意識が芽生え、卒業例会当日には卒業生の皆様を心から祝福する自分がいたように思います。2010 年度は速水委員長が率いたアカデミー委員会のセクレタリーに任命していただき委員長をはじめとする皆様にかわいがっていただき、まだあまり知らなかった JC の多くを学ぶことができた一年でした。また同時に、愛知ブロック協議会のアカデミー委員会にも出向させていただき多くの一生の仲間を得ることができました。2011 年度は経営力推心委員会の委員長として活動させていただきました。3 回の例会を担当させていただきましたが、最高のスタッフと最高の委員会メンバーに支えられ何とか 1 年乗り切ることができ、委員会メンバーの大切さ、素晴らしさにただただ感謝のあつという年の一年でした。また、経営の担当委員長ということもあり、私自身非常に勉強になり、多くのことを会社の経営にフィードバックさせていただきました。2012 年度は愛知ブロック協議会の LOM 活性化支援委員会の委員長を務めさせていただきました。この一年はまさに戦いで、一宮の看板を背負っているという意識を常に持ち活動させていただきました。また、いたるところで当時の木村亮一理事長をはじめとする LOM メンバーの皆様にご支援いただき、LOM の暖かさを痛感させられた一年でした。2013 年度は LOM の副理事長として活動させていただき、一宮青年会議所の組織の在り方、組織を運営する難しさをひしひしと感じ、多くのことを学ばせていただきました。

最後になりますが、5 年間という歳月ではありましたが青年会議所活動を通じて本当に多くの事を学ばせていただきました。また、すべての携わらせていただいた方々には本当にお世話になりました。これからはこの感謝の気持ちをずっと持ち続け、OB として一宮青年会議所の現役メンバーの皆様を陰ながら支援させていただく形で恩返しさせていただきたいと思います。本当にありがとうございました。

2013 年度卒業生



JC 活動を振り返って

梅谷 朋志

私の JC ライフは予定者期間を含め4年間という短い期間でした。しかし短くはありましたが充実した年月を遅らして頂きました。

2011 年には加藤貴恭君のもと事務局次長をさせて頂きました。当初は議事録作成に随分と苦勞し気持ちが折れそうになりましたが、加藤事務局長のお力添えと数をこなす事により要領を得て、何とか全うできたのではと思います。

またその年は日本青年会議所 OMOIYARI ネットワーク確立委員会に野々垣聡一郎君に誘われ出向しました。出向したことにより各種大会等での事務局次長としての理事長へのアテンド等が不十分になり村手先輩、藤野先輩、事務局長には多大な迷惑をかけてしまいました。しかしながら負担が増えるにも関わらず何一つ苦言もなく、快く出向を認めて頂き大変感謝しております。

委員会での担当部門は主に海外でした。5月のアメリカ会議に参加しましたが、これが私の JC へ対する大きな転機だったと思います。場所はカリブ海のキュラソー島という日本から24時間以上かかる所でしたが、『マイアミ集合で』と言われ一人で行く事になり不安一杯でした。出発の早朝、前日夜遅くまで事業等があったにも関わらず一宮駅に渉外委員会の坂東先輩と服部君が見送りに来てくれました。その時に JC の暖かさ、友情を実感する事が出来、随分と不安が和らいだ記憶を今も鮮明に覚えています。現地での活動は ON/OFF のメリハリがきっちりついた委員会でした。ON では現地での事業に参加する事により、海外での JC のスケールとステータスの大きさ、そして志の高さを体感する事ができ、OFF では今まで体験したことがない世界に触れることができたのも野々垣 VC のおかげで、JC に対して大きく前向きになった出来事でした。その後ベルギーでの世界会議で佐々先輩とジャパンナイトでのブース出展も良い思い出ですし、本年のアスパックでのブース出展に繋がったのではと思います。

2012年神戸先輩のもと渉外・広報委員長をさせて頂きました。神戸先輩の人柄と前年出来事があり引き受ける事にしました。委員会経験のない私でしたので不十分な委員会設営しかできませんでしたが、墨先輩・森功一郎君そして小寺セクレタリーに支えてもらい、松岡先輩・飯盛君・玉田君・戸松君に叱咤激励され、神戸先輩には最後まで庇って頂きました。そして各種大会等の出席率が高かったのも各委員長がしっかり委員会に落とし込みをして委員会メンバーを引っ張って参加して頂けたからこそだと思います。また至らぬ委員長にあるにも関わらず、最後まで見捨てず暖かく見守っていただいた木村亮一理事長にも感謝しております。みなさまの友情が積み重なり一年を全うすることができました。

4年間という短い間でしたが、みなさまには感謝してもしきれません。卒業する事となりますが、何か困った事がありましたら必ず声をかけて下さい。是非とも一宮青年会議所に恩返ししたいと思います。今後ともよろしくお願い致します。

2013 年度卒業生



JC 活動を振り返って

尾関 栄司

一宮で生まれながらあまり一宮のことを知らず、友人も少なかった私が、会社に入社と同時に 2001 年の上期に予定者として JC に入会。それまでは、会社が終わるとまっすぐに家に帰り家と会社を往復する生活だったのが一変、オリエンテーション、例会・総会、卒業予定者への贈りもの練習はもちろんのこと、50 周年記念事業への参加、シティーマラソンに対しての会議や設営と初年度から事業が盛りだくさんの年に当たったことや、上・下期予定者で 22 名もの仲間が増え大人数で飲み歩くことの楽しさも知り、元々騒ぐのが大好きだった私は家にまっすぐ帰ることはほぼ無くなりました。それから 13 年、子供で言えば小・中・高校を卒業出来るくらい長い時間を青年会議所というひとつの学び舎で過ごさせていただきました。

その間に自分がどのように変わったか、どのように成長したかは自分ではわかりません。わかるのは体重が 10kg 程増加したこと。そして、青年会議所に入会する前には無い、数多くの出会う機会、数多くの学び、数多くの経験が有ったということです。これは青年会議所に入会したからこそわかることであって、入会しなければわからない、真剣にやらなければわからない、その立場にならなければわからないことはいくつもあります。それを私は入会年度に教えられました。入会当初私は、訳もわからぬまま青年会議所活動に参加をし、指示されるがまま行動していたのですが、少し慣れてくると知ったかぶりの意見や批判や愚痴が出るもので、そんな考えを一喝していただいたのが、当時の卒業予定者の方でした。その方からは卒業されてからも色々なお話をいただきましたが、その中で「やってもない人間が文句を言うな。何事もやってから言え！」という言葉が私には一番響きました。「実際その事業に至るまでにどれだけの過程を踏んできたかもわからない、どれだけの苦労があったかもわからない、どれだけの時間を費やしてきたのかもわからない人間がそう簡単に事業に対して文句を言うものではない。文句を言えるのは同じような苦労をしてからでないと言う資格はないよ」と諭されました。そして、こうも付け加えられました。「理事の話があったらまず受けろ。やってもないのに大変かどうかなんてわからないだろ。やってから言え！」…真にありがたいお言葉でした。でも、その言葉を胸に刻みいろんな役職を受けさせていただきました。辛くなかったと言えば嘘になりますが、それ以上に楽しかったし、数多く得るものがありました。その言葉がなかったら今の自分は無かったと思います。本当に有意義な時間を過ごさせていただきました。

入会 8 年を迎えた年に会社の事情で一度退会させていただきました。その年の理事長はじめ色々なメンバーの方々に本当にご迷惑をおかけしました。しかし、会社あつての青年会議所活動。会社の立て直しに全力を注ぎたいため退会しました。その立て直しの際に、青年会議所で得た仲間が助けとなってくれたり、得た知識やネットワークが大いに役立ったりと、青年会議所での活動は会社にもフィードバックできるものだと思確信しました。今後は、今まで仕事や家族そっちのけで青年会議所活動に使ってきた時間を、会社のために家族のために使って早いとこ社会復帰をしたいと考えてます。

ありがとうございました。

2013 年度卒業生



JC 活動を振り返って

林 輝暢

JC活動を振り返ると、2003年にJCとはどんな団体かも分からず、「仕事に繋がるかも」「新たな友人が出来るかも」という今思えば打算的で気軽な気持ちで自らの意志で一宮青年会議所の門を叩き、国旗に向かい君が代を斉唱するメンバーを見てやばい宗教団体に来てしまったかもと焦り、何をやったのかよくわからないまま退会し、再入会したのが2010年でした。再入会のきっかけは、1度入会した時にすでにメンバーであった岩満誠くんでした。再入会を内諾したのは、飲みの席ではありましたが、出戻りで皆さんに認めてもらえるのかという不安と、少しでも仕事でお世話になっいる一宮の街に恩返しが出来ればという気持ちを強く持って再入会したのを今でも覚えています。

「奉仕」の志は再入会当初から持って入会しましたので、青年会議所活動に対して違和感はなく、スムーズに入っていくことができました。しかしながら、本年度に日本青年会議所へ副委員長として出向させて頂きましたが、そこで日本国への奉仕の志が養えたかどうかは疑問でございます。これは、私が本会とコミットする時間が1年という短い期間でありましたので、そこまでいけなかった様に思います。ぜひ、日本国への奉仕の精神を掴めるチャンスのある方は追及して頂きたいと思います。

「修練」。JCは常に修練ですね。パソコン・スピーチ・セミナー・議案・上からの無茶振り、その繰り返しであります。しかし、これを克服した者にのみ見えてくるものがあります。それは、議案やスピーチなど有形に関しては当然の様に上達しますが、さらに、無茶振りに対するコツが上手になります。言い換えれば、JCを渡り歩くコツとでもいいでしょうか……。とにかく、すべての事に真剣に向き合い、結果にこだわっていなければ、青年会議所の修練で得られたものは何もなかったと思いますし、その環境を与えてもらいそして、関わって頂きました方々に感謝の気持ちでいっぱいであります。

「友情」。利害関係のない中で人を動かす難しさ、これは初めて委員長を受けた時に実感し考えさせられました。会社の部下に対してや家庭の妻や子供に対してとは違い、上下関係の形成ができていません。それは私が思うに最も高度な方法でした。目的に向かって、一生懸命に頭と体を動かす事。それを見ている人は、必ず手を差し伸べてくれるものです。人を動かすのではなく、人の心を動かさなくてはいけないのです。私が、青年会議所活動で大切にしていた事が3つあります。「JCと真剣に向き合う」「JCの結果にこだわる」「JCを楽しむ」です。これを常に念頭におきながら行動すれば、自分のすべてが変化します。少なくとも、私は会社や家庭で使えるたくさんの学びを得ることが出来ました。「たかがJC、されどJC」、生かすも殺すも自分次第です。皆さん、頑張ってください！

2013 年度一般社団法人一宮青年会議所役員名簿

理事長	木村 憲彦
副理事長	横田 公一 (専務理事兼任)
副理事長	野杵 晃充 (総務室長兼任)
副理事長	野々垣 聡一郎 (拡大・交流室長兼任)
副理事長	戸松 稔貴 (社会開発室長兼任)
副理事長	野田 一郎 (研修室長兼任)
理事	服部 良太 (事務局長)
理事	坂井 純子 (渉外委員長)
理事	加藤 貴恭 (総務・広報委員長)
理事	浅田 佳寿優 (LOM の未来創造委員長)
理事	石川 佳照 (ひと・まち・未来創造委員長)
理事	森 功一郎 (経営力開発委員長)
理事	石川 昌臣 (人間力アカデミー委員長)
監事	小川 勝之
監事	尾関 栄司

2013 年度公益社団法人日本青年会議所出向メンバー

拡大委員会	副委員長	林 輝 暢
拡大委員会	幹事	石 黒 秀 幸
拡大委員会	委員	飯 盛 好 晃
拡大委員会	委員	梅 谷 朋 志
拡大委員会	委員	尾 上 宜 正
拡大委員会	委員	野々垣 聡一郎
拡大委員会	委員	森 一 彦
サマーコンファレンス運営委員会	委員	木 村 亮 一
サマーコンファレンス運営委員会	委員	稲 葉 崇

2013 年度公益社団法人日本青年会議所 東海地区協議会出向メンバー

輝く東海確立委員会	委員	尾関 栄 司
輝く東海確立委員会	委員	鈴木 強 司

2013 年度公益社団法人日本青年会議所 東海地区 愛知ブロック協議会出向メンバー

	監査担当役員	土 川 正 夫
ブロックアカデミー委員会	委員長	坂 倉 慶 信
ブロックアカデミー委員会	総括幹事	久 保 辰 也
ブロックアカデミー委員会	運営幹事	森 大 介
ブロックアカデミー委員会	会計幹事	野 村 一 磨
ブロックアカデミー委員会	委員	塚 本 浩 成
ブロックアカデミー委員会	委員	吉 田 悟
ブロックアカデミー委員会	委員	伊 東 大 徳
ブロックアカデミー委員会	委員	東 賢 吾
ブロックアカデミー委員会	委員	大 宮 有 貴
ブロックアカデミー委員会	委員	加 藤 武 志
ブロックアカデミー委員会	委員	青 山 広 己

ブロックアカデミー委員会	委員	加 古 川 和 也
ブロックアカデミー委員会	委員	平 松 道 介
ブロックアカデミー委員会	委員	伊 藤 基 児
ブロックアカデミー委員会	委員	大 宮 和 広
ブロックアカデミー委員会	委員	早 川 彰
躍動する愛知創造委員会	副委員長	玉 田 秀 志
躍動する愛知創造委員会	委員	小 寺 浩 至
事務局	幹事	川 島 達 司
事務局	幹事	今 井 拓 也
事務局	幹事	後 藤 徹

2013 年度西尾張 6JC 出向メンバー

夢エリア合同事業実行委員会	委員	浅 田 佳 寿 優
夢エリア合同事業実行委員会	委員	安 田 敏 宏

AVGとは各委員会の平均を示す

正副理事長					要出	アテン	欠席	出席率	LOMの未来創造委員会					要出	アテン	欠席	出席率	人間力アカデミー委員会					要出	アテン	欠席	出席率
28	木村 憲彦	38	0	0	100.0%	2	浅田佳寿優	53	0	0	100.0%	6	石川昌臣	49	0	3	94.2%									
70	横田 公一	51	0	0	100.0%	16	梅谷 朋志	32	0	5	86.5%	50	野田周平	25	0	11	69.4%									
48	野杵 晃充	50	0	1	98.0%	30	久保辰也	33	0	4	89.2%	64	森 一 彦	30	0	6	83.3%									
52	野々垣聡一郎	51	0	2	96.2%	1	青山 広己	27	0	10	73.0%	11	伊藤基児	15	0	21	41.7%									
47	戸松 稔貴	54	0	0	100.0%	17	大 島 航	27	0	10	73.0%	18	大宮和広	28	0	8	77.8%									
49	野田 一郎	51	0	0	100.0%	4	飯盛好晃	33	0	5	86.8%	55	早 川 彰	13	0	23	36.1%									
	AVG				99.0%	32	後 藤 徹	28	0	9	75.7%	3	足立洋一	18	0	18	50.0%									
監 事					要出	アテン	欠席	出席率	40	竹 山 聡	22	0	15	59.5%	29	木村亮一	26	0	10	72.2%						
20	小川勝之	35	0	3	92.1%	68	安田敏宏	24	0	13	64.9%	33	小松明生	24	0	12	66.7%									
22	尾関 栄司	26	0	12	68.4%		AVG				78.7%	36	坂倉慶信	18	0	13	58.1%									
	AVG				80.3%	ひと・まち・未来創造委員会					要出	アテン	欠席	出席率		AVG				65.0%						
事務局					要出	アテン	欠席	出席率	7	石川佳照	52	0	2	96.3%												
54	服 部 良太	38	0	0	100.0%	39	高月英昭	36	0	2	94.7%															
42	塚本 浩成	13	0	9	59.1%	51	野田敏弘	37	0	1	97.4%															
71	吉 田 悟	14	0	8	63.6%	23	尾上 宜正	37	0	1	97.4%															
	AVG				74.2%	27	川島達司	27	0	11	71.1%															
渉外委員会					要出	アテン	欠席	出席率	34	酒井真一郎	33	0	5	86.8%												
35	坂井田純子	50	0	1	98.0%	38	鈴木昌弘	27	0	11	71.1%															
59	福田 晋也	31	0	4	88.6%	60	松田樹直	24	0	14	63.2%															
66	森 大 介	22	0	13	62.9%		AVG				84.7%															
9	伊藤尚弘	9	0	26	25.7%	経営力開発委員会					要出	アテン	欠席	出席率												
10	伊東大徳	25	0	10	71.4%	65	森 功 一 郎	52	0	0	100.0%															
57	東 賢 吾	25	0	10	71.4%	43	土川 功介	33	0	3	91.7%															
5	池戸英嗣	4	0	31	11.4%	56	林 輝 暢	21	0	12	63.6%															
12	稲 葉 崇	27	0	8	77.1%	8	石黒秀幸	18	0	18	50.0%															
46	樋田昌泰	27	0	8	77.1%	24	加古川和也	22	0	13	62.9%															
67	安井祥人	30	0	5	85.7%	58	平松道介	24	0	11	68.6%															
69	山崎義則	20	0	15	57.1%	31	小寺浩至	16	0	20	44.4%															
	AVG				66.1%	41	玉田秀志	17	0	16	51.5%															
総務・広報委員会					要出	アテン	欠席	出席率	44	土川正夫	20	0	13	60.6%												
25	加藤貴恭	47	0	4	92.2%	61	眞野尚人	30	0	6	83.3%															
53	野村一磨	30	0	5	85.7%		AVG				67.7%															
63	村井伸仁	17	0	18	48.6%																					
19	大宮有貴	20	0	15	57.1%																					
26	加藤武志	23	0	12	65.7%																					
13	今井拓也	29	0	6	82.9%																					
14	岩 満 誠	22	0	13	62.9%																					
15	鵜飼謙嘉	11	0	24	31.4%																					
21	小川嘉信	4	0	31	11.4%																					
37	鈴木強司	23	0	12	65.7%																					
	AVG				60.4%																					

貸借対照表
2013年 12月 31日 現在

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	39,357,064	45,992,076	△ 6,635,012
未収金	502,046	0	502,046
前渡金	7,962	7,700	262
流動資産合計	39,867,072	45,999,776	△ 6,132,704
2. 固定資産			
(3)その他固定資産	262,647	466,440	△ 203,793
その他固定資産合計	262,647	466,440	△ 203,793
固定資産合計	262,647	466,440	△ 203,793
資産合計	40,129,719	46,466,216	△ 6,336,497
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	0	313,564	△ 313,564
前受金	162,000	122,000	40,000
預り金	14,360	0	14,360
流動負債合計	176,360	435,564	△ 259,204
負債合計	176,360	435,564	△ 259,204
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産	0	0	0
2. 一般正味財産	39,953,359	46,030,652	△ 6,077,293
正味財産合計	39,953,359	46,030,652	△ 6,077,293
負債及び正味財産合計	40,129,719	46,466,216	△ 6,336,497

法人コード	A020459
法人名	一般社団法人－富青年会議所

正味財産増減計算書
2013年1月4日から2013年12月31日まで

(単位:円)

科 目	実施事業等会計						その他会計						法人会計	内部取引控除	合計
	継1	〇2	〇3	〇4	共通	小計	他1	他2	他3	その他	共通	小計			
I 一般正味財産増減の部															
1. 経常増減の部															
(1)経常収益															
受取入会金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	330,000	0	330,000
受取入会金			0	0	0	0						0	330,000		330,000
受取会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10,203,000	0	10,203,000
正会員受取会費						0						0	8,698,000		8,698,000
予定者登録料						0						0	1,020,000		1,500,000
賛助会員受取会費						0						0	45,000		45,000
特別会員受取会費						0						0	440,000		240,000
事業収益	150,000	0	0	0	0	150,000	30,000	0	0	0	0	30,000	0	0	180,000
登録料収益	0					0	30,000					30,000			30,000
協賛金収入	150,000					150,000						0			150,000
受取補助金等	303,000	0	0	0	0	303,000	0	0	0	0	0	0	0	0	303,000
受取地方公共団体補助金	303,000					303,000						0			303,000
雑収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	597,237	0	597,237
受取利息						0						0	7,319		7,319
雑収益						0						0	589,918		589,918
経常収益計	453,000	0	0	0	0	453,000	30,000	0	0	0	0	30,000	11,130,237	0	11,613,237
(2)経常費用															
事業費	8,957,698	0	0	0	0	8,957,698	1,479,695	0	0	0	0	1,479,695		0	10,437,393
会場設営費	3,392,893					3,392,893	460,255					460,255			3,853,148
講師関係費	3,761,764					3,761,764						0			3,761,764
印刷製本費	71,500					71,500	525,561					525,561			597,061
懇親会費	0					0	0					0			0
旅費交通費	0					0	0					0			0
広報費	1,187,268					1,187,268	328,575					328,575			1,515,843
参加記念品	115,693					115,693	100,449					100,449			216,142
通信費	52,430					52,430	12,120					12,120			64,550
保険料	35,500					35,500	11,340					11,340			46,840
雑費	340,650					340,650	41,395					41,395			382,045
管理費													5,080,544	0	5,080,544
会議費													166,150		166,150
地代家賃													1,197,000		1,197,000
光熱水料費													36,000		36,000
給与手当													1,200,000		1,200,000
旅費交通費													980		980
福利厚生費													19,860		19,860
通信運搬費													290,817		290,817
消耗品費													362,366		362,366
印刷製本費													270,150		270,150
賃借料													96,000		96,000
減価償却費													203,793		203,793
会計監査手数料													472,500		472,500
国内国際渉外費													250,000		250,000
慶弔費													167,100		167,100
交際費													10,000		10,000
雑費													337,828		337,828
負担金													2,172,593		2,172,593
JCI負担金													63,332		63,332
日本JC負担金													872,502		872,502
国際協力資金													129,575		129,575
東海地区協議会負担金													177,500		177,500
愛知ブロック協議会負担金													835,184		835,184
その他負担金													94,500		94,500
経常費用計	8,957,698	0	0	0	0	8,957,698	1,479,695	0	0	0	0	1,479,695	7,253,137	0	17,690,530
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 8,504,698	0	0	0	0	△ 8,504,698	△ 1,449,695	0	0	0	0	△ 1,449,695	3,877,100	0	△ 6,077,293
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	△ 8,504,698	0	0	0	0	△ 8,504,698	△ 1,449,695	0	0	0	0	△ 1,449,695	3,877,100	0	△ 6,077,293
当期一般正味財産増減額	△ 8,504,698	0	0	0	0	△ 8,504,698	△ 1,449,695	0	0	0	0	△ 1,449,695	3,877,100	0	△ 6,077,293
一般正味財産期首残高	0					0	0					0	46,030,652		46,030,652
一般正味財産期末残高	△ 8,504,698	0	0	0	0	△ 8,504,698	△ 1,449,695	0	0	0	0	△ 1,449,695	49,907,752	0	39,953,359
Ⅲ 正味財産期末残高	△ 8,504,698	0	0	0	0	△ 8,504,698	△ 1,449,695	0	0	0	0	△ 1,449,695	49,907,752	0	39,953,359

財務諸表に対する注記

1 重要な会計方針

(1) 当期から「公益法人会計基準」(平成16年10月14日 公益法人等の指導監督等に関する関係省庁 連絡会議申し合わせ)を採用している。

(2) 消費税の会計処理等

税込処理を採用している。

(3) 固定資産の減価償却の方法

工具器具備品の減価償却は、定率法を採用している。

2 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び残高は次のとおりである。

(単位:円)

科目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
工具器具備品	764,295	501,648	262,647
合計	764,295	501,648	262,647

財産目録
2013年 12月 31日 現在

(単位：円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1. 流動資産		0	
現金		66,807	
預金			
三菱東京UFJ銀行一宮支店 当座預金	1,141,705		
いちい信用金庫一宮支店 当座預金	1,654,242		
尾西信用金庫本店営業部 当座預金	1,046,222		
三菱東京UFJ銀行一宮支店 普通預金	650,644		
いちい信用金庫一宮支店 普通預金	4,295,385		
尾西信用金庫本店営業部 普通預金	411		
三菱東京UFJ銀行一宮支店 定期預金	10,000,000		
いちい信用金庫一宮支店 定期預金	10,000,000		
尾西信用金庫本店営業部 定期預金	10,000,000	38,788,609	
前渡金			
・京都会議事前登録料		7,962	
未収入金			
渉外委員会 事業計画3 余剰金	1,685		
総務・広報委員会 事業計画10 余剰金	1,500		
総務・広報委員会 事業計画11 余剰金	4,480		
LOMの未来創造委員会 事業計画4 余剰金	90,934		
ひと・まち・未来創造委員会 事業計画2 余剰金	38,950		
ひと・まち・未来創造委員会 事業計画4 余剰金	248,162		
ひと・まち・未来創造委員会 事業計画3 余剰金	85,635		
人間力アカデミー委員会 事業計画2 余剰金	9,860		
人間力アカデミー委員会 事業計画4 余剰金	15,860		
人間力アカデミー委員会 事業計画5 余剰金	4,120		
人間力アカデミー委員会 事業計画6 余剰金	860	502,046	
流動資産合計			39,365,424
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産合計	0		
(2) 特定資産			
尾西信用金庫本店営業部 普通預金	501,648		
特定資産合計		501,648	
(3) その他固定資産			
エアコン	206,690		
パソコン	55,957		
その他固定資産合計		262,647	
固定資産合計			764,295
資産合計			40,129,719
II 負債の部			
1. 流動負債			
前受金			
LOM基本資料 平松利英様	3,000		
LOM基本資料 早川一三様	3,000		
LOM基本資料 尾上幸正様	3,000		
LOM基本資料 土川良平様	3,000		
LOM基本資料 墨大輔様	3,000		
LOM基本資料 村手誠様	3,000		
LOM基本資料 神戸秀雄様	3,000		
LOM基本資料 森幹昇様	3,000		
LOM基本資料 小林正人様	3,000		
LOM基本資料 桑原英寿様	3,000		
LOM基本資料 西岡規男様	3,000		
LOM基本資料 森義廣様	3,000		
LOM基本資料 坂東由邦様	3,000		
LOM基本資料 鈴木忠行様	3,000		
2014年度年会費 尾関利規	120,000	162,000	
預り金		14,360	
流動負債合計			176,360
2. 固定負債			
固定負債合計			0
負債合計			176,360
III 正味財産			39,953,359

収支計算書

2013年 1月 4日 から2013年 12月 31日 まで

(単位：円)

科 目	決 算 額
I 事業活動収支の部	
1. 事業活動収入	
①入会金収入	
入会金収入	330,000
②会費収入	
正会員会費収入	8,698,000
予定者登録料	1,020,000
特別会員会費収入	440,000
賛助会員会費収入	45,000
会費収入計	10,203,000
③事業収入	
登録料収入	30,000
協賛金収入	150,000
事業収入計	180,000
④補助金収入	
補助金収入計	303,000
事業収入計	303,000
⑤雑収入	
受取利息収入	7,319
雑収入	589,918
雑収入計	597,237
事業活動収入合計	11,613,237
2. 事業活動支出	
①事業費支出	
渉外委員会	154,339
総務・広報委員会	1,040,056
LOMの未来創造委員会	2,259,066
ひと・まち・未来創造委員会	4,280,253
経営力開発委員会	2,199,879
人間力アカデミー委員会	255,300
西尾張6JC合同例会費	248,500
事業費支出計	10,437,393
②管理費支出	
会議費支出	166,150
地代家賃支出	1,197,000
光熱水料費支出	36,000
給料手当支出	1,200,000
旅費交通費支出	980
福利厚生費支出	19,860
通信運搬費支出	290,817
消耗品費支出	362,366
印刷製本費支出	270,150
賃借料支出	96,000
会計監査手数料	472,500
国内国際渉外費	250,000
慶弔費	167,100
交際費支出	10,000
負担金支出	2,172,593
雑支出	337,828
管理費支出計	7,049,344
事業活動支出合計	17,486,737
事業活動収支差額	△ 5,873,500
II 事業活動外支出	0
III 固定資産取得支出	
1. 投資活動収入	0
投資活動収入合計	0
2. 投資活動支出	
①特定資産取得支出	
減価償却引当資産取得支出	203,793
投資活動支出計	203,793
当期収支差額	△ 6,077,293
前期繰越収支差額	46,030,652
次期繰越収支差額	39,953,359

2014 年 1 月 7 日

一般社団法人一宮青年会議所
理事長 野村 晃充 殿

一般社団法人一宮青年会議所
監事 小川 勝之 
監事 尾関 栄司 
監事 木村 亮一 
監事 横田 公一 

監査報告書

私たち監事は、平成 25 年 1 月 4 日から平成 25 年 12 月 31 日までの事業年度の事業報告書並びに貸借対照表、損益計算書(正味財産増減計算書のことをいい、正味財産増減計算書内訳表を含む。)、その附属明細書及び財産目録(以下、「財務諸表」という。)に関する監査をいたしました。また、併せて公益目的支出計画実施報告書に関する監査をいたしました。

監査意見

(1) 事業報告の監査結果

事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認める。

(2) 財務諸表の監査結果

財務諸表は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。

(3) 公益目的支出計画実施報告書の監査結果

公益目的支出計画実施報告書は、法令及び定款に従い、法人の公益目的支出計画の実施の状況を正しく示しているものと認めます。